

# 第3章

## 介護保険サービス利用に関する調査

### < 調査概要 >

調査方法	郵送配布－郵送回収
調査対象者	65歳以上の要介護認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民 (令和元年11月1日現在)
抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出
調査期間	令和元年12月6日～12月26日
対象者数 及び 回収率	対象者数：1,400 有効回収数：808 有効回収率：57.7%



# 1 基本属性

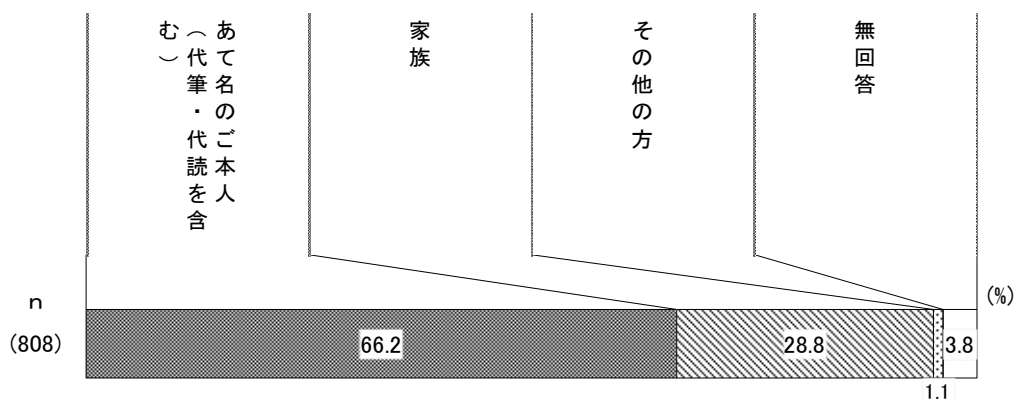
## (1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

問2 あなた(あて名のご本人)の性別、令和元年12月1日現在の満年齢をお答えください。

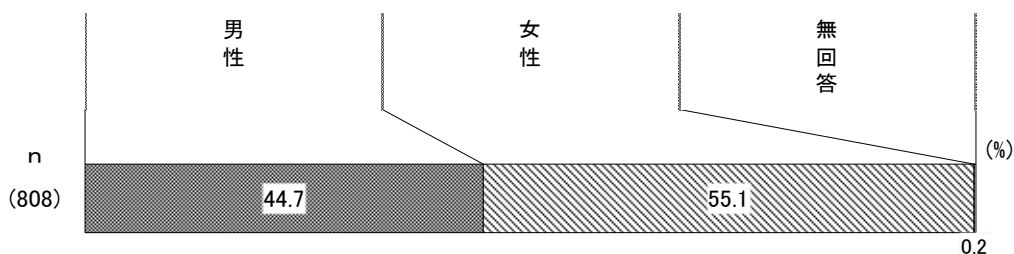
調査回答者は、「あて名のご本人(代筆・代読を含む)」が66.2%となっている。

図表 1-1 調査回答者(単数回答)



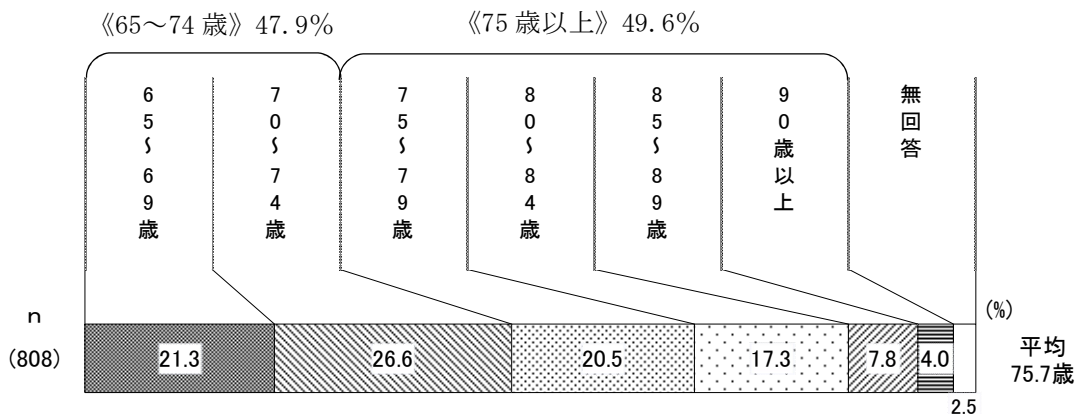
性別は、「男性」が44.7%、「女性」が55.1%と、女性の方が約10ポイント高い。

図表 1-2 性別(単数回答)



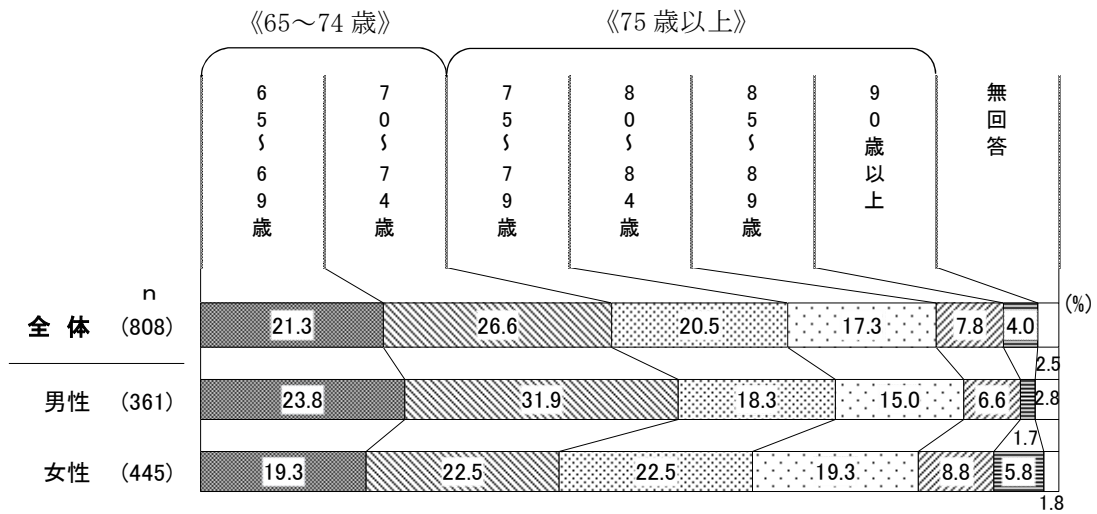
年齢は、「65~69歳」が21.3%で、「70~74歳」が26.6%と最も高く、これらを合わせた《65~74歳》は47.9%となっている。一方、「75~79歳」(20.5%)、「80~84歳」(17.3%)、「85~89歳」(7.8%)、「90歳以上」(4.0%)を合わせた《75歳以上》は49.6%である。平均は75.7歳となっている。

図表 1-3 現在の満年齢(単数回答)



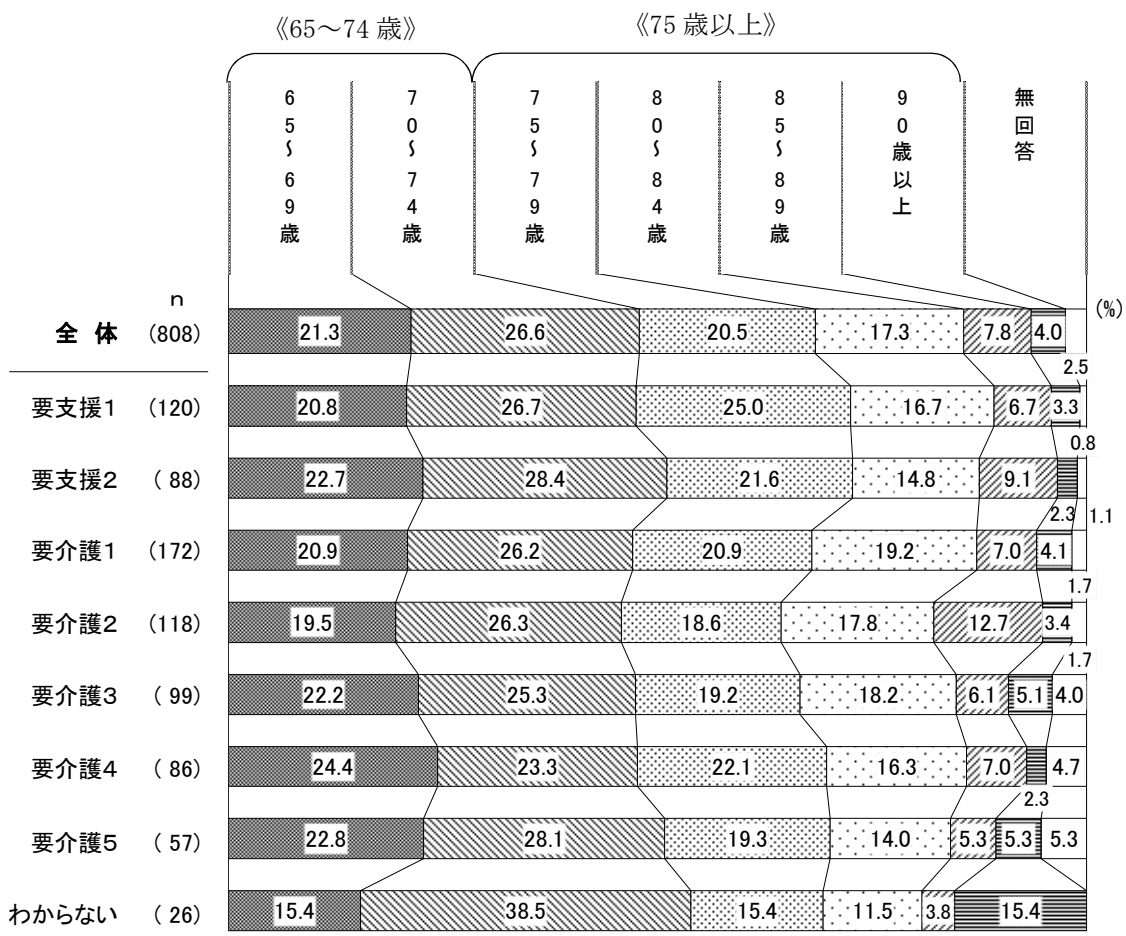
性別でみると、《65～74歳》は男性で55.7%となっており、女性よりも約14ポイント高くなっている。一方、《75歳以上》は女性で56.4%となっており、男性よりも約15ポイント高い。

図表 1-4 現在の満年齢／性別



要介護度別でみると、いずれの要介護度でも《65～74歳》と《75歳以上》がおおむね半々である。

図表 1-5 現在の満年齢／要介護度別



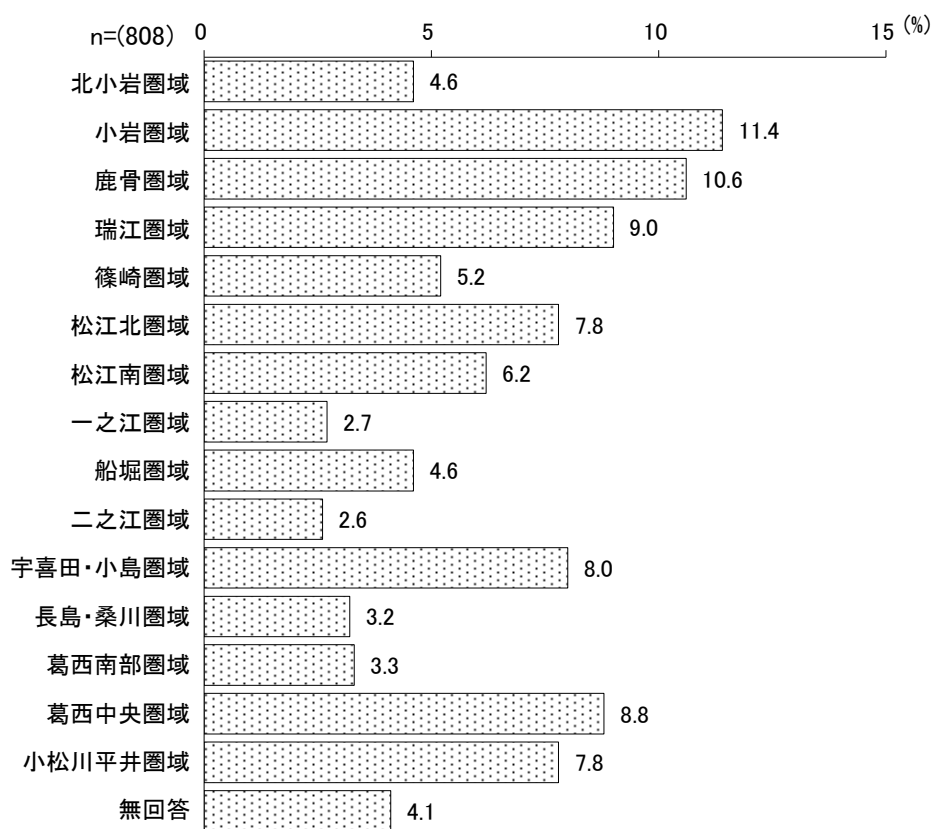
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (2) 居住地（日常生活圏域）

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。  
 丁目がない場合は、町名だけ記入してください。 【比較調査251頁参照】

居住地（日常生活圏域）は、「小岩圏域」が11.4%で最も高く、次いで「鹿骨圏域」が10.6%となっている。このほか、「瑞江圏域」が9.0%、「葛西中央圏域」が8.8%、「宇喜田・小島圏域」が8.0%、「松江北圏域」と「小松川平井圏域」が7.8%と約1割でおおむね並んでいる。

図表 1-6 居住地（日常生活圏域）（単数回答）



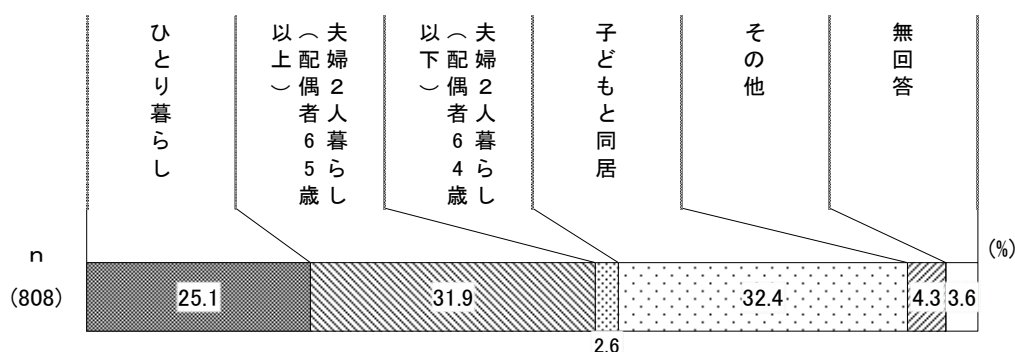
### (3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

【比較調査252頁参照】

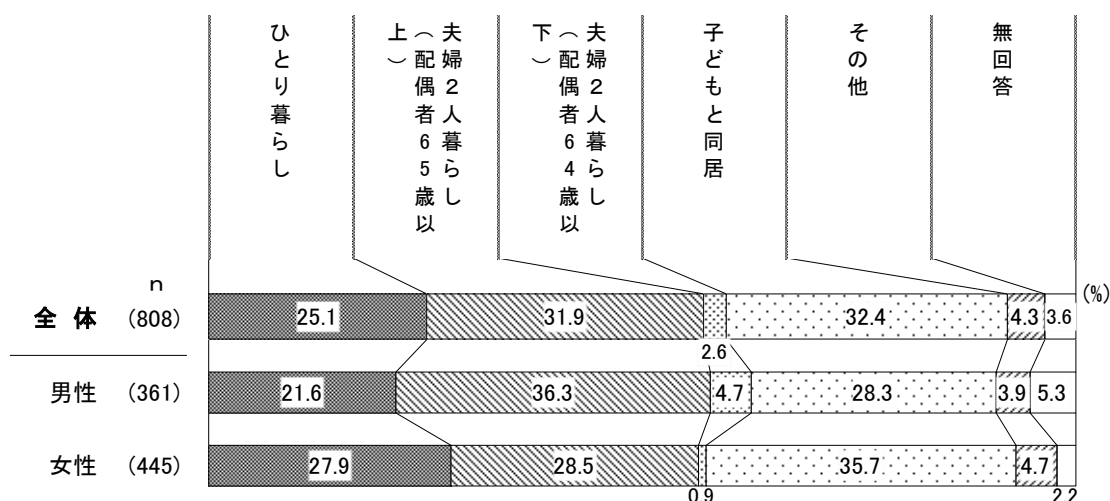
世帯構成は、「子どもと同居」が32.4%、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が31.9%とおおむね並んで高く、次いで「ひとり暮らし」が25.1%となっている。

図表1-7 世帯構成(単数回答)



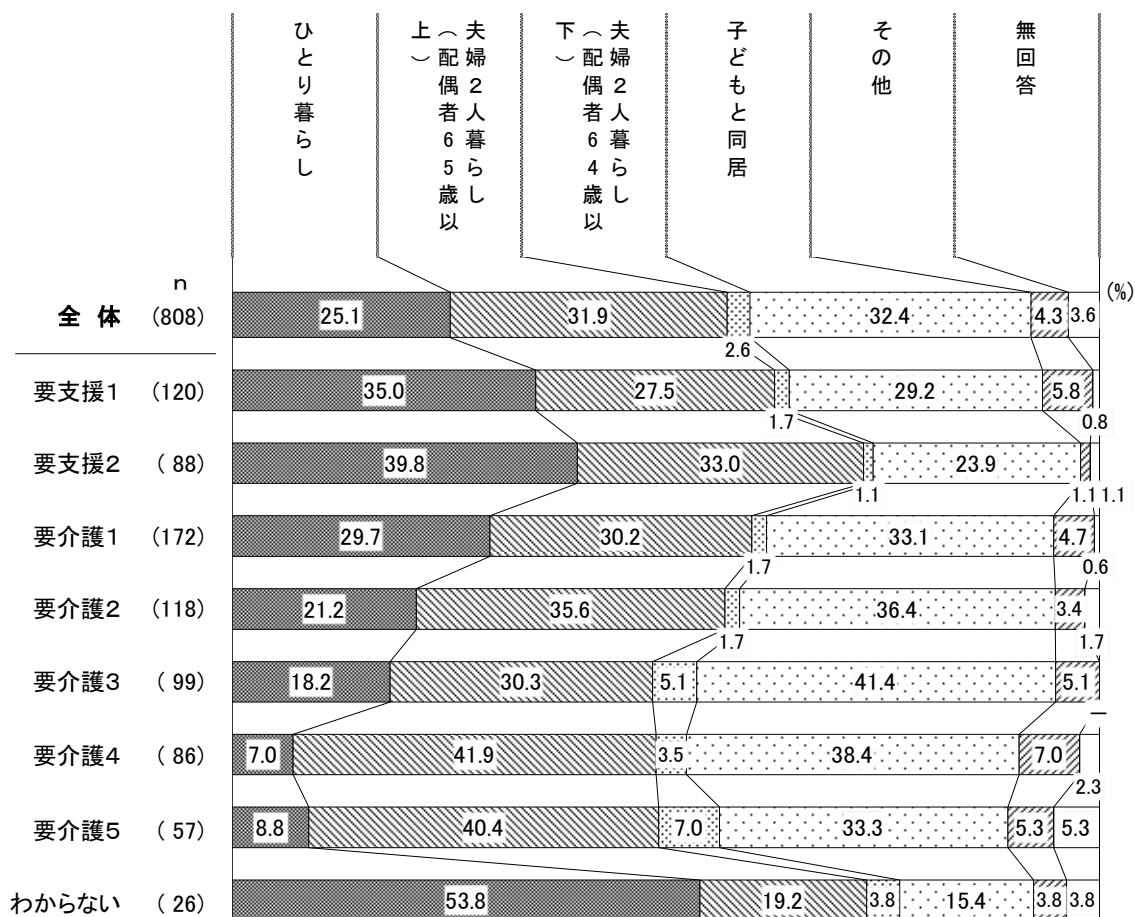
性別でみると、「ひとり暮らし」は女性の方が男性よりも約6ポイント高く、「子どもと同居」でも女性は約7ポイント上回る。一方、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」は、男性が約8ポイント高くなっている。

図表1-8 世帯構成/性別



要介護度別でみると、要支援1、要支援2では「ひとり暮らし」が高く、要介護1以上になると「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」か「子どもと同居」が高くなっている。

図表 1-9 世帯構成／要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

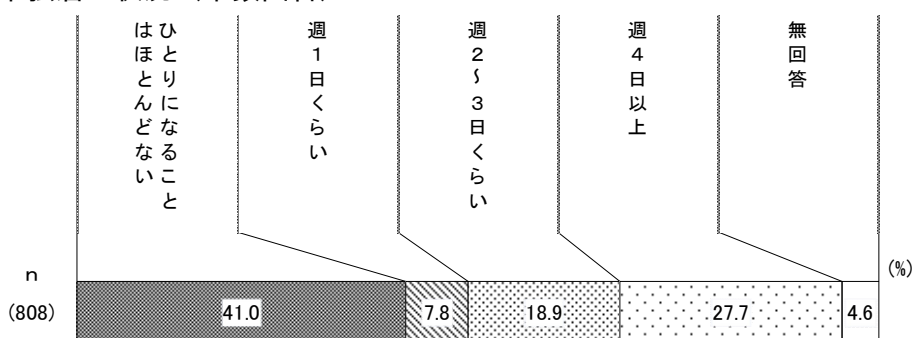
#### (4) 日中独居の状況

問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりであることがどのくらいありますか。

(1つに〇)

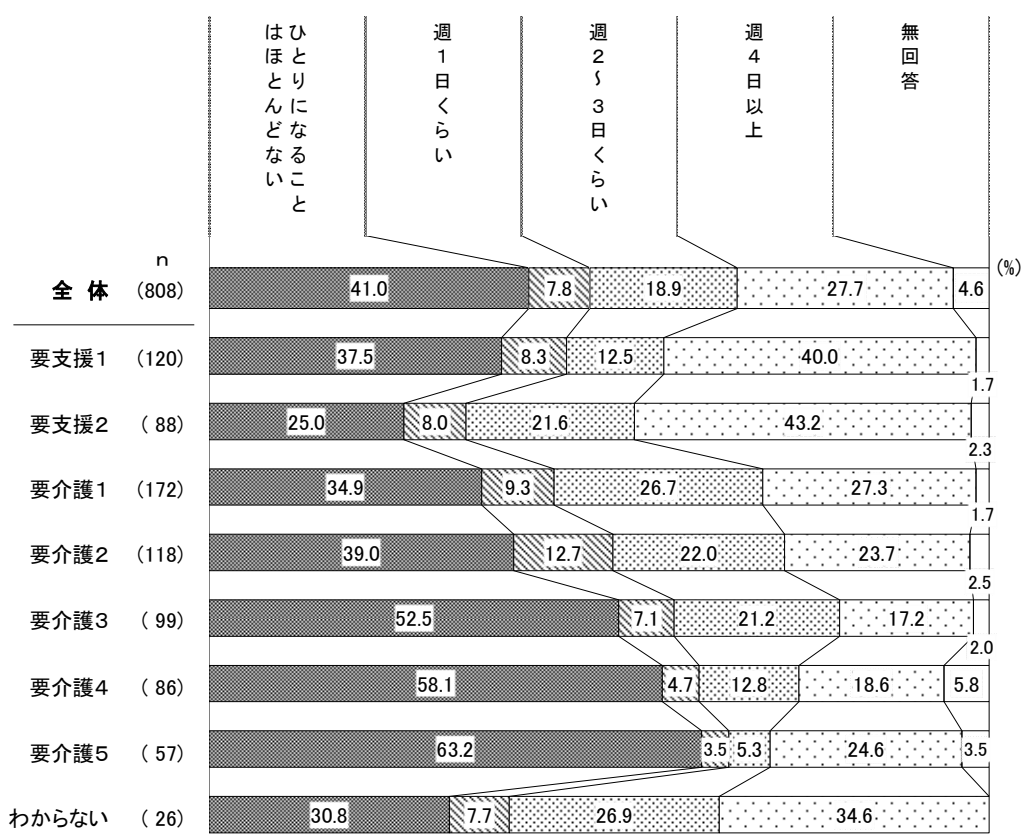
日中独居の状況は、「ひとりになることはほとんどない」が41.0%で最も高くなっている。その一方、「週2～3日くらい」が18.9%、「週4日以上」が27.7%みられる。

図表1-10 日中独居の状況(単数回答)



要介護度別でみると、「ひとりになることはほとんどない」は、要介護度が上がるほど、高くなり、要介護3以上で5割以上となっている。一方、「週4日以上」は要支援1と要支援2で4割台である。

図表1-11 日中独居の状況/要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

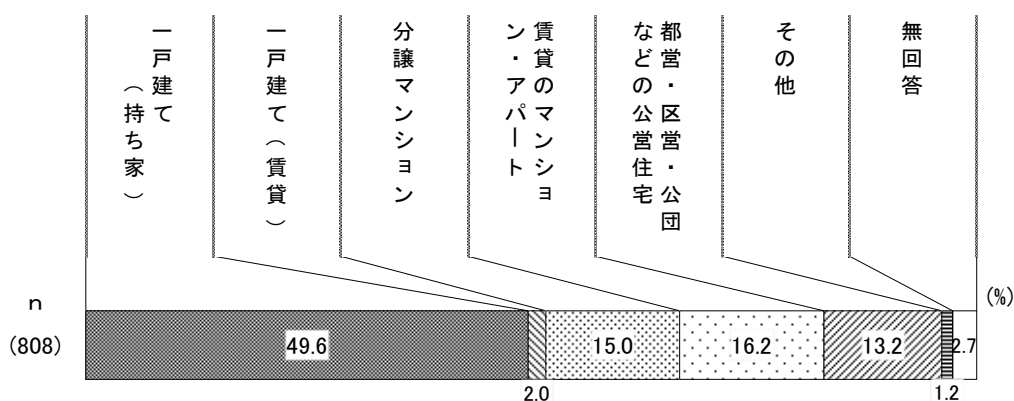


## (5) 住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」が49.6%で最も高くなっている。次いで「賃貸のマンション・アパート」が16.2%、「分譲マンション」が15.0%、「都営・区営・公団などの公営住宅」が13.2%でおおむね並んでいる。

図表 1-12 住居の形態 (単数回答)

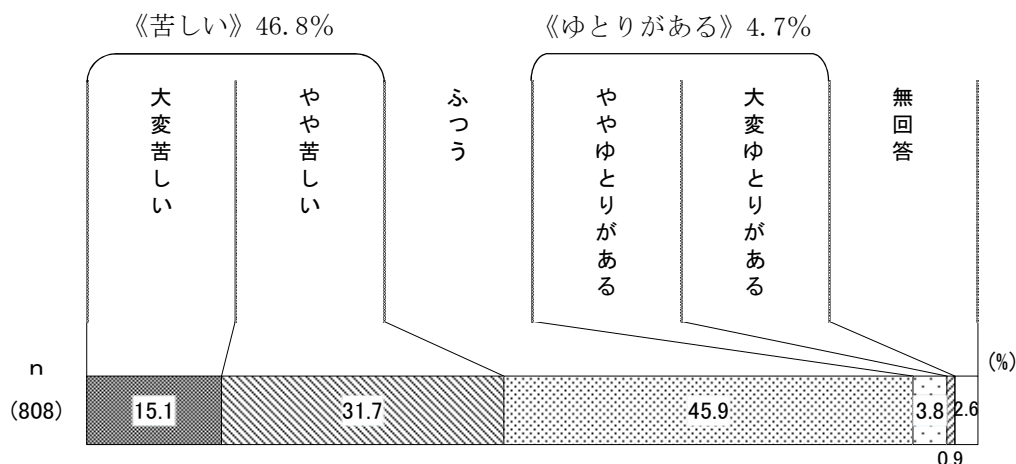


## (6) 経済的にみた現在の暮らしの状況

問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

経済的にみた現在の暮らしの状況は、「大変苦しい」が15.1%、「やや苦しい」が31.7%で、これらを合わせた《苦しい》は46.8%となっている。「ふつう」が45.9%と最も高く、「ややゆとりがある」(3.8%)と「大変ゆとりがある」(0.9%)を合わせた《ゆとりがある》は4.7%である。

図表 1-13 経済的にみた現在の暮らしの状況 (単数回答)



## 2 介護度及び介護が必要になった原因について

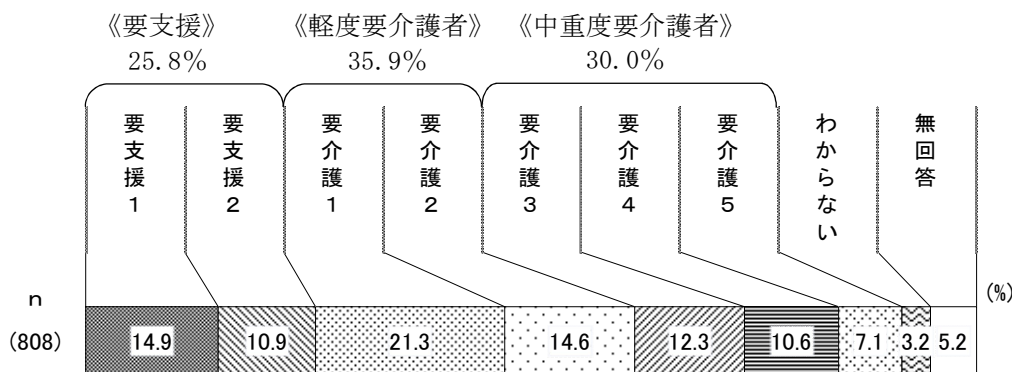
### (1) 要介護度

問8 あなた(あて名のご本人)の現在の介護度は、次のどれですか。(1つに○)

要介護度は、「要介護1」が21.3%で最も高く、次いで「要支援1」が14.9%、「要介護2」が14.6%などとなっている。

「要支援1」と「要支援2」(10.9%)を合わせた《要支援》は25.8%、「要介護1」と「要介護2」を合わせた《軽度要介護者》は35.9%、「要介護3」(12.3%)、「要介護4」(10.6%)、「要介護5」(7.1%)を合わせた《中重度要介護者》は30.0%である。

図表2-1 要介護度 (単数回答)

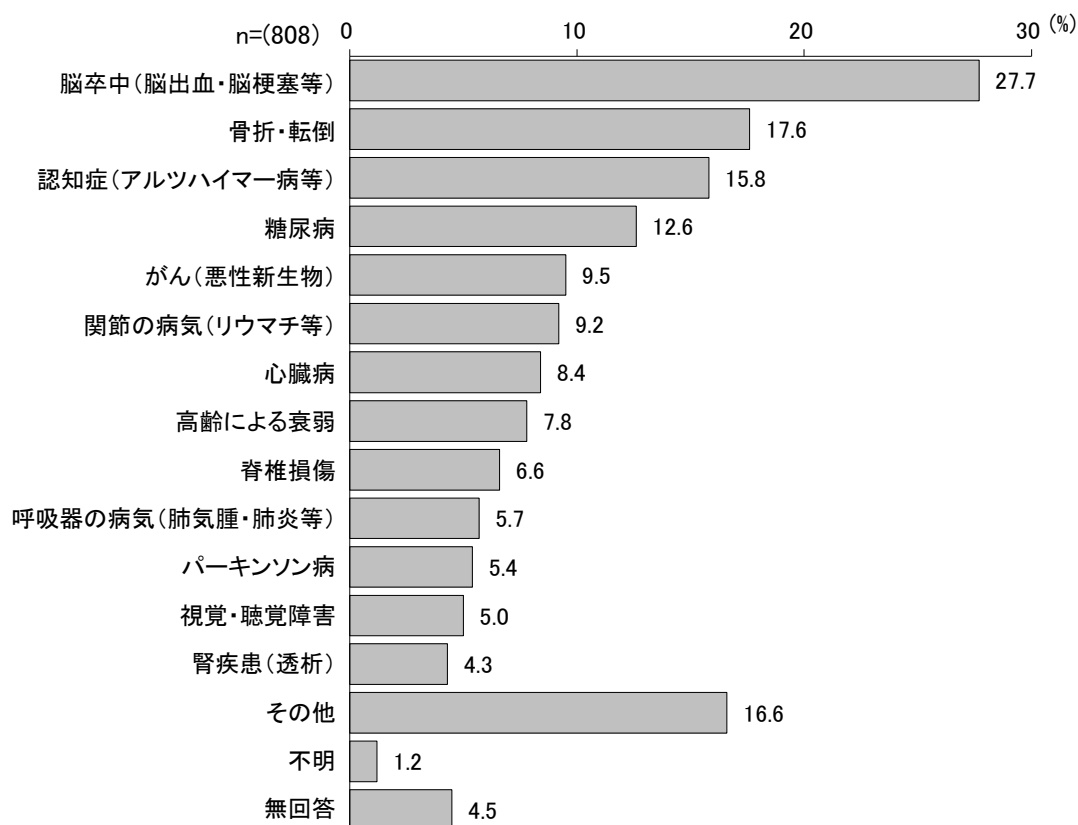


## (2) 支援や介護が必要となった原因

問9 あなた(あて名のご本人)に、支援や介護が必要となったのは、どのようなことが原因でしたか。(あてはまるものすべてに○)

支援や介護が必要となった原因は、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が27.7%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が17.6%、「認知症(アルツハイマー病等)」が15.8%、「糖尿病」が12.6%などとなっている。

図表 2-2 支援や介護が必要となった原因(複数回答)



要介護度別でみると、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」は、要介護5で49.1%と最も高く、次いで要介護3で42.4%となっている。「認知症（アルツハイマー病等）」は、要介護3以上で2割台半ばから約3割となっている。

図表2-3 支援や介護が必要となった原因／要介護度別

	n(人)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	骨折・転倒	認知症(アルツハイマー病等)	糖尿病	がん(悪性新生物)	関節の病気(リウマチ等)	心臓病	高齢による衰弱	脊椎損傷	呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	パーキンソン病	視覚・聴覚障害	腎疾患(透析)	その他	
全体	808	27.7	17.6	15.8	12.6	9.5	9.2	8.4	7.8	6.6	5.7	5.4	5.0	4.3	16.6	
要介護度別	要支援1	120	17.5	20.0	7.5	14.2	10.0	13.3	7.5	8.3	10.0	9.2	0.8	4.2	2.5	18.3
	要支援2	88	19.3	19.3	1.1	9.1	8.0	21.6	8.0	10.2	8.0	2.3	3.4	3.4	1.1	22.7
	要介護1	172	31.4	16.3	16.9	14.0	11.0	7.6	8.7	8.7	5.2	7.0	2.9	8.1	3.5	18.0
	要介護2	118	24.6	22.9	17.8	12.7	16.1	5.9	10.2	11.0	6.8	5.1	7.6	5.9	9.3	17.8
	要介護3	99	42.4	17.2	26.3	10.1	7.1	5.1	9.1	7.1	6.1	4.0	11.1	5.1	2.0	8.1
	要介護4	86	30.2	20.9	25.6	15.1	4.7	9.3	8.1	4.7	10.5	2.3	9.3	4.7	4.7	17.4
	要介護5	57	49.1	8.8	29.8	12.3	3.5	3.5	7.0	5.3	-	5.3	10.5	1.8	8.8	15.8
	わからない	26	3.8	11.5	7.7	7.7	7.7	3.8	11.5	3.8	-	7.7	3.8	-	11.5	23.1

※設問の「不明」「無回答」は掲載を省略している

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

### 3 健康や医療の状況について

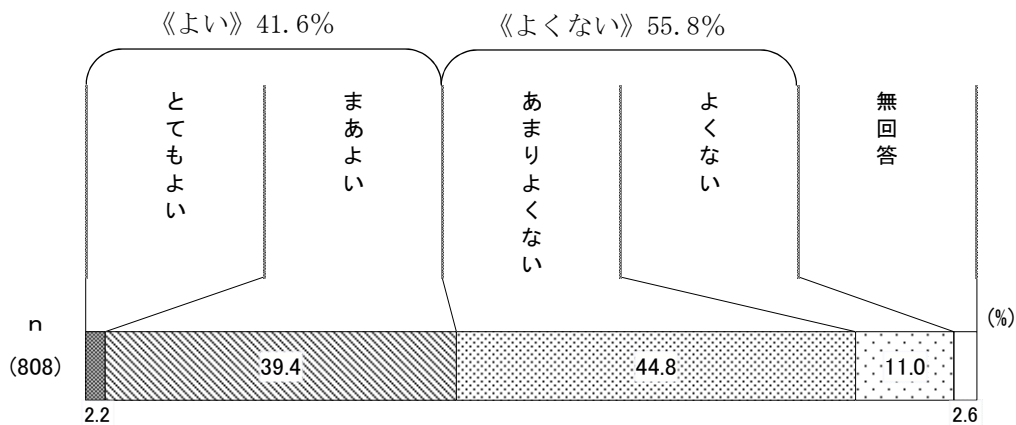
#### (1) 健康状態

問10 現在のあなた(あて名のご本人)の健康状態はいかがですか。

(1つに○)【比較調査253頁参照】

健康状態は、「とてもよい」が2.2%、「まあよい」が39.4%で、これらを合わせた《よい》は41.6%である。一方、「あまりよくない」が44.8%で最も高く、「よくない」(11.0%)を合わせた《よくない》は55.8%となっている。

図表3-1 健康状態(単数回答)



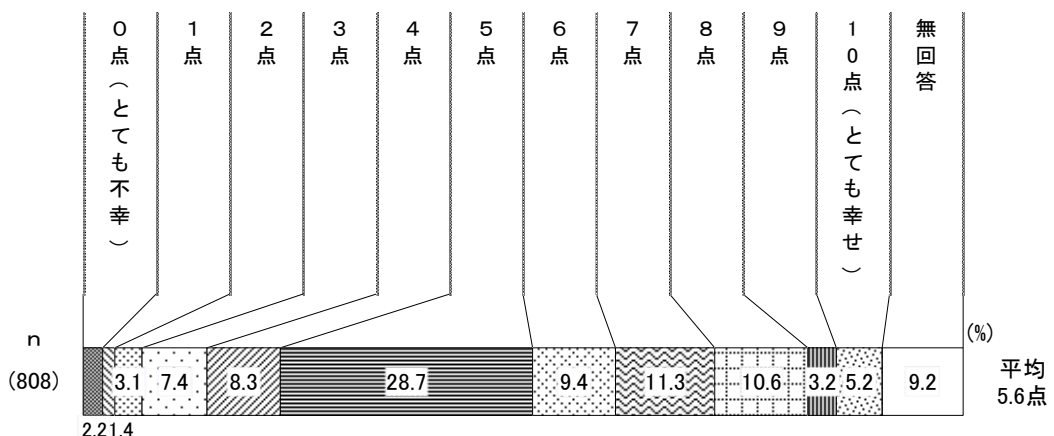
#### (2) 現在の幸福度

問11 あなた(あて名のご本人)は、現在どの程度幸せですか。(点数に○)

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在の幸福度は、「5点」が28.7%で最も高くなっている。次いで「7点」が11.3%、「8点」が10.6%、「6点」が9.4%、「4点」が8.3%と1割前後でおおむね並んでいる。平均は、5.6点である。

図表3-2 現在の幸福度(単数回答)



### (3) こころの健康とうつ傾向

問12 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。  
(1つに○)

問13 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つに○)

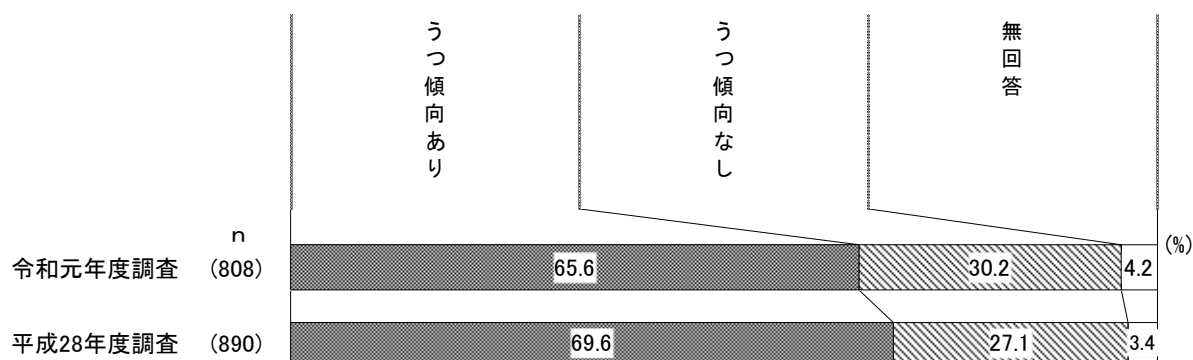
設問内容	選択肢	
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい	58.0%
	2. いいえ	36.3%
	無回答	5.7%
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい	53.2%
	2. いいえ	40.8%
	無回答	5.9%

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、うつ傾向を問うものとされており、いずれか1つでも「はい」が回答された場合は、うつ傾向のある高齢者と考えられている。

その割合を算出したところ、「うつ傾向あり」は65.6%である。

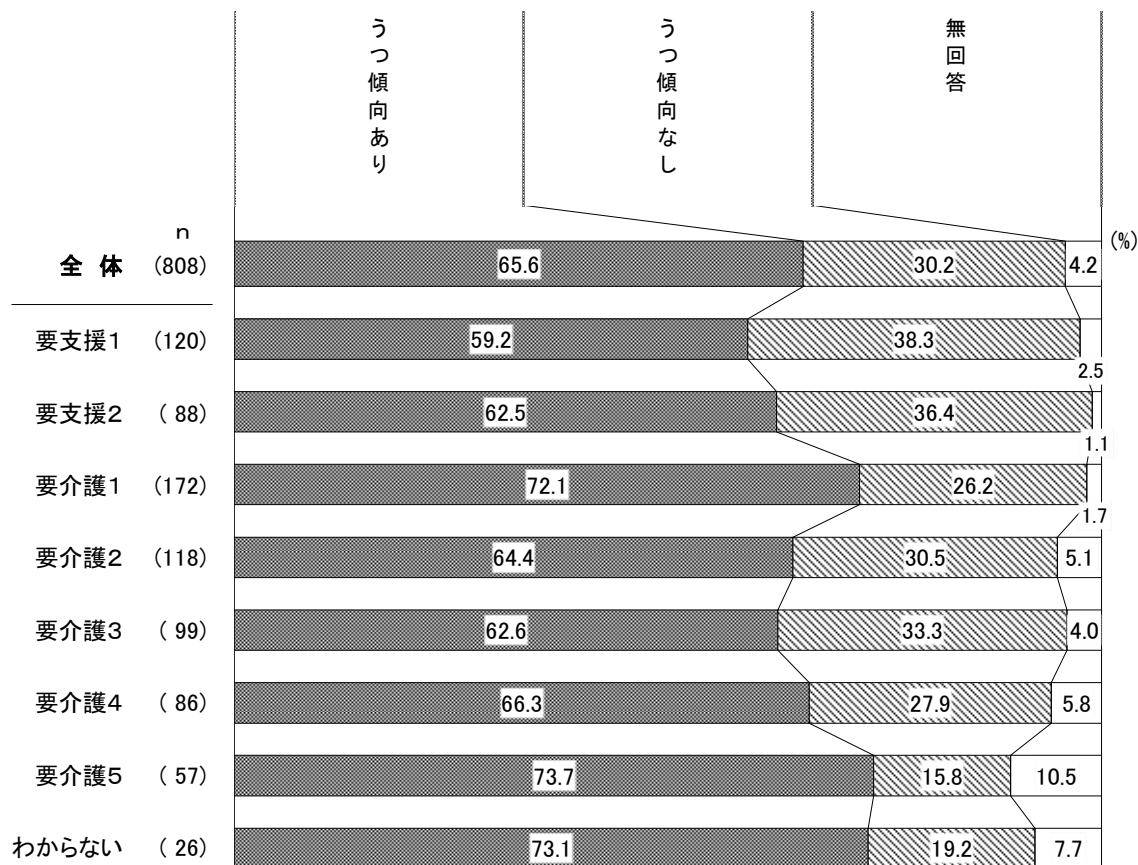
平成28年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図表3-3 高齢者のうつ傾向（単数回答）



要介護度別でみると、いずれの層でも「うつ傾向あり」が「うつ傾向なし」よりも高く、特に、要介護1と要介護5で7割台となっている。

図表3-4 高齢者のうつ傾向／要介護度別



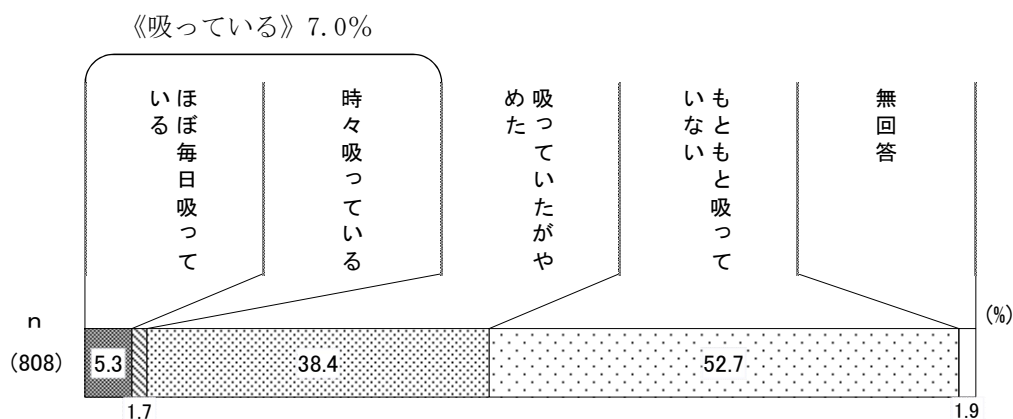
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

#### (4) 喫煙の有無

問14 タバコは吸っていますか。(1つに○)

タバコを吸っているかたずねたところ、「ほぼ毎日吸っている」が5.3%、「時々吸っている」が1.7%で、これらを合わせた《吸っている》は7.0%となっている。

図表 3-5 喫煙の有無 (単数回答)



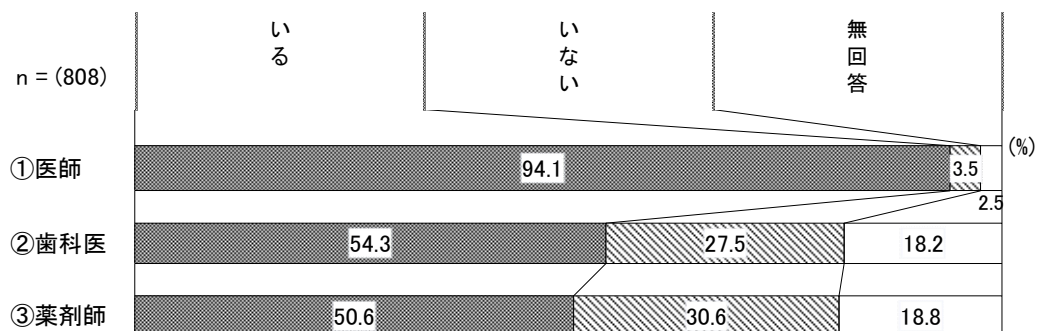
#### (5) かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無

問15 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師、歯科医、薬剤師(※)がいますか。  
(それぞれ1つに○)【比較調査254・255参照】

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師、歯科医、薬剤師

かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無では、「いる」が医師で94.1%、歯科医で54.3%、薬剤師で50.6%となっている。

図表 3-6 かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無 (単数回答)





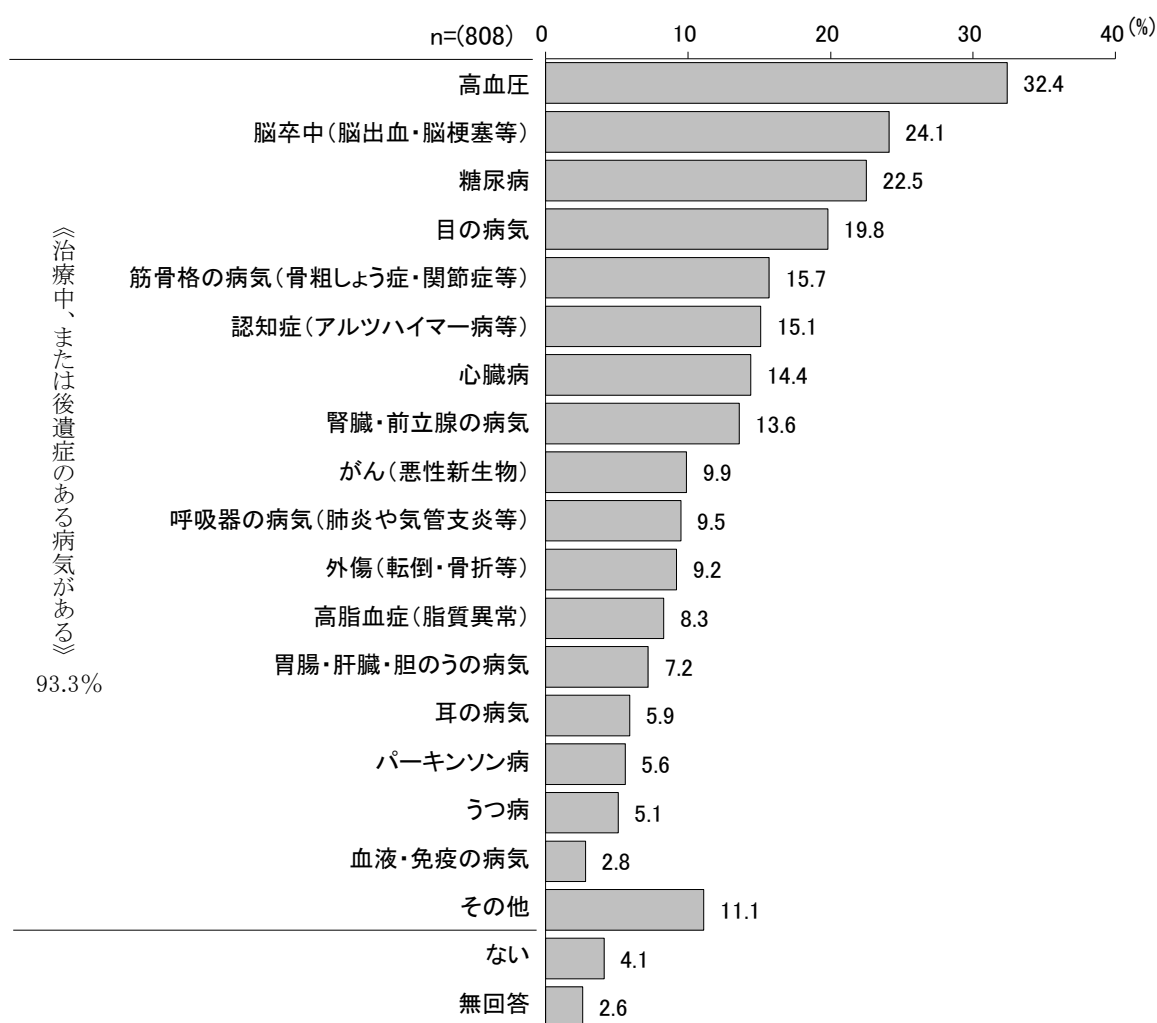
## (6) 治療中、または後遺症のある病気

問16 あなた(あて名のご本人)は、現在治療中、また後遺症のある病気はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

治療中、または後遺症のある病気では、《治療中、または後遺症のある病気がある》が93.3%、「ない」が4.1%である。

病気の中では、「高血圧」が32.4%で最も高く、次いで「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が24.1%、「糖尿病」が22.5%、「目の病気」が19.8%などとなっている。

図表3-7 治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



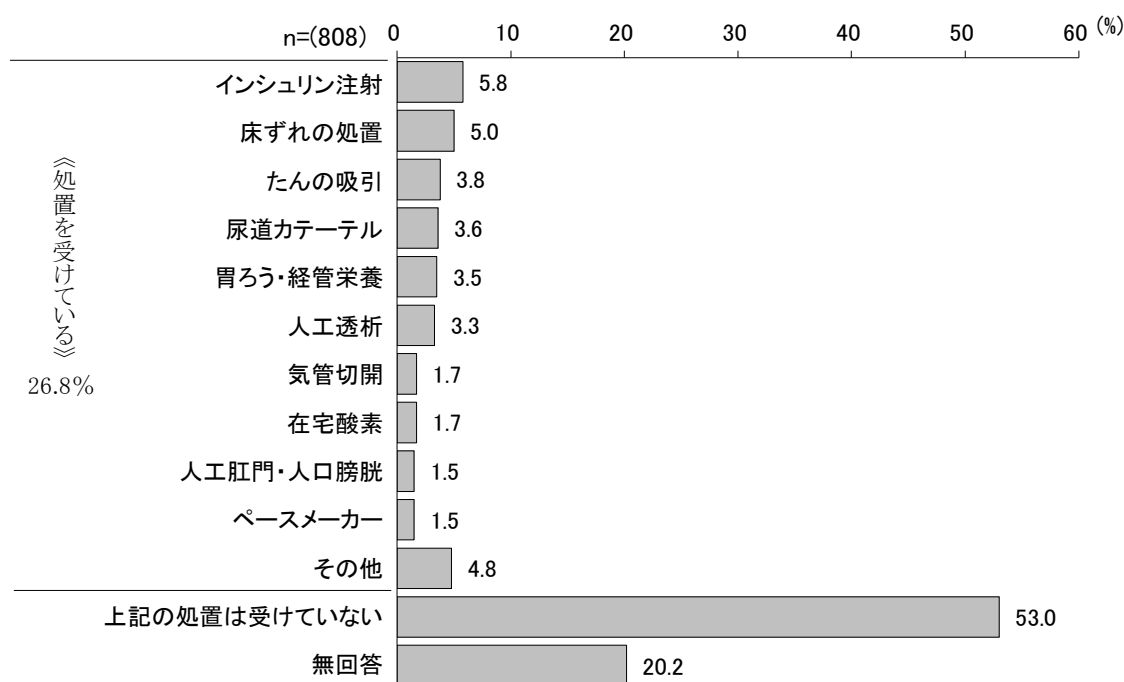
※《治療中、または後遺症のある病気がある》=100% - 「ない」 - 「無回答」

## (7) 医療処置の状況

問17 あなた(あて名のご本人)は、次のような医療器具を利用したり、処置を受けたりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

医療処置の状況は、《処置を受けている》が26.8%、「処置は受けていない」が53.0%である。処置を受けている中では、「インシュリン注射」が5.8%、「床ずれの処置」が5.0%などとなっている。

図表 3-8 医療処置の状況 (複数回答)



※ 《処置を受けている》 = 100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

要介護度別でみると、《処置を受けている》は、おおむね要介護度が上がるほど高く、要介護5で66.6%となっている。要介護5では、「たんの吸引」を36.8%、「胃ろう・経管栄養」を31.6%が受けている。

図表3-9 医療処置の状況／要介護度別

	n(人)	インシュリン注射	床ずれの処置	たんの吸引	尿道カテーテル	胃ろう・経管栄養	人工透析	気管切開	在宅酸素	人工肛門・人口膀胱	ペースメーカー	その他	上記の処置は受けていない	《処置を受けている》	
全体	808	5.8	5.0	3.8	3.6	3.5	3.3	1.7	1.7	1.5	1.5	4.8	53.0	26.8	
要介護度別	要支援1	120	5.0	-	-	0.8	-	0.8	0.8	3.3	0.8	1.7	4.2	57.5	17.5
	要支援2	88	5.7	1.1	1.1	1.1	-	1.1	1.1	-	2.3	1.1	6.8	60.2	19.3
	要介護1	172	6.4	2.9	1.7	2.3	0.6	2.9	-	1.2	1.2	1.2	5.2	59.3	22.7
	要介護2	118	9.3	1.7	2.5	4.2	1.7	7.6	0.8	1.7	2.5	0.8	4.2	54.2	29.7
	要介護3	99	4.0	3.0	-	4.0	2.0	3.0	1.0	1.0	2.0	3.0	6.1	53.5	26.3
	要介護4	86	4.7	16.3	3.5	7.0	2.3	3.5	1.2	1.2	-	1.2	3.5	47.7	32.5
	要介護5	57	3.5	24.6	36.8	12.3	31.6	3.5	14.0	3.5	-	3.5	5.3	21.1	66.6
	わからない	26	7.7	-	-	-	7.7	7.7	-	3.8	3.8	-	-	61.5	19.3

※設問の「無回答」は掲載を省略している

※《処置を受けている》=100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

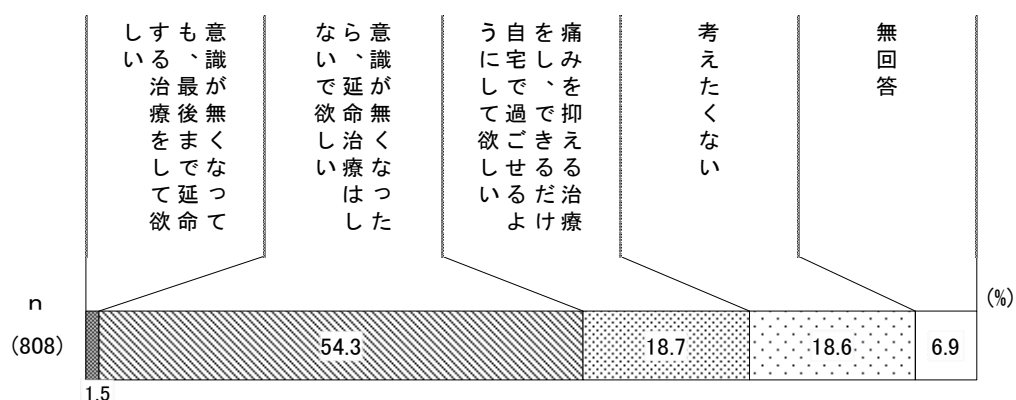
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (8) 人生の最終段階の医療に関する意向

問18 あなたは人生の最終段階の医療をどうして欲しいですか。(1つに○)

人生の最終段階の医療に関する意向は、「意識が無くなったら、延命治療はしないで欲しい」が54.3%で最も高くなっている。次いで「痛みを抑える治療をし、できるだけ自宅で過ごせるようにして欲しい」が18.7%となっているが、「考えたくない」も18.6%とおおむね並んでいる。

図表3-10 人生の最終段階の医療に関する意向（単数回答）

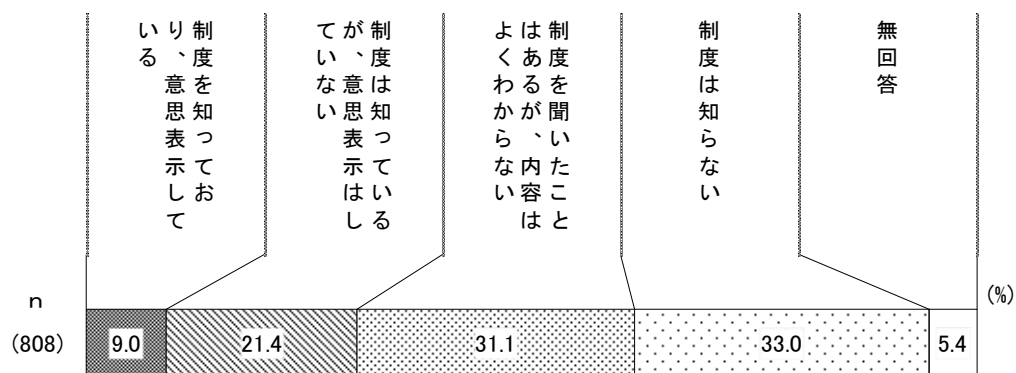


## (9) 人生の最終段階の医療について意思表示する制度の認知度

問19 あなたは人生の最終段階の医療について意思表示する制度があることを知っていますか。(1つに○)

人生の最終段階の医療について意思表示する制度の認知度は、「制度は知らない」が33.0%、「制度を聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が31.1%でおおむね並んでいる。

図表3-11 人生の最終段階の医療について意思表示する制度の認知度（単数回答）



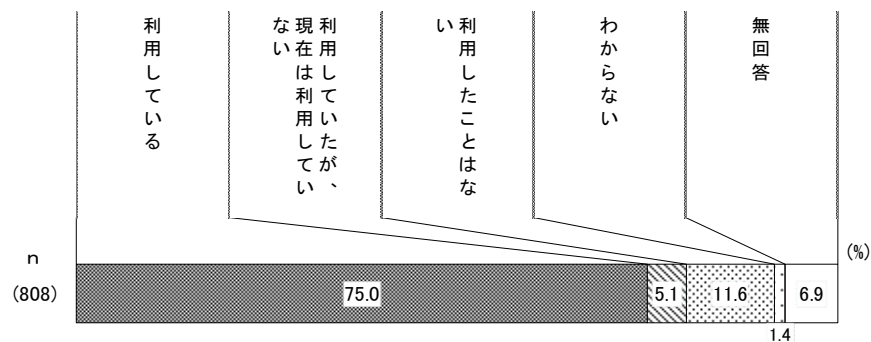
## 4 介護保険サービス等の利用について

### (1) 介護保険サービスの利用状況

問20 あなた(あて名のご本人)は、現在、介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

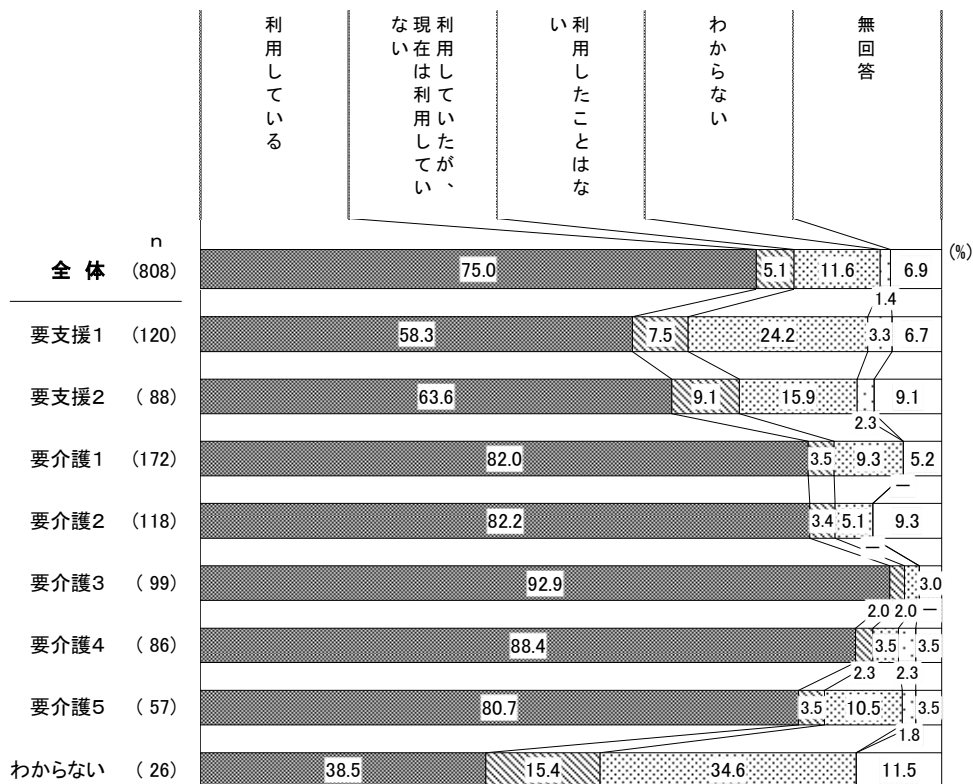
介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が75.0%で、「利用したことはない」が11.6%、「利用していたが、現在は利用していない」が5.1%となっている。

図表 4-1 介護保険サービスの利用状況 (単数回答)



要介護度別でみると、「利用している」は、要介護3と要介護4で9割前後となっている。

図表 4-2 介護保険サービスの利用状況 / 要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (2) 介護保険サービス利用の満足度

★利用している方(問20で1に○)にうかがいます。

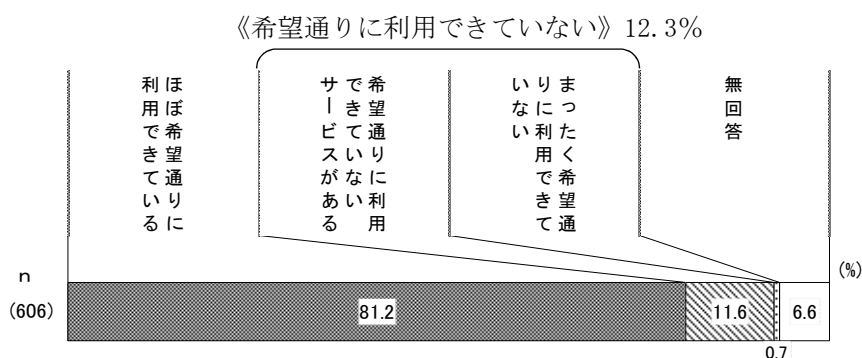
問20-1 あなた(あて名のご本人)は、希望通りに介護保険サービスを利用できていますか。

(1つに○)

介護保険サービスを「利用している」と回答した人に、その満足度をたずねた。

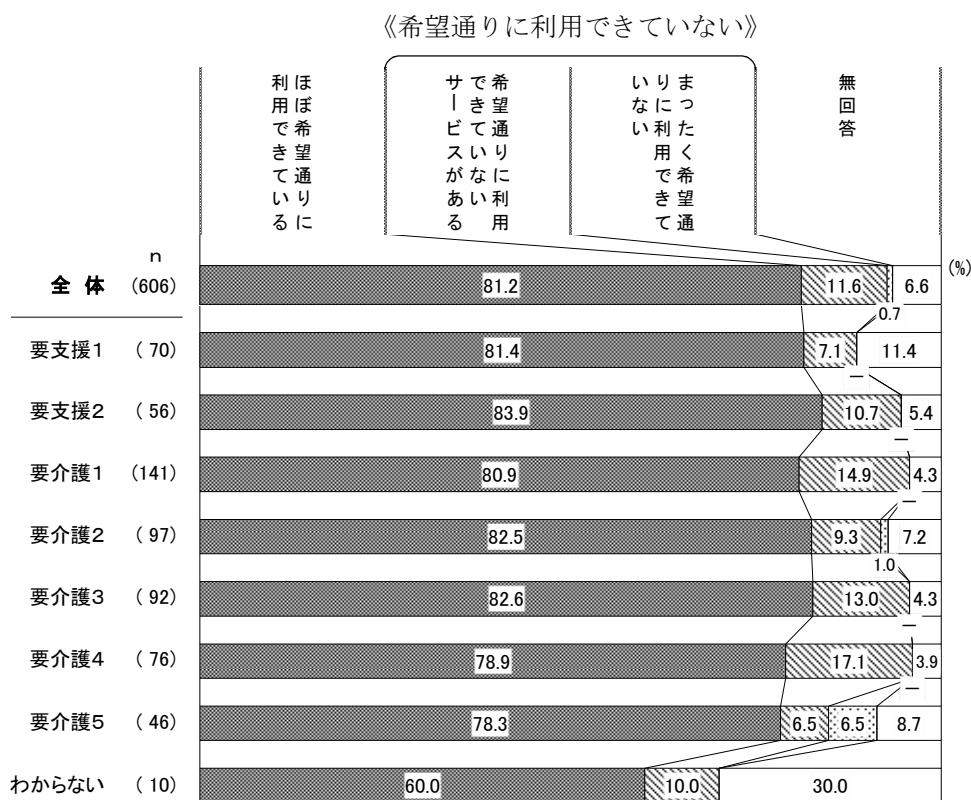
その結果、「ほぼ希望通りに利用できている」が81.2%となっている。一方、「希望通りに利用できていないサービスがある」(11.6%)と「まったく希望通りに利用できていない」(0.7%)を合わせた《希望通りに利用できていない》は12.3%である。

図表4-3 介護保険サービス利用の満足度(単数回答)



要介護度別では、要介護度による特に大きな違いはみられない。

図表4-4 介護保険サービス利用の満足度/要介護度別



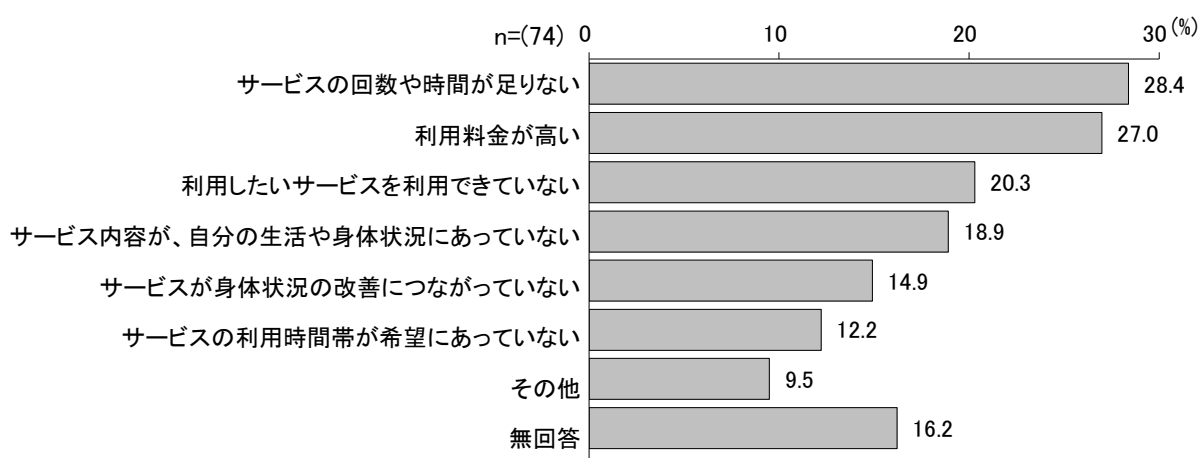
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

### (3) 希望通りに利用できていない理由

★希望通りに利用できていない方(問 20-1 で 2 または 3 に○)にうかがいます。  
問20-1-1 希望通りに利用できていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを《希望通りに利用できていない》と回答した人に、その理由をたずねた。その結果、「サービスの回数や時間が足りない」が28.4%で最も高く、次いで「利用料金が高い」が27.0%となっている。このほか、「利用したいサービスを利用できていない」が20.3%、「サービス内容が、自分の生活や身体状況にあっていない」が18.9%でおおむね並んでいる。

図表 4-5 希望通りに利用できていない理由 (複数回答)



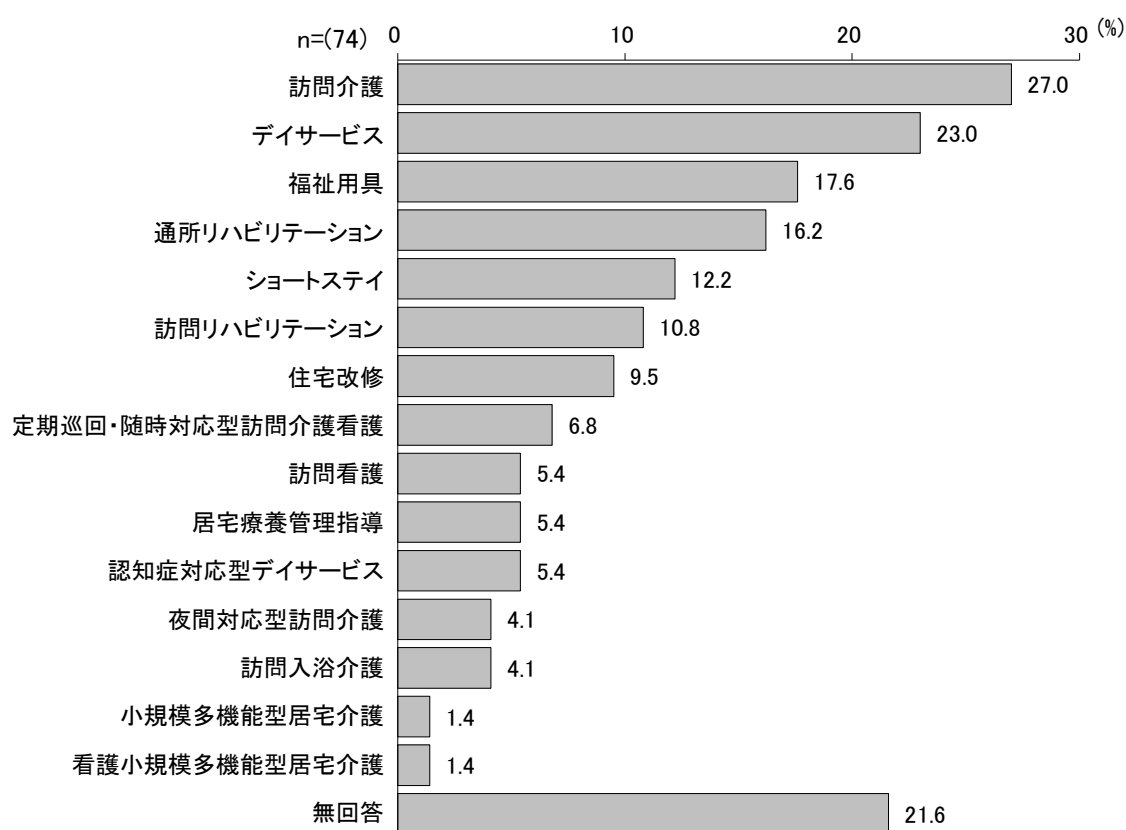
#### (4) 希望通りに利用できていないサービス

問20-1-2 希望通りに利用できていないサービス、不満を感じているサービスは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを《希望通りに利用できていない》と回答した人に、希望通りに利用できていないサービスをたずねた。

その結果、「訪問介護」が27.0%で最も高く、次いで「デイサービス」が23.0%、「福祉用具」が17.6%、「通所リハビリテーション」が16.2%などとなっている。

図表4-6 希望通りに利用できていないサービス（複数回答）





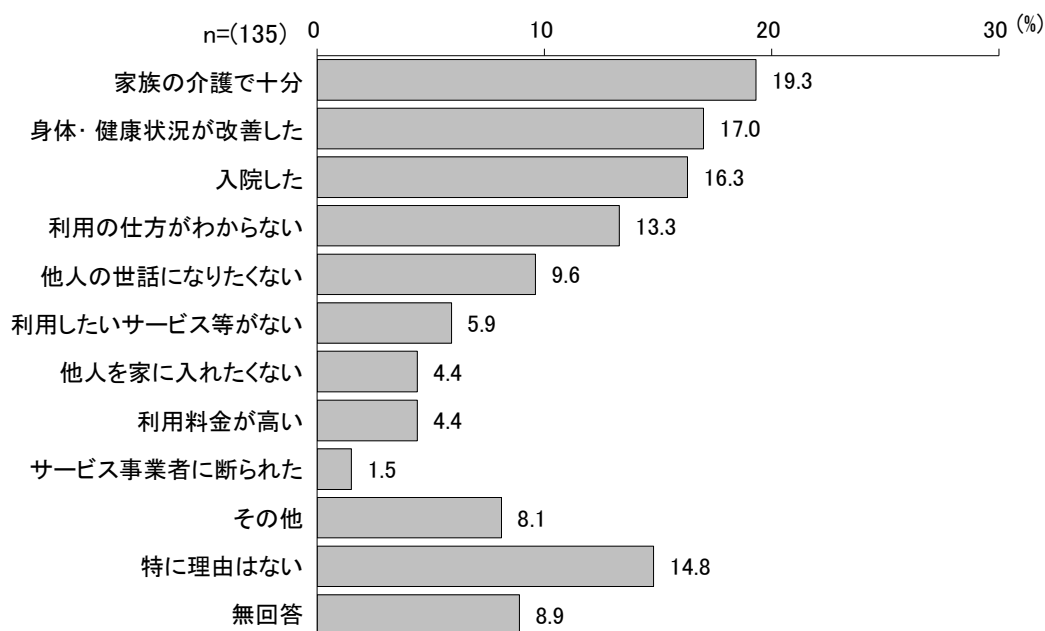
## (5) 介護保険サービスを利用していない理由

★介護保険サービスを利用していない方(問20で2または3に○)にうかがいます。  
問20-2 あなた(あて名のご本人)が、介護保険サービスを利用していないのはなぜですか。  
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを、「利用していたが、現在は利用していない」か「利用したことはない」と回答した人に、利用していない理由をたずねた。

その結果、「家族の介護で十分」が19.3%で最も高く、次いで「身体・健康状況が改善した」が17.0%、「入院した」が16.3%、「利用の仕方がわからない」が13.3%などとなっている。

図表4-7 介護保険サービスを利用していない理由(複数回答)



要介護度別については、n（人数）の少ない要介護度が多いことから参考として掲載しておく。

図表 4-8 介護保険サービスを利用していない理由／要介護度別

	n(人)	家族の介護で十分	身体・健康状況が改善した	入院した	利用の仕方がわからない	他人の世話になりたくない	利用したいサービス等がない	他人を家に入れたくない	利用料金が高い	サービス事業者に断られた	その他	特に理由はない	無回答	
全 体	135	19.3	17.0	16.3	13.3	9.6	5.9	4.4	4.4	1.5	8.1	14.8	8.9	
要介護度別	要支援 1	38	18.4	13.2	5.3	18.4	10.5	5.3	5.3	-	2.6	10.5	23.7	5.3
	要支援 2	22	18.2	31.8	-	4.5	4.5	4.5	-	9.1	-	4.5	22.7	13.6
	要介護 1	22	27.3	18.2	9.1	18.2	22.7	4.5	9.1	13.6	-	13.6	4.5	4.5
	要介護 2	10	40.0	-	10.0	-	10.0	10.0	-	-	-	-	20.0	10.0
	要介護 3	4	25.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	要介護 4	5	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	40.0	-	-
	要介護 5	8	-	12.5	50.0	-	-	12.5	-	-	-	12.5	-	12.5
	わからない	13	7.7	-	23.1	30.8	-	-	7.7	7.7	7.7	-	-	30.8

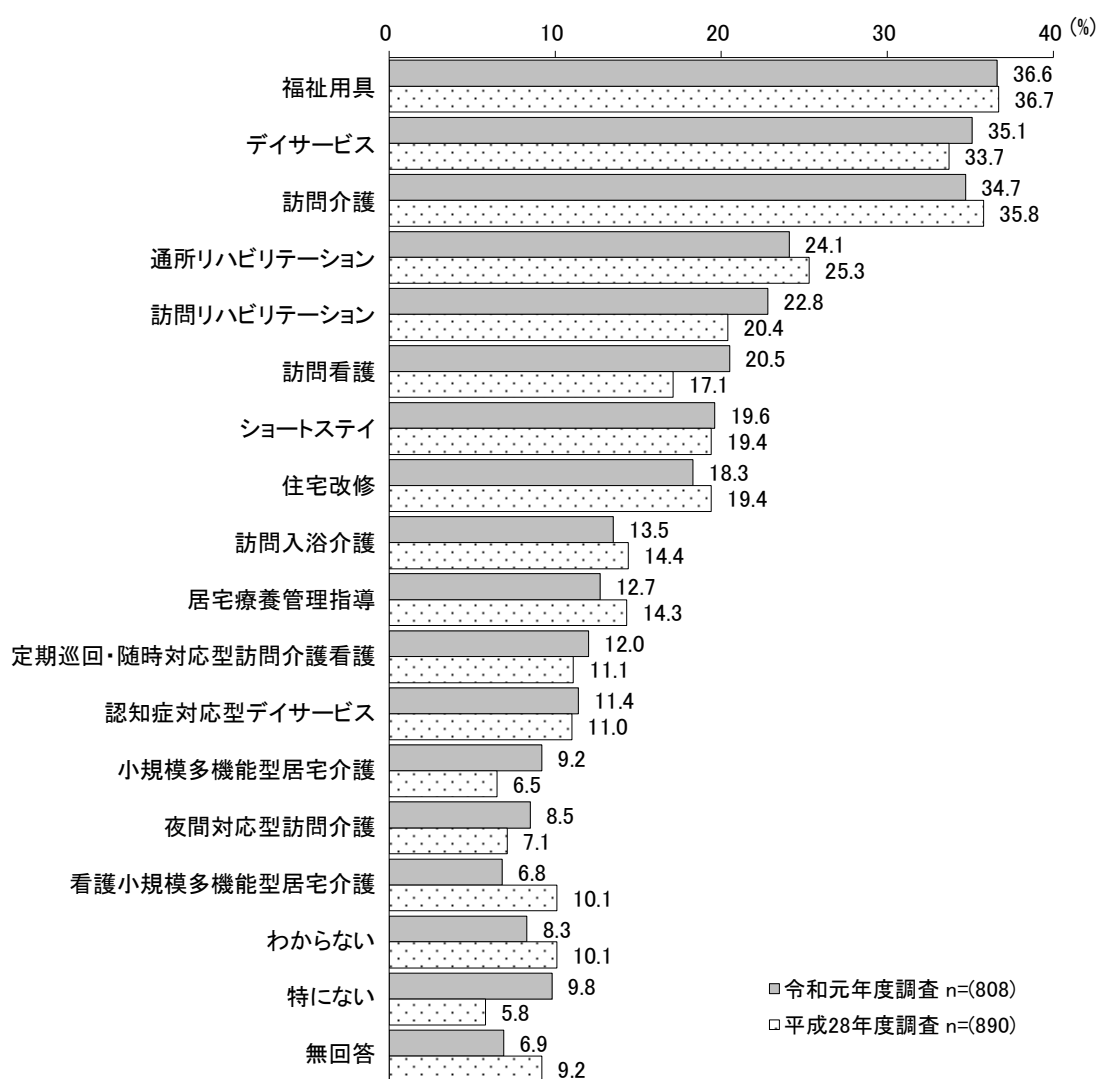
## (6) 今後利用したい介護保険サービス

問21 あなた(あて名のご本人)は、今後、ご自宅で生活するうえで、どのような介護保険サービスを利用したい(し続けたい)と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

今後利用したい(し続けたい)介護保険サービスは、「福祉用具」が36.6%、「デイサービス」が35.1%、「訪問介護」が34.7%と、上位3項目がおおむね並んで高い。このほか、「通所リハビリテーション」が24.1%、「訪問リハビリテーション」が22.8%などとなっている。

平成28年度調査と比較すると、順位、割合とも特に大きな違いはみられない。

図表4-9 今後利用したい介護保険サービス(複数回答)



世帯構成別にみると、ひとり暮らしでは「訪問介護」が、子どもと同居では「福祉用具」と「デイサービス」などの利用意向が、それぞれ他に比べて高くなっている。また、「訪問リハビリテーション」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で52.4%となっている。

要介護度別にみると、「福祉用具」は要介護4以上で約5割である。「訪問介護」は要介護5で56.1%、「通所リハビリテーション」は要支援2で36.4%と他の要介護度に比べて最も高くなっている。また、「訪問リハビリテーション」と「訪問看護」は、おおむね要介護度が上がるほど高くなり、要介護5で5割前後である。

図表4-10 今後利用したい介護保険サービス／世帯構成別、要介護度別

		回答者数(人)	福祉用具	デイサービス	訪問介護	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション	訪問看護	ショートステイ	住宅改修	訪問入浴介護	居宅療養管理指導	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	認知症対応型デイサービス	小規模多機能型居宅介護	夜間対応型訪問介護	看護小規模多機能型居宅介護
全体		808	36.6	35.1	34.7	24.1	22.8	20.5	19.6	18.3	13.5	12.7	12.0	11.4	9.2	8.5	6.8
世帯構成別	ひとり暮らし	203	25.1	32.0	42.4	18.7	14.8	16.7	10.8	9.9	8.9	8.9	12.8	8.4	6.4	6.4	7.9
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	258	39.5	29.1	36.4	24.8	24.0	22.5	22.1	18.6	13.6	15.1	14.3	14.7	10.5	11.2	7.0
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	21	38.1	38.1	28.6	28.6	52.4	28.6	4.8	14.3	23.8	9.5	14.3	9.5	9.5	4.8	-
	子どもと同居	262	45.0	45.4	28.2	28.6	26.0	22.1	25.6	25.2	16.0	14.1	10.3	11.5	10.7	7.3	6.9
	その他	35	40.0	28.6	31.4	20.0	20.0	22.9	20.0	22.9	14.3	20.0	8.6	14.3	11.4	11.4	8.6
要介護度別	要支援1	120	25.8	29.2	30.8	15.8	11.7	14.2	11.7	17.5	6.7	5.8	12.5	8.3	4.2	5.8	2.5
	要支援2	88	39.8	39.8	37.5	36.4	19.3	17.0	17.0	18.2	11.4	12.5	6.8	4.5	5.7	6.8	6.8
	要介護1	172	34.9	41.9	30.2	28.5	16.3	14.5	15.1	16.9	8.1	7.0	9.3	12.2	8.1	4.7	7.0
	要介護2	118	42.4	35.6	35.6	24.6	22.0	20.3	23.7	20.3	16.9	16.1	16.1	13.6	11.0	12.7	5.9
	要介護3	99	40.4	40.4	37.4	19.2	29.3	22.2	29.3	20.2	10.1	14.1	13.1	20.2	17.2	10.1	10.1
	要介護4	86	48.8	38.4	36.0	31.4	38.4	33.7	31.4	20.9	22.1	22.1	16.3	11.6	12.8	15.1	9.3
	要介護5	57	47.4	24.6	56.1	12.3	49.1	50.9	24.6	21.1	38.6	31.6	15.8	15.8	14.0	12.3	10.5
	わからない	26	15.4	15.4	11.5	11.5	-	7.7	-	7.7	-	3.8	7.7	-	-	3.8	3.8

※設問の「わからない」「特になし」「無回答」は掲載を省略している

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (7) 今後利用したい介護保険以外のサービス

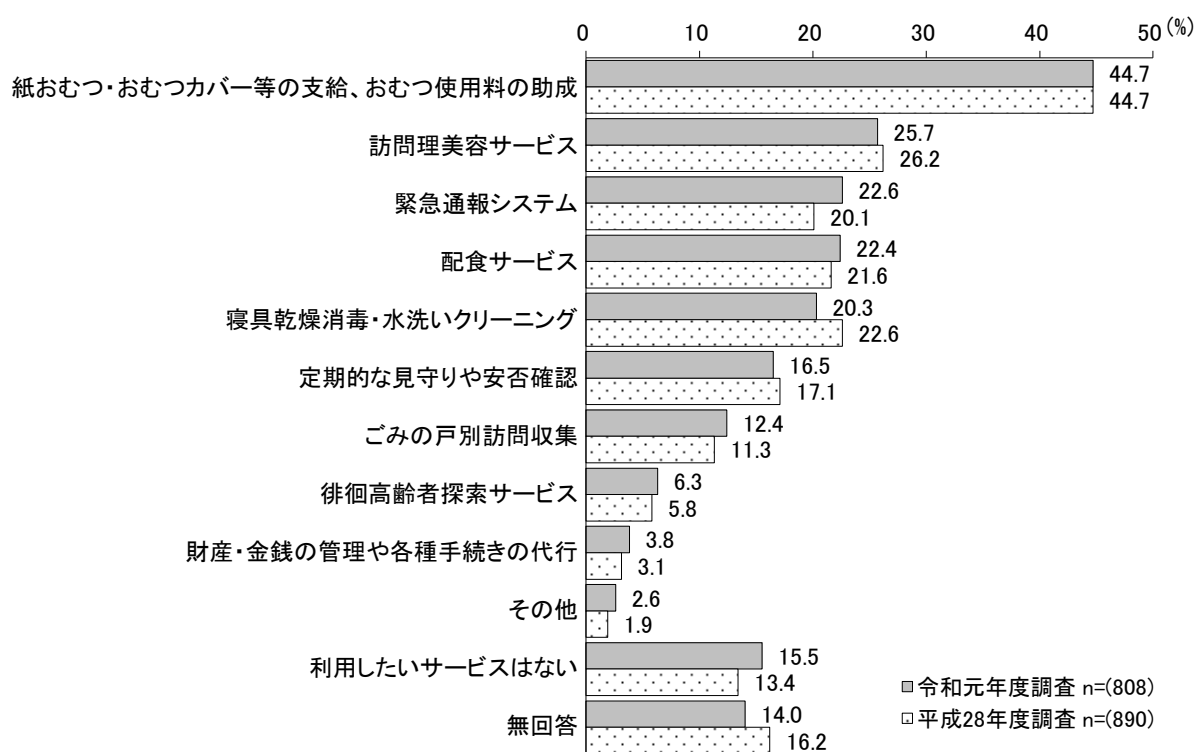
問22 あなた(あて名のご本人)は、今後、ご自宅で生活するうえで、江戸川区が実施する介護保険以外のサービスについて、利用したいサービスはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

今後利用したい介護保険以外のサービスは、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」が44.7%で最も高く、次いで「訪問理美容サービス」が25.7%となっている。このほか、「緊急通報システム」が22.6%、「配食サービス」が22.4%、「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」が20.3%でおおむね並んでいる。

平成28年度調査と比較すると、順位、割合とも特に大きな違いはみられない。

図表 4-11 今後利用したい介護保険以外のサービス（複数回答）



世帯構成別にみると、いずれの世帯構成でも「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」は高い傾向にあり、特に、子どもと同居と夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で5割台となっている。

要介護度別にみると、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」、「訪問理美容サービス」は、おおむね要介護度が上がるほど高くなっている。

図表4-12 今後利用したい介護保険以外のサービス／世帯構成別、要介護度別

		回答者数(人)	紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成	訪問理美容サービス	緊急通報システム	配食サービス	寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング	定期的な見守りや安否確認	ごみの戸別訪問収集	徘徊高齢者探索サービス	財産・金銭の管理や各種手続きの代行	その他	利用したいサービスはない	無回答
全体		808	44.7	25.7	22.6	22.4	20.3	16.5	12.4	6.3	3.8	2.6	15.5	14.0
世帯構成別	ひとり暮らし	203	28.6	20.7	26.1	25.1	17.2	19.7	17.2	4.9	4.4	2.5	18.2	17.2
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	258	50.0	23.6	23.6	26.4	22.9	17.1	15.1	7.4	3.9	2.3	15.1	12.8
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	21	38.1	33.3	28.6	19.0	23.8	9.5	9.5	-	9.5	9.5	9.5	9.5
	子どもと同居	262	54.2	32.4	19.5	17.6	20.6	14.1	6.1	7.3	1.9	2.7	13.4	9.9
	その他	35	45.7	17.1	25.7	25.7	17.1	20.0	17.1	8.6	11.4	2.9	14.3	22.9
要介護度別	要支援1	120	40.0	23.3	24.2	20.8	17.5	13.3	19.2	5.0	4.2	1.7	21.7	15.0
	要支援2	88	31.8	20.5	28.4	28.4	19.3	20.5	12.5	4.5	3.4	3.4	20.5	13.6
	要介護1	172	34.9	19.8	20.9	22.1	18.0	19.2	12.2	6.4	3.5	4.1	16.3	12.8
	要介護2	118	49.2	29.7	26.3	24.6	18.6	16.1	12.7	9.3	2.5	0.8	12.7	11.9
	要介護3	99	62.6	28.3	26.3	21.2	26.3	19.2	10.1	8.1	7.1	3.0	7.1	9.1
	要介護4	86	57.0	38.4	22.1	25.6	24.4	14.0	11.6	8.1	4.7	2.3	11.6	10.5
	要介護5	57	66.7	45.6	15.8	21.1	31.6	17.5	8.8	5.3	5.3	1.8	1.8	19.3
	わからない	26	26.9	-	11.5	11.5	7.7	15.4	11.5	-	-	7.7	30.8	23.1

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

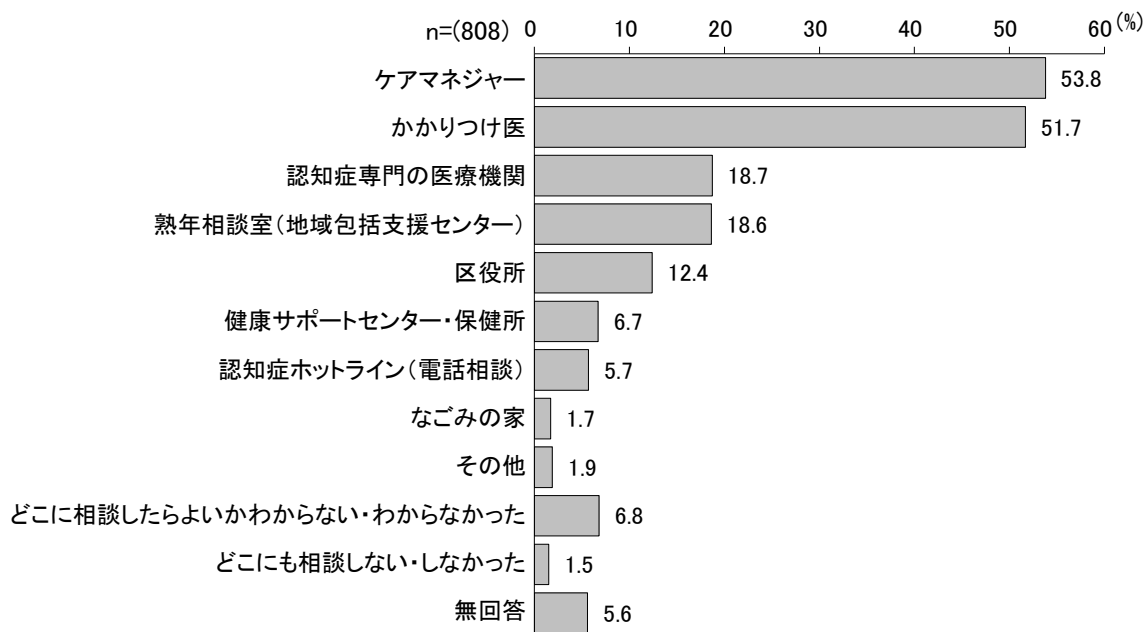
## 5 介護や区の施策について

### (1) 認知症に関する相談先

問23 あなた(あて名のご本人)やご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか・  
しましたか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査260頁参照】

認知症に関する相談先は、「ケアマネジャー」が53.8%、「かかりつけ医」が51.7%でおおむね並んで高くなっている。次いで「認知症専門の医療機関」が18.7%、「熟年相談室(地域包括支援センター)」が18.6%でおおむね並ぶ。

図表5-1 認知症に関する相談先(複数回答)

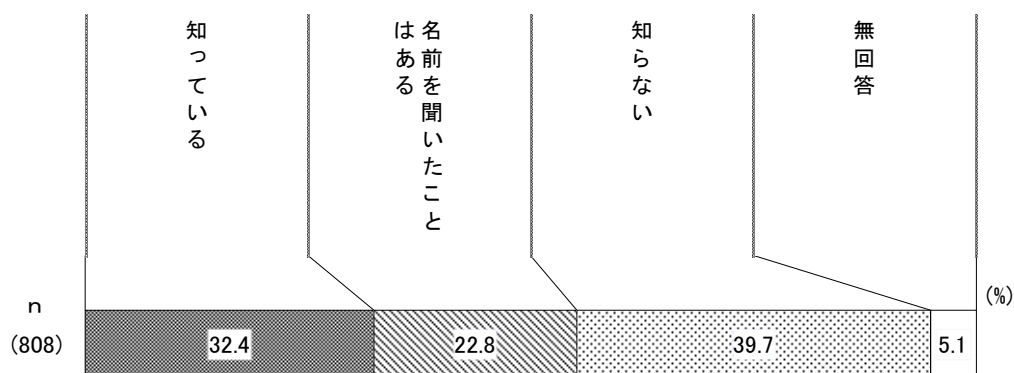


## (2) 成年後見制度の認知度

問24 あなた(あて名のご本人)は、認知症などにより判断能力が十分でない人に、本人の権利を守るための援助者を選び、法律面や生活面を支援する「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○) 【比較調査261頁参照】

成年後見制度の認知度は、「知っている」が32.4%、「名前を聞いたことはある」が22.8%となっている。一方、「知らない」が39.7%である。

図表5-2 成年後見制度の認知度 (単数回答)

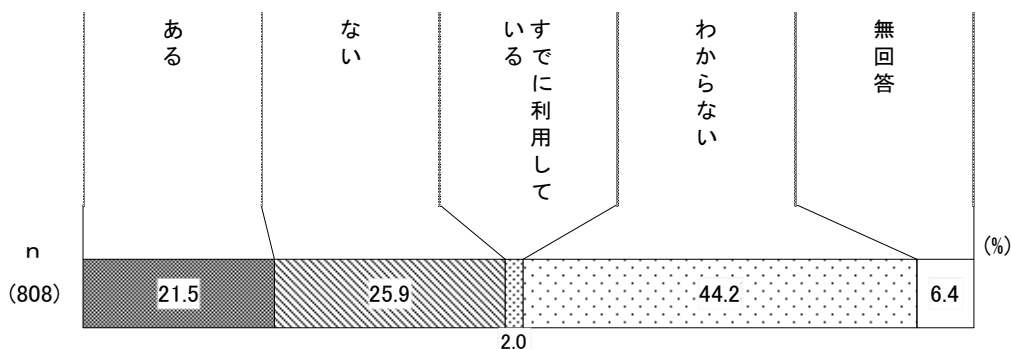


## (3) 成年後見制度の利用意向

問25 ご家族やご親類が、認知症などにより判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用するつもりはありますか。(1つに○) 【比較調査261頁参照】

成年後見制度の利用意向は、「ある」が21.5%、「ない」が25.9%となっているが、「わからない」が44.2%と高い。

図表5-3 成年後見制度の利用意向 (単数回答)





#### (4) 今後希望する暮らし方

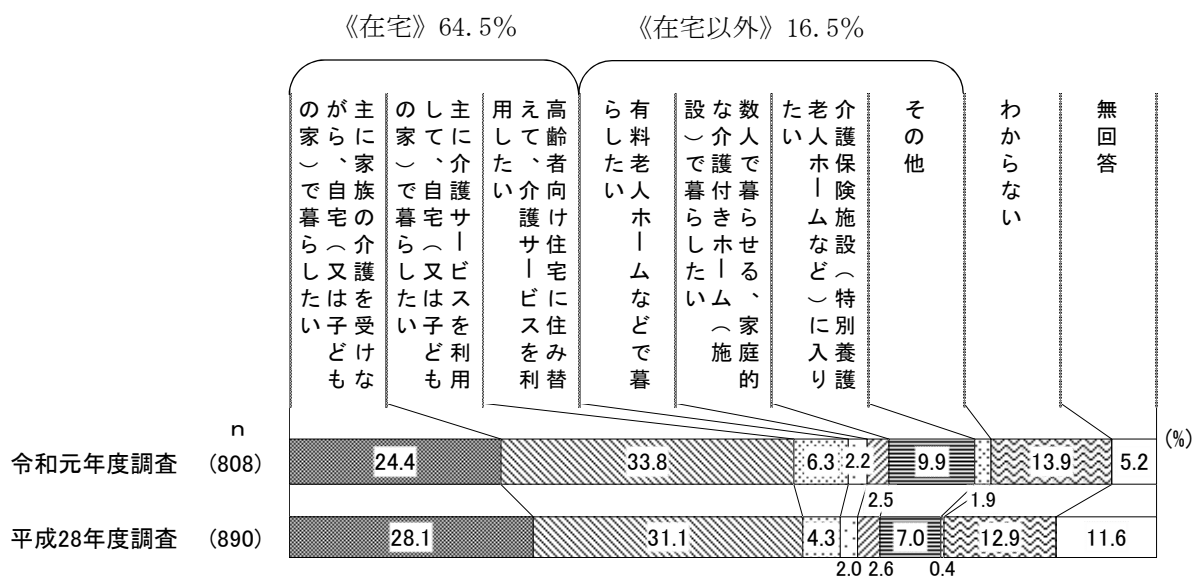
問26 あなた(あて名のご本人)は、今後どのように暮らしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○) 【比較調査262頁参照】

今後希望する暮らし方は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が33.8%で最も高く、次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が24.4%となっており、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」の6.3%と、3つの暮らし方を合わせた《在宅》は64.5%である。一方、「有料老人ホームなどで暮らしたい」(2.2%)、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」(2.5%)、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」(9.9%)、「その他」(1.9%)を合わせた《在宅以外》は16.5%となっている。

平成28年度調査と比較すると、《在宅以外》が約5ポイント増加している。

図表5-4 今後希望する暮らし方（単数回答）



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」  
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」 + 「その他」

世帯構成別でみると、ひとり暮らし以外は、《在宅》の希望が過半数であるが、ひとり暮らしでは、《在宅》が46.9%と5割を下回り低くなっている。一方で、《在宅以外》が2割台半ばと他の世帯構成に比べ高くなっている。

要介護度別でみると、《在宅》は、要介護2、要介護4以上で7割台半ばとおおむね並んでいる。

図表5-5 今後希望する暮らし方／世帯構成別、要介護度別

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい	その他	わからない	無回答	《在宅》	《在宅以外》
全体		808	24.4	33.8	6.3	2.2	2.5	9.9	1.9	13.9	5.2	64.5	16.5
世帯構成別	ひとり暮らし	203	9.9	28.6	8.4	3.9	5.4	13.8	3.4	21.2	5.4	46.9	26.5
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	258	27.9	31.8	6.2	1.6	0.8	10.1	1.6	12.8	7.4	65.9	14.1
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	21	33.3	28.6	14.3	-	4.8	-	-	19.0	-	76.2	4.8
	子どもと同居	262	32.1	42.7	3.1	1.5	1.5	7.6	0.4	9.2	1.9	77.9	11.0
	その他	35	17.1	34.3	14.3	2.9	5.7	2.9	5.7	11.4	5.7	65.7	17.2
要介護度別	要支援1	120	18.3	25.8	11.7	5.8	4.2	7.5	3.3	18.3	5.0	55.8	20.8
	要支援2	88	19.3	33.0	10.2	4.5	1.1	10.2	-	20.5	1.1	62.5	15.8
	要介護1	172	20.9	36.6	7.6	0.6	4.1	7.6	2.3	16.3	4.1	65.1	14.6
	要介護2	118	30.5	43.2	1.7	-	1.7	7.6	1.7	6.8	6.8	75.4	11.0
	要介護3	99	21.2	36.4	4.0	2.0	2.0	20.2	2.0	9.1	3.0	61.6	26.2
	要介護4	86	31.4	41.9	2.3	2.3	1.2	10.5	-	7.0	3.5	75.6	14.0
	要介護5	57	43.9	26.3	3.5	1.8	-	5.3	5.3	7.0	7.0	73.7	12.4
	わからない	26	11.5	15.4	3.8	3.8	3.8	15.4	-	42.3	3.8	30.7	23.0

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい」  
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい」  
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい」  
 ＋「介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい」＋「その他」

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (5) 在宅で暮らし続けるために必要なこと

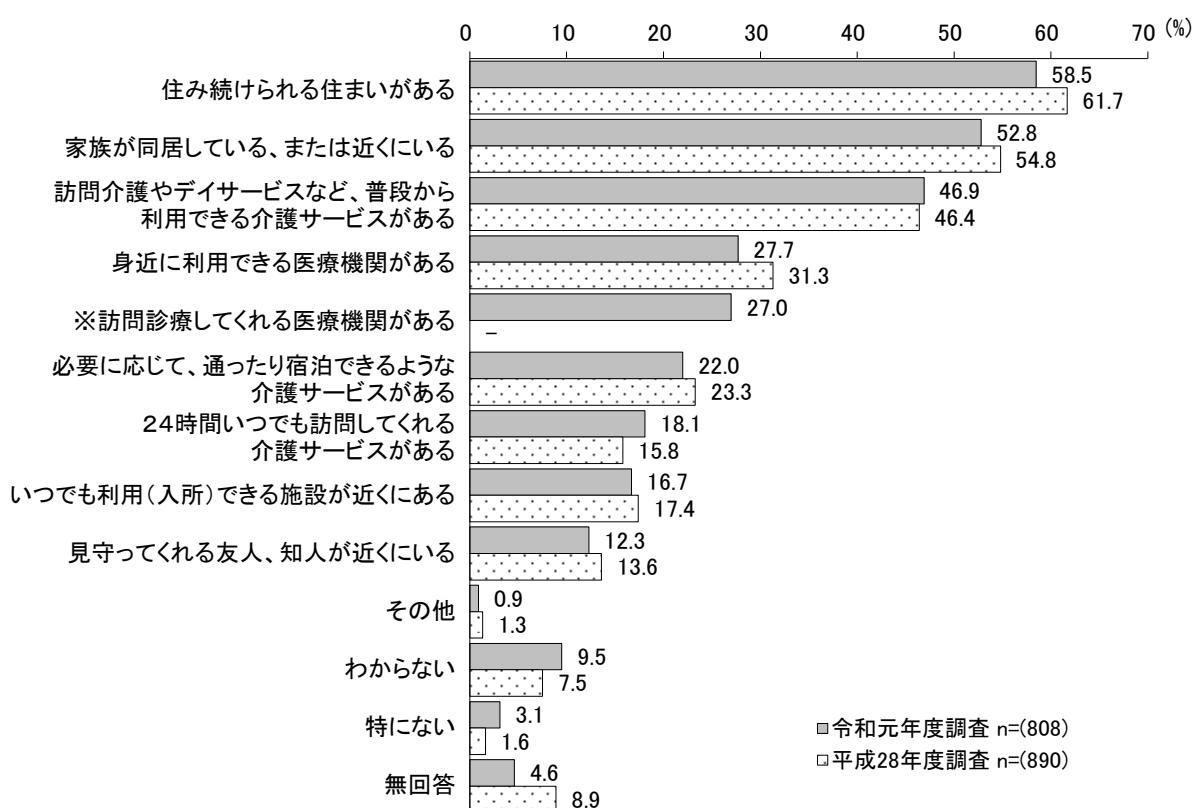
問27 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査263頁参照】

在宅で暮らし続けるために必要なことは、「住み続けられる住まいがある」が58.5%で最も高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」が52.8%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が46.9%などとなっている。

平成28年度調査と比較すると、順位、割合とも特に大きな違いはみられない。

図表5-6 在宅で暮らし続けるために必要なこと（複数回答）



※「訪問診療してくれる医療機関がある」は令和元年度調査で新設

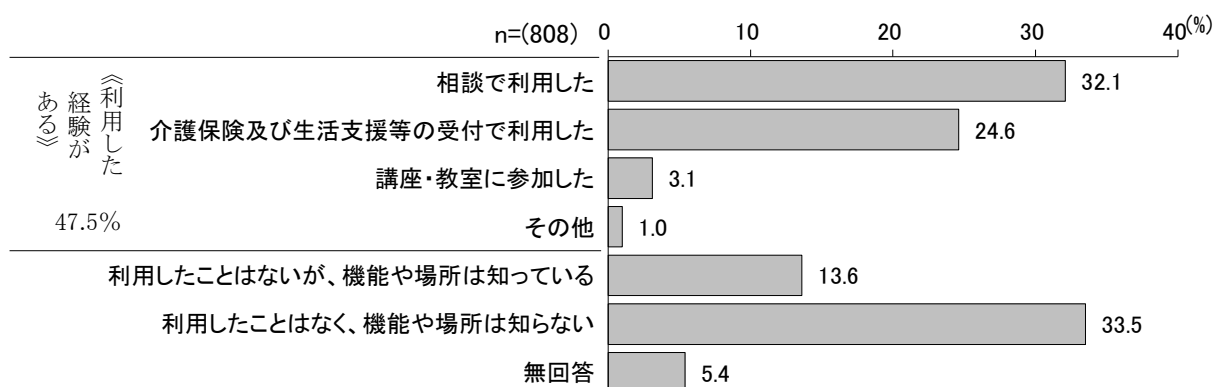
## (6) 熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験

問28 あなた(あて名のご本人)は、熟年相談室(地域包括支援センター)を利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験は、《利用した経験がある》が47.5%で、「利用したことはなく、機能や場所は知らない」が33.5%となっている。

利用した中では、「相談で利用した」が32.1%で最も高く、次いで「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」が24.6%となっている。

図表5-7 熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験（複数回答）



※《利用した経験がある》＝100%－「利用したことはないが、機能や場所は知っている」－「利用したことはなく、機能や場所は知らない」－「無回答」

## (7) なごみの家の認知度と利用内容

問29 あなた(あて名のご本人)は、「なごみの家」についてどのくらい知っていますか。

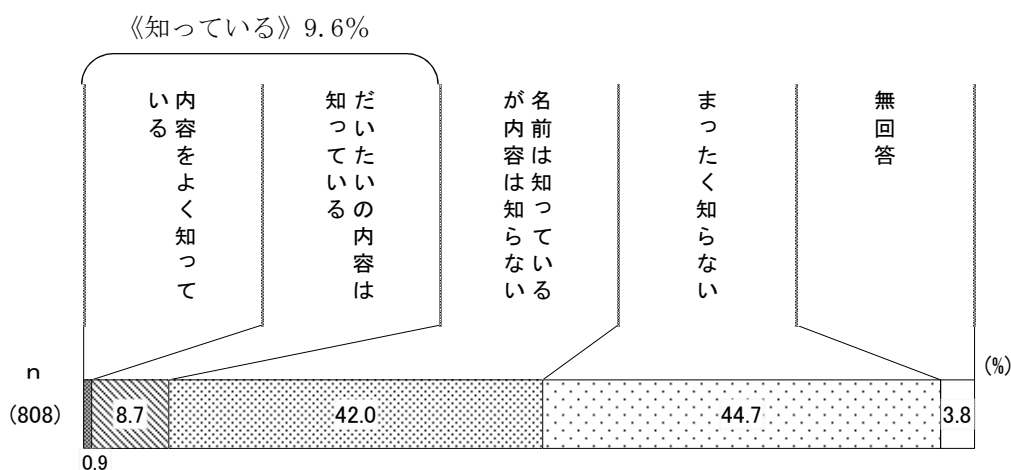
(1つに○)

★内容を知っている方(問29で1または2に○)にお聞きします。

問29-1 なごみの家をどのように利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

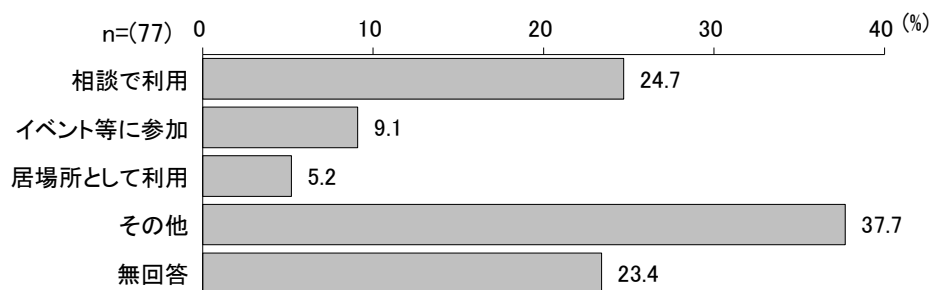
なごみの家の認知度は、「内容をよく知っている」が0.9%、「だいたいの内容は知っている」が8.7%で、これらを合わせた《知っている》は9.6%であり、「名前は知っているが内容は知らない」が42.0%となっている。一方、「まったく知らない」が44.7%である。

図表5-8 なごみの家の認知度と利用内容(単数回答)



内容や名前を《知っている》と回答した人に、利用内容をたずねたところ、「相談で利用」が24.7%となっている。

図表5-9 なごみの家の利用内容(複数回答)

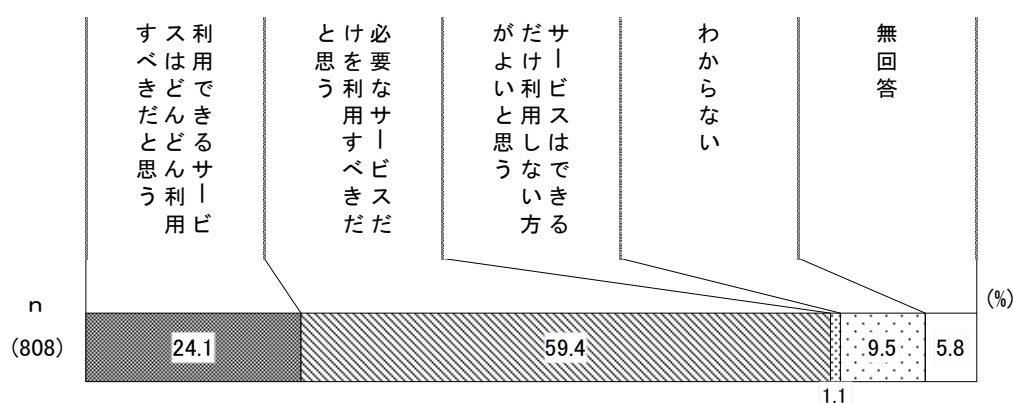


## (8) 介護保険サービスの利用のあり方についての考え

問30 あなた(あて名のご本人)は、介護保険サービスの利用のあり方について、どのような考えをお持ちですか。(1つに○) 【比較調査264頁参照】

介護保険サービスの利用のあり方についての考えは、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が59.4%で最も高く、次いで「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」が24.1%となっている。

図表5-10 介護保険サービスの利用のあり方についての考え(単数回答)



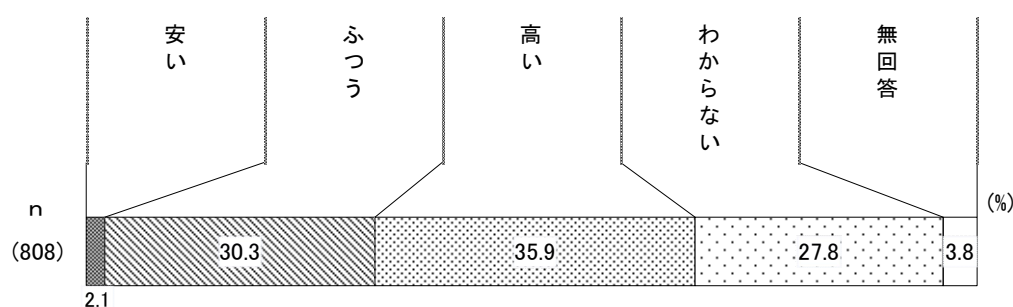
## (9) 介護保険料についての考え

問31 介護保険の保険料について、どのように思いますか。(1つに○)

【比較調査264頁参照】

介護保険料については、「安い」が2.1%、「ふつう」が30.3%、「高い」が35.9%となっている。

図表5-11 介護保険料についての考え(単数回答)



## (10) 区の熟年者施策の充実度

問32 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。

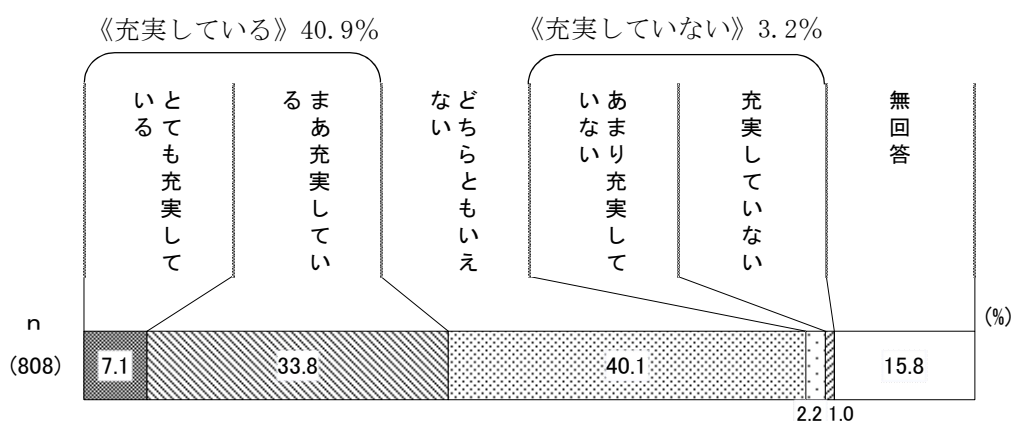
(1つに○)【比較調査265頁参照】

【「あまり充実していない」、又は「充実していない」と回答された方】

そのように感じている理由は何ですか。(自由記述)

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」が7.1%、「まあ充実している」が33.8%で、これらを合わせた《充実している》は40.9%である。「どちらともいえない」が40.1%と最も高くなっており、「あまり充実していない」(2.2%)と「充実していない」(1%)を合わせた《充実していない》は3.2%となっている。

図表5-12 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



《充実していない》と感じている理由：13件より抜粋して記載

- ・特別養護老人ホームの空きがなく、なかなか入所できない。
- ・個々の家族の状況に対応して、介護保険の利用範囲を広げて欲しい。病気の主人と二人だと介護のホームヘルパーさんを使えない。
- ・求めているものがあまりない。
- ・施策の内容がわからない。
- ・死後のこと(家財道具等の片づけ・様々な手続の代行や墓のこと)などを相談できることが熟年者にとって一番必要な事だと思います。

## (11) 今後充実すべき熟年者施策

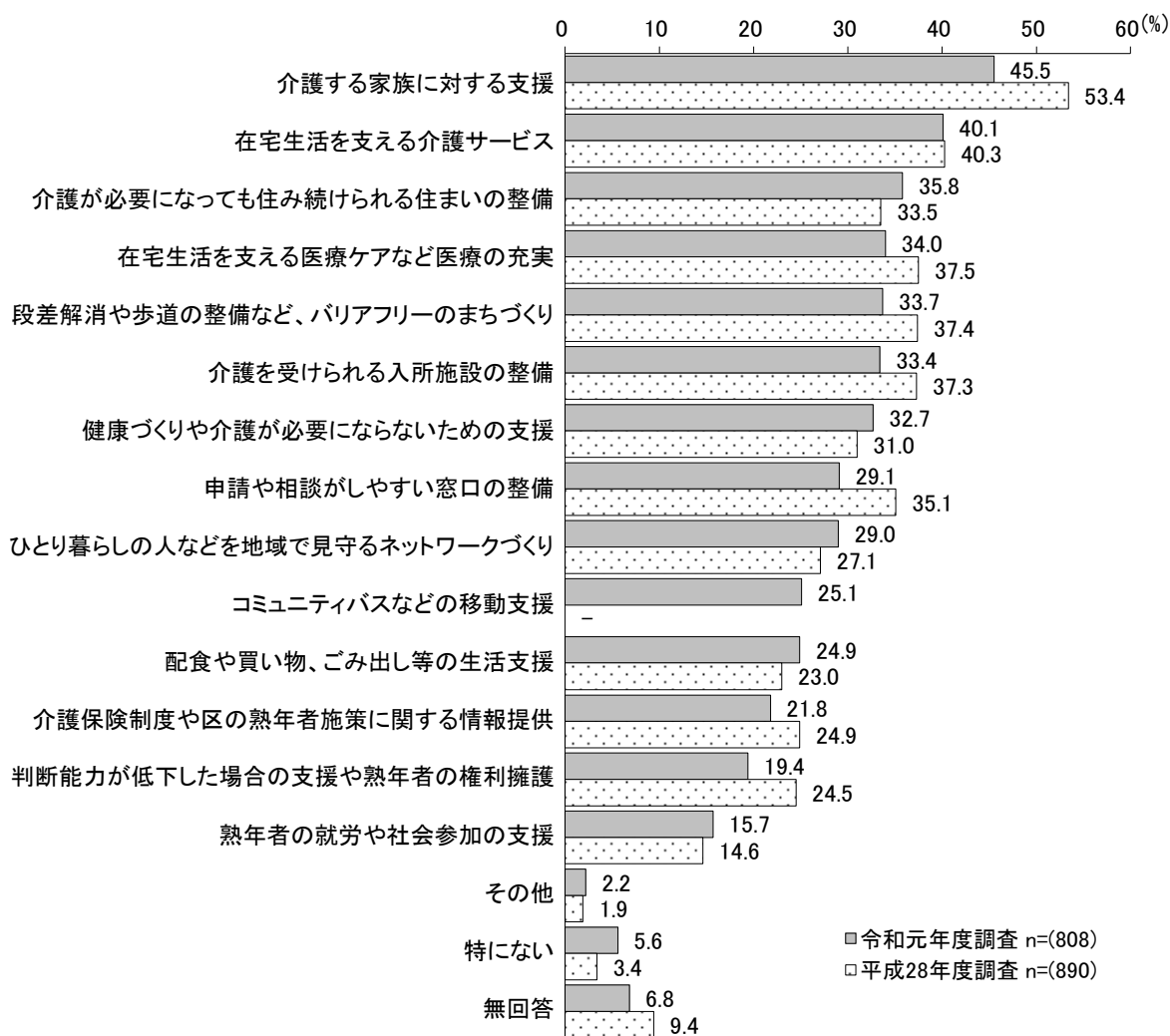
問33 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)【比較調査266頁参照】

今後充実すべき熟年者施策は、「介護する家族に対する支援」が45.5%で最も高く、次いで「在宅生活を支える介護サービス」が40.1%となっている。このほか、「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」が35.8%、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」が34.0%、「段差解消や歩道の整備など、バリアフリーのまちづくり」が33.7%、「介護を受けられる入所施設の整備」が33.4%、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が32.7%と3割台でおおむね並んでいる。

平成28年度調査と比較すると、「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」(前回7位)が今回3位と順位を上げている。割合は、減少している項目が多く、中でも、「介護する家族に対する支援」が約8ポイント、「申請や相談がしやすい窓口の整備」が約6ポイント、「判断能力が低下した場合の支援や熟年者の権利擁護」が約5ポイント減少している。

図表5-13 今後充実すべき熟年者施策(複数回答)





## (12) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

(165 件について分類し、抜粋して記載)

### 【1】介護サービスの内容や質、サービス提供事業者について (32 件より抜粋)

- ・毎月の紙おむつの支給がとても助かっています。入院していた時もおむつ代が結構かかったもので、おむつ使用料の助成があり、有難かったです。
- ・政府には介護サービスの縮小を議論している動きがありますが、現在、江戸川区から提供されているサービスは引き続き維持して頂きたいです。現状、デイサービスとショートステイは違うカテゴリーとして運用されていますが、一体運用して頂けると、「ショートステイをしながらデイサービスのアクティビティに参加する」ことができるので、それを希望します。
- ・ケアマネの知識レベルが低い。利用者または家族を考慮した、利用者に合わせたケアプランを作成することができていないと思う(法律、点数を中心としたケアプラン作りになっている)。また、認定更新時に面談に来る人の知識レベルに差があり、利用者、家族が困る事が多々ある。自立支援、障害者1級の利用者が要介護1で査定された(車イスを利用)。ケアマネ等の意識、教育、資格保有して行くための仕掛け作りが必要。
- ・父のおむつを月一回頼んでいますが、毎回届くのが遅く困っています。もっと確実に配送して欲しいと思います。
- ・色々な手続きがわかりづらい。高齢者でもわかる様にして欲しい。

### 【2】サービス利用料・介護保険料その他経済的負担について (21 件より抜粋)

- ・女性、現在82歳、一人暮らし、家族・子どももなし。現時点では介護保険を利用して、どうか頑張って生活しておりますが、利用できない部分が多々あり。その都度、実費で賄っていません。毎日が不安でいっぱい。医療機関への通院支援などがあれば、まだ自立することができます。また、介護保険を利用して、家の中の手すりその他の改修をお願いしましたが、無駄な費用がかかり、とても残念な思いです。プロにお任せして安心しておりましたが、そのようなことにも目を向けて頂けたら幸いです。利用者は高齢者！考える能力も低下しております。
- ・介護保険料が年々高くなり、生活費が苦しくなった様な気がします。
- ・腰痛(ヘルニア)があるために歩くのが不自由なので、どうするべきか。タクシー券が利用できたら買い物に出かけることができると思いますが、ギリギリの生活のため困っています。何とか考えて欲しい限りです。
- ・低所得者で障害者になり、介護が必要になり、高齢になると、夫婦共に働けず、全部子ども達の負担になり、生活も大変になります。保険料や家賃も大変になります。零細企業者の老後をもっと考えて欲しい。公務員や厚生年金生活者との格差は大きいと思います。
- ・年金の金額内で安心・安全に(不安を感じない)生活ができるようにして欲しい。
- ・おむつ代が毎月2万円近くかかりますが、これからもっとかかると思うので、区からの補助をもう少し増やして頂ければと思います。

### 【3】区の高齢者施策・介護保険事業について（10件より抜粋）

- ・今後も現状にあった、より良い政策、サービスがあることを願います。
- ・老老介護で介護する側が先に亡くなった場合と、子ども達の経済的な負担が多くて生活できない場合、共倒れになったときの対処方法などの相談を行える所を多く設けて欲しい。
- ・これから色々と手助けが必要になってきます。使いやすい制度をお願いします。
- ・江戸川区に限る事でなく、国の介護保険のサービスが縮小されていくようで、生きる事に不安を感じます。高齢者個人では体力的、能力的に行動を起こす事は難しいので、自治体全体で国にもっと要求して頂きたいと思います。
- ・認知症は進行する全ての段階で困る事が違います。初期では本人も家族も病気を受け入れ難く精神的に大変だし、中期では「徘徊」等が始まると、家族も本人も体力的にもきつくなります。ちょっとした事で体調に変化があるので、家族が付き添う時間も長くなり、仕事等との両立も難しくなります。行政サービスでできる事、できない事をよく話し合ってもらって頂き、たくさんの人に正しい情報を伝え、シンプルで使いやすい介護福祉であって欲しいです。

### 【4】生活支援、外出支援等について（9件より抜粋）

- ・高齢になったら運転できなくなるので、公共交通機関を利用したい。自転車も使用できなくなる。歩くのも大変です。江戸川区役所、小松川郵便局へのコミュニティバス等を格安運賃でお願いします。
- ・介護タクシーを利用させてもらっていますが、1、2回使用すると次は自己負担になり、大きな支出となっています。介護タクシーの援助増、負担軽減を是非ご一考願いたい。
- ・先日の台風19号の際に、要介護4の夫（在宅酸素を使用中）を連れて避難所へ行く事の難しさを感じ、施設や病院等での一時避難ができないものかと考えました。重度の要介護者や障害者が一般の方達と学校等で一緒に避難するのは、ハードルが高い様に感じます。
- ・週2回ヘルパーさんに来て頂いています。腰が痛いため助かっています。ゴミも家の前まで回収に来て頂いています。江戸川区は無料で回収してくれるそうで、江戸川区に住んで良かったと思います。
- ・時々、家の中を歩いていて転倒することがあります。本人は重たくて、女の私では起こせません。すぐ対応し、来てくれる方がいたらと思います。

### 【5】介護者の支援について（6件より抜粋）

- ・家族が通院に付き添いできないときの支援があると助かる。話は聞くが金額が高く、年金では利用できない。
- ・現在、母は小規模多機能型居宅介護を利用しています。私は仕事をしながら母の介護をしていますが、厳しいです。父も足腰が悪く、要支援2です。この先二人とも今よりも体調が悪くなってしまったら、介護のために仕事を辞めなくてはいけないと思うと、どうしていいのかわからないです。できることなら、介護保険施設に入れたいと思うのですが、費用の面などから思うようにはいきません。介護する家族への支援を充実して欲しいです。

- ・介護は、本人は段々意識が薄くなる中、手続をはじめ、中心となるのは家族です。現在、訪問リハビリ、訪問看護等で個別の指導を家族も受け、何故そうなるのかなど理論を学ぶことで、今のところ不安なく過ごせています。家族の安定と患者の安定はイコールです。家族への支援が重要だと考えます。
- ・介護を自宅でしてくれる家族に対する助成、免除、減額などの制度を作って欲しい。

#### 【6】介護施設について（8件より抜粋）

- ・今後、高齢者がますます増えて、施設に入れたい人が増えると思います。充実した施設より、何とか生活できるくらいでいいですから、安心して暮らせる施設を増やして欲しいです。
- ・経管栄養なので、ショートステイの入所ができなくて困っています。
- ・家族の体調が悪いときなどに、手軽に即入れるショートステイがあれば嬉しい。
- ・現在、要介護3の母と二人暮らしです。デイサービスとショートステイを利用させて頂き、大変助かっています。しかし、今後介護度が上がっていったら、どうなるのかと不安です。重くなったら施設への入所を考えています。また、利用料が高くなるのは困ります。入所をお願いしても何年待ちという話もよく聞きます。施設を増設して困ったときにすぐ入れる様にして頂きたいです。

#### 【7】その他の区に対する意見や要望（79件より抜粋）

- ・介護職の方々は大変な割に賃金が低いので、もっとやりがいがあるように、手当等を上げて欲しい。
- ・家にいるとき、防災行政無線放送が聞こえない。
- ・水害時に逃げられる高い建物をたくさん確保して欲しいです。
- ・現在義母とマンションの5階に同居しており、万が一水害が発生した場合は、在宅避難を想定しております。災害弱者（車いすを利用し、自立歩行が困難である方など）のための災害時の備え・準備などの情報を提供して欲しいと思います。
- ・車いす利用者のための歩道の整備をしてください。傾斜・段差があると転倒します。ハザードの警報を受けても、悪天候の最中に、移動や区外への避難は不可能です。
- ・このようなアンケートをしてくださることに感謝します。内容を読みながら私達自身も無意識に過ぎず、しっかり関心を持って、自分の終活が少しでも楽しく、お互いにつながりを保つあり方、組織になっていけるように協力していきたいと思います。今、デイサービスとリハビリの施設に週1回ずつ通っておりますが、その施設ももっと皆の意見を汲んで欲しいと思うこともあります。江戸川区がたびたび皆の意見を聞いて、良い区になりますように。
- ・江戸川区の対策は充実していると思いますが、自分が病気になって介護を受ける立場になったとき、もっと安心して介護を受けるには財産が少なく、とても望んだとおりには無理なので、この先がとても不安です。

- ・江戸川区に在住 45 年。私にとって住みやすい都です。ここに骨を埋めようと考えています。当たり前のことですが、家族でできる事は家族の中でよく考え、必要な分だけ利用できればありがたい。甘え、わがままは福祉を後退させます。利用者、家族を甘やかせるのではなく、お互いに成長できる本当の福祉が良いです。
- ・地元の子ども達との交流の場が日頃からあると、双方にとって良いように思います。子ども食堂もその一つです。自宅の近くにあったら、是非参加したいと思います。認知症サポーター養成講座等、様々な取組をしてくださっているお陰で、認知症患者や家族への理解が少しずつ広まってきていると実感しております。

# 第4章

## 熟年者のお元気度チェック調査

### < 調査概要 >

調査方法	活動場所での配布一回収（郵送回収を含む）
調査対象者	リズム運動、くすのきクラブ、くすのきカルチャー教室、シルバー人材センター、ウォーキング、にこにこ運動教室の参加者
抽出方法	—
調査期間	令和元年12月6日～令和2年1月10日
対象者数 及び 回収率	対象者数： 648 有効回収数： 510 有効回収率： 78.7%



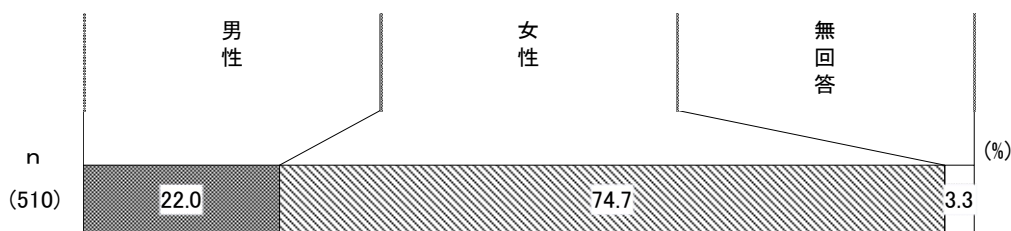
# 1 基本属性

## (1) 性別、現在の満年齢

問17 あなた(あて名のご本人)の性別、令和元年12月1日現在の満年齢をお答えください。

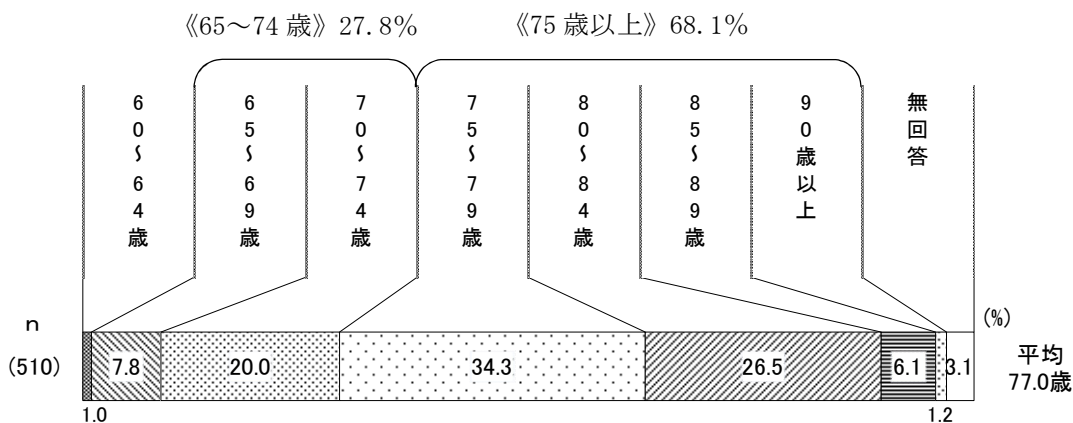
性別は、「男性」が22.0%、「女性」が74.7%と、女性の方が約53ポイント高い。

図表 1-1 性別 (単数回答)



年齢は、「65～69歳」が7.8%、「70～74歳」が20.0%で、これらを合わせた《65～74歳》は27.8%となっている。一方、「75～79歳」(34.3%)、「80～84歳」(26.5%)、「85～89歳」(6.1%)、「90歳以上」(1.2%)を合わせた《75歳以上》は68.1%である。平均は77.0歳となっている。

図表 1-2 現在の満年齢 (単数回答)



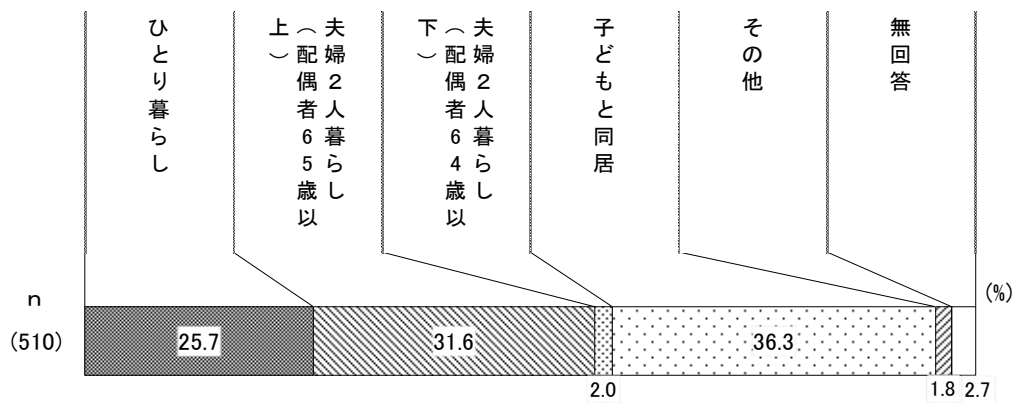
## (2) 世帯構成

問18 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

【比較調査252頁参照】

世帯構成は、「子どもと同居」が36.3%で最も高く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が31.6%、「ひとり暮らし」が25.7%となっている。

図表1-3 世帯構成(単数回答)



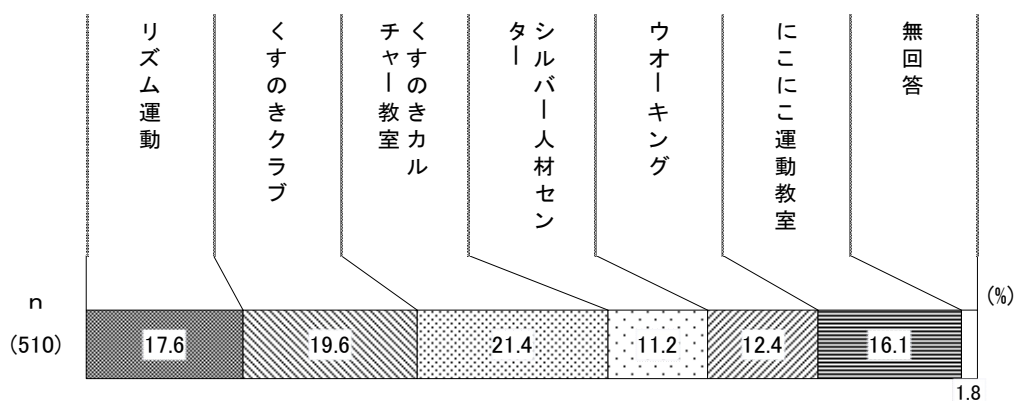


## 2 参加している活動について

### (1) 参加している地域活動

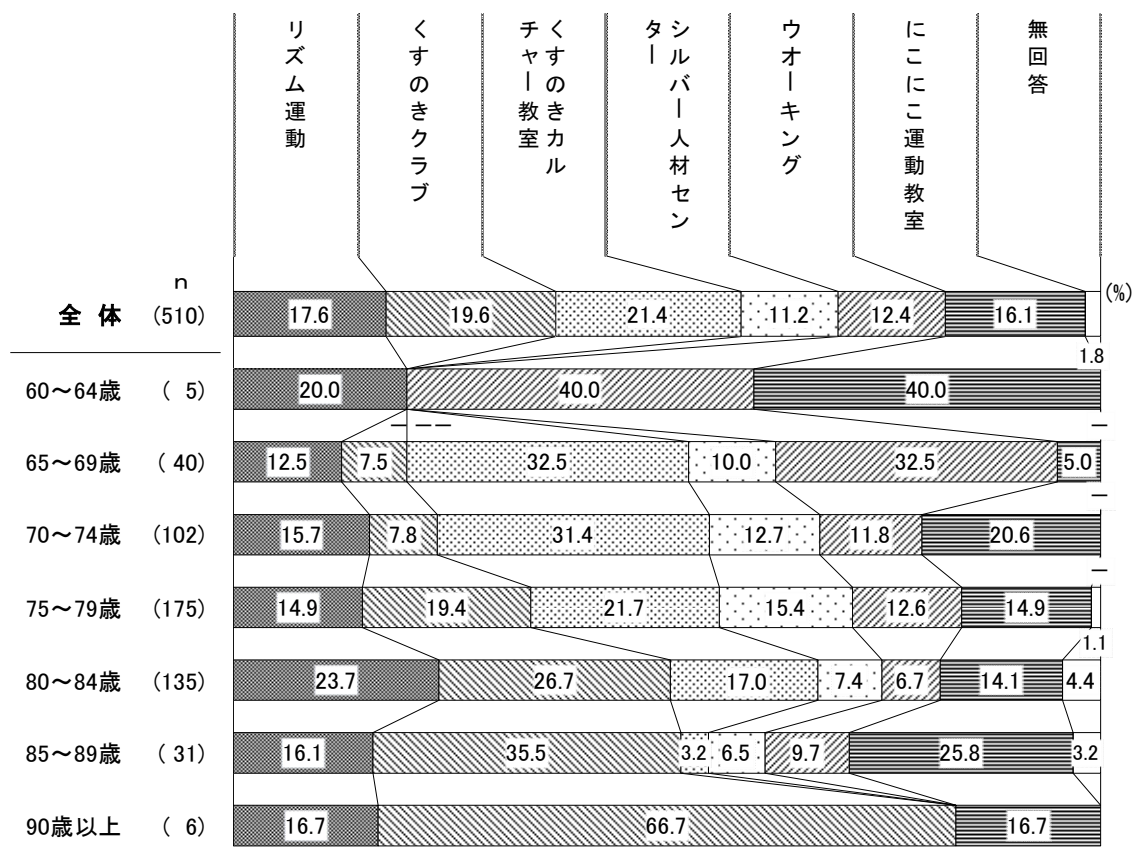
調査回答者の参加している地域活動は、「くすのきカルチャー教室」が21.4%、「くすのきクラブ」が19.6%、「リズム運動」が17.6%、「にこにこ運動教室」が16.1%などとなっている。

図表 2-1 参加している地域活動（単数回答）



年齢別でみると、65～69歳では「くすのきカルチャー教室」と「ウォーキング」が並んでいる。70～79歳は「くすのきカルチャー教室」が、80～89歳は「くすのきクラブ」が高くなっている。

図表 2-2 参加している地域活動／年齢別



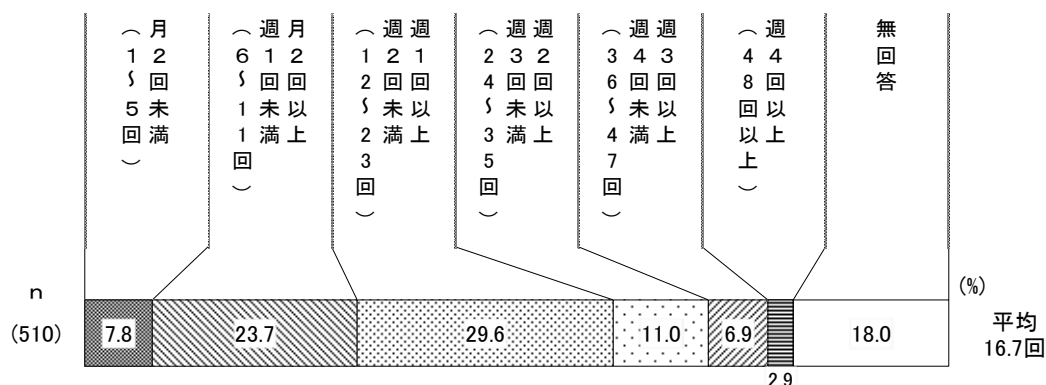
## (2) 参加（就業）回数

問1 この3か月の間に、何回(何日)くらい参加しましたか。

※シルバー人材センターで活動している方は就業日数をご記入ください。

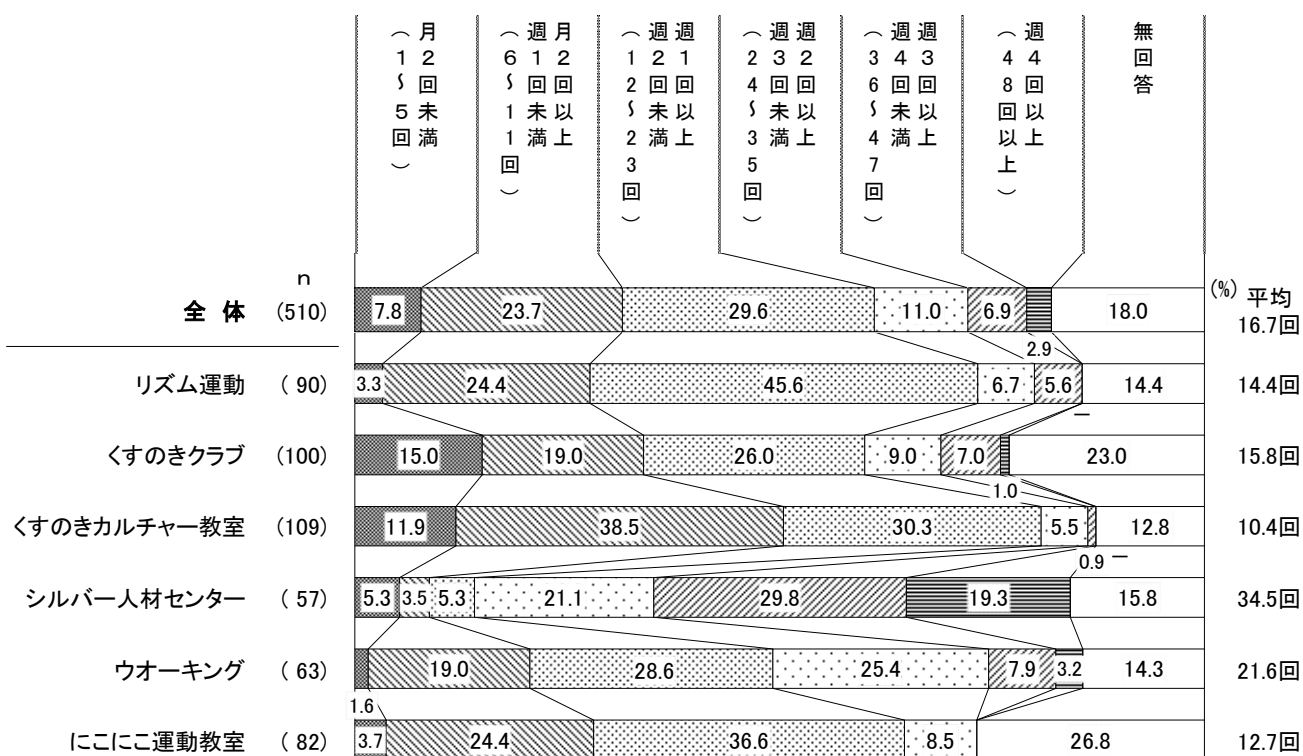
この3か月間の参加（就業）回数は、「週1回以上週2回未満（12～23回）」が29.6%で最も高く、次いで「月2回以上週1回未満（6～11回）」が23.7%となっている。平均は16.7回である。

図表2-3 参加（就業）回数（単数回答）



参加している地域活動別でみると、くすのきカルチャー教室は「月2回以上週1回未満（6～11回）」、シルバー人材センターは「週3回以上週4回未満（36～47回）」が、それ以外は「週1回以上週2回未満（12～23回）」が、それぞれの活動の中で高くなっている。

図表2-4 参加（就業）回数／参加している地域活動別

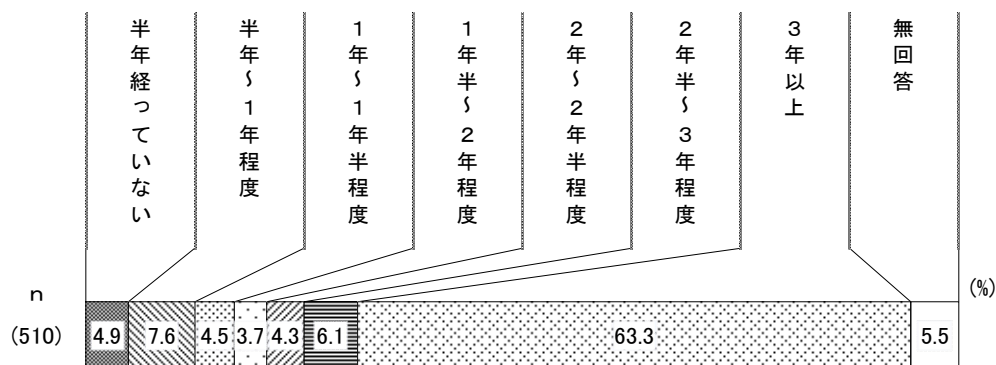


### (3) 活動年数

問2 この活動に参加して、どのくらい経ちますか。(1つに○)

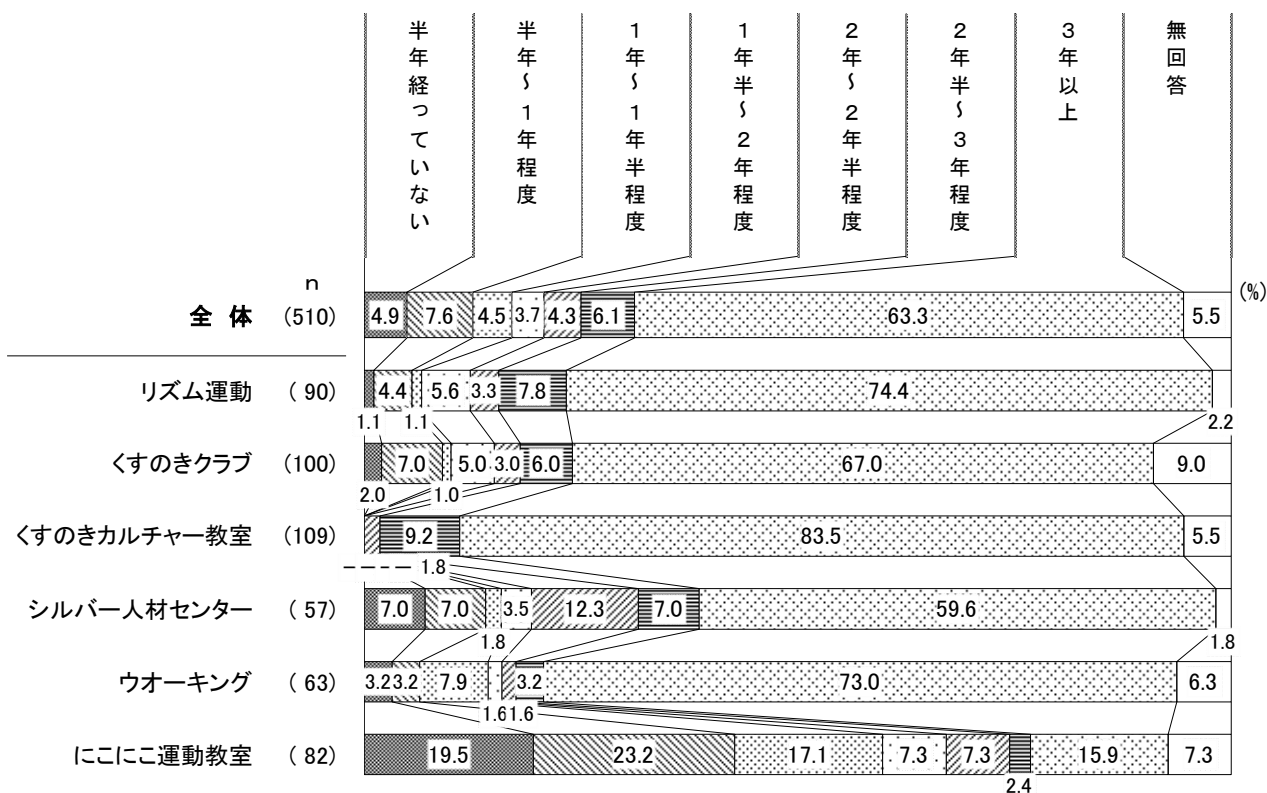
活動年数は、「3年以上」が63.3%で最も高くなっている。

図表2-5 活動年数(単数回答)



参加している地域活動別でみると、にこにこ運動教室を除き「3年以上」が高く、特に、くすのきカルチャー教室では83.5%となっている。にこにこ運動教室は「半年〜1年程度」が23.2%、「半年経っていない」が19.5%、「1年〜1年半程度」が17.1%などとなっている。

図表2-6 活動年数/参加している地域活動別

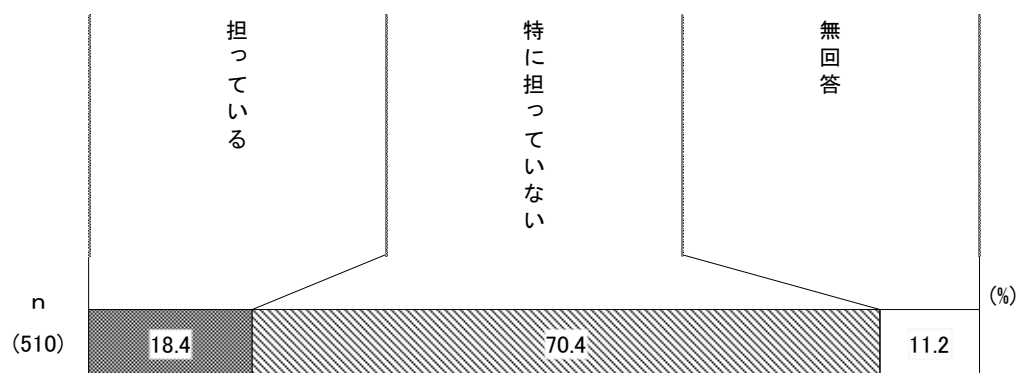


#### (4) 活動の運営にかかわる役割の有無

問3 この活動の中で、あなた(あて名のご本人)は活動の運営にかかわる何らかの役割を担っていますか。(1つに○)(例:世話人さん、役員、会計、広報など)

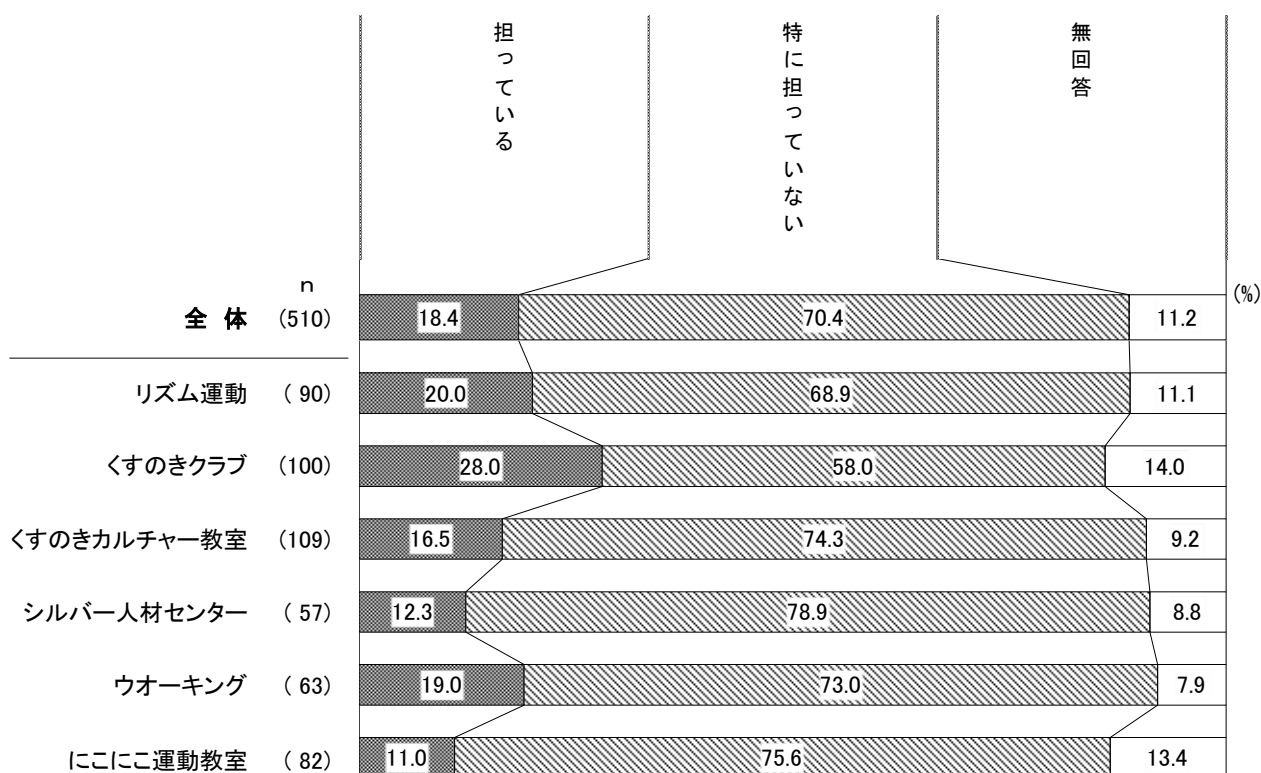
活動の運営にかかわる役割の有無は、「担っている」が18.4%となっている。

図表2-7 活動の運営にかかわる役割の有無(単数回答)



参加している地域活動別でみると、「担っている」は、くすのきクラブで28.0%と他の活動に比べて最も高くなっている。

図表2-8 活動の運営にかかわる役割の有無/参加している地域活動別



### 3 健康状態などについて

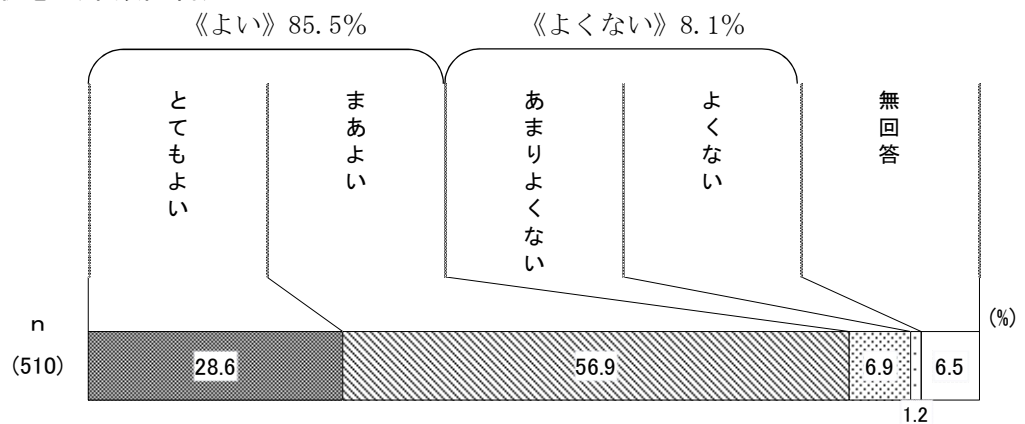
#### (1) 健康状態

問4 現在のあなた(あて名のご本人)の健康状態は、いかがですか。

(1つに○)【比較調査253頁参照】

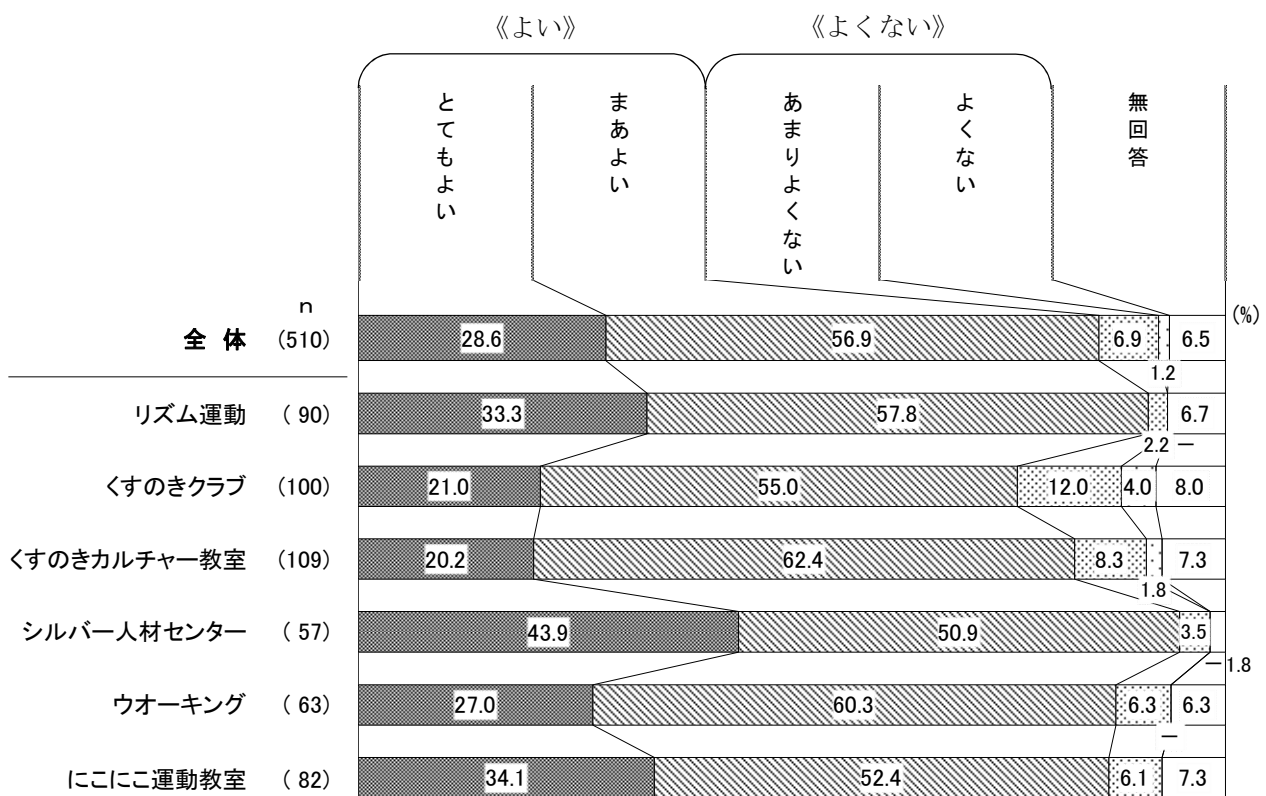
健康状態は、「とてもよい」が28.6%で、「まあよい」が56.9%と最も高くなっている。これらを合わせた《よい》は85.5%である。

図表3-1 健康状態(単数回答)



参加している地域活動別でみると、「とてもよい」がシルバー人材センターで43.9%と高くなっている。

図表3-2 健康状態/参加している地域活動別



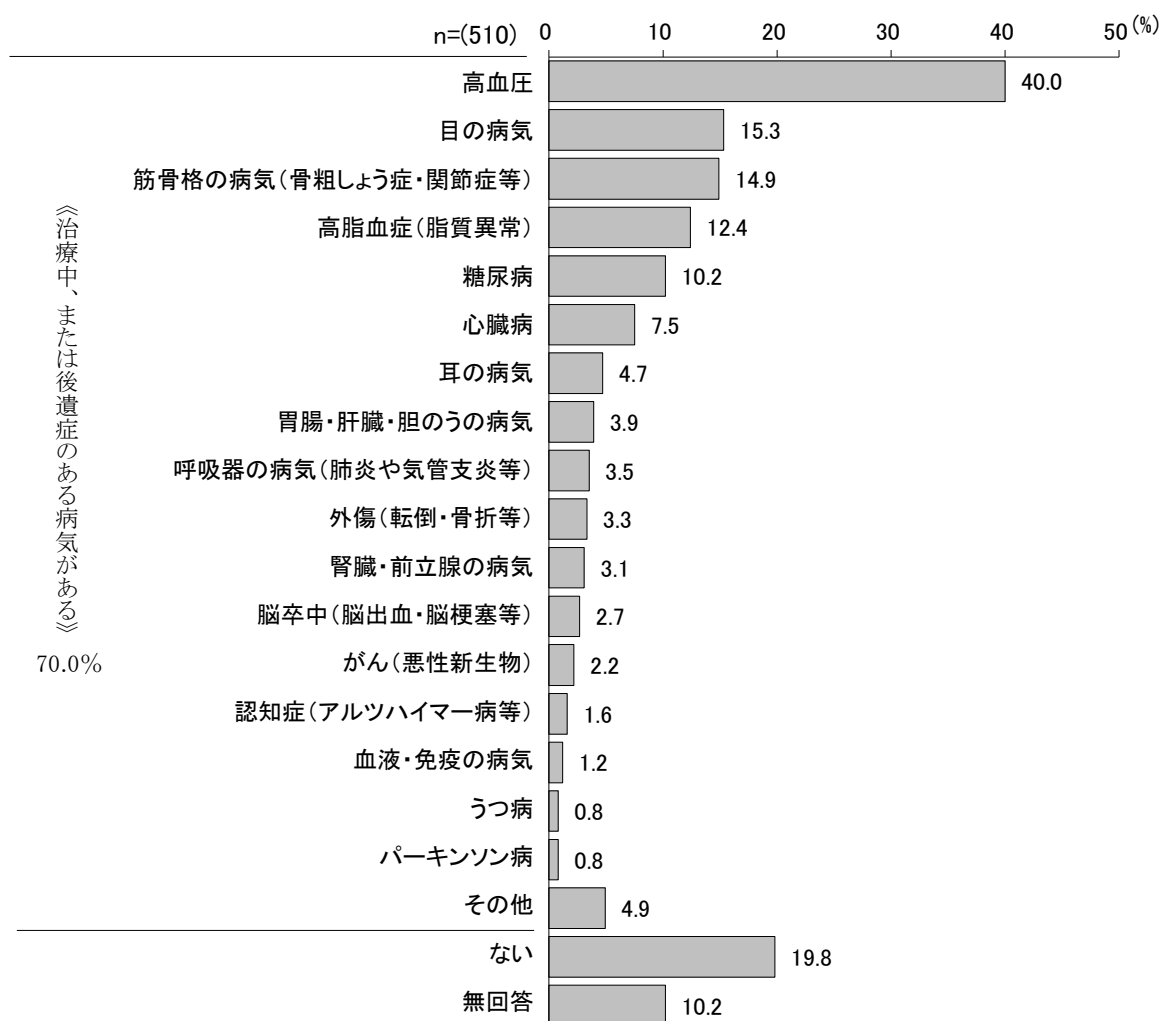
## (2) 治療中、または後遺症のある病気

問5 あなた(あて名のご本人)は、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

治療中、または後遺症のある病気では、《治療中、または後遺症のある病気がある》が70.0%、「ない」が19.8%である。

病気の中では、「高血圧」が40.0%で最も高く、次いで「目の病気」が15.3%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」が14.9%などとなっている。

図表3-3 治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



※《治療中、または後遺症のある病気がある》 = 100% - 「ない」 - 「無回答」

参加している地域活動別でみると、《治療中、または後遺症のある病気がある》は、くすのきクラブで81.0%と最も高く、次いでウォーキングで74.6%、くすのきカルチャー教室で73.4%となっている。

図表3-4 治療中、または後遺症のある病気／参加している地域活動別

		n(人)	高血圧	目の病気	筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)	高脂血症(脂質異常)	糖尿病	心臓病	耳の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	外傷(転倒・骨折等)	腎臓・前立腺の病気
参加している地域活動別	リズム運動	90	40.0	15.3	14.9	12.4	10.2	7.5	4.7	3.9	3.5	3.3	3.1
	くすのきクラブ	100	41.1	13.3	16.7	11.1	11.1	6.7	5.6	2.2	2.2	1.1	2.2
	くすのきカルチャー教室	109	50.0	27.0	22.0	12.0	13.0	11.0	5.0	5.0	5.0	4.0	8.0
	シルバー人材センター	57	33.0	11.9	13.8	18.3	5.5	9.2	2.8	3.7	4.6	5.5	1.8
	ウォーキング	63	31.6	5.3	-	5.3	15.8	5.3	1.8	1.8	3.5	-	5.3
	にこにこ運動教室	82	39.7	6.3	9.5	14.3	11.1	4.8	4.8	3.2	3.2	3.2	-

		n(人)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	がん(悪性新生物)	認知症(アルツハイマー病等)	血液・免疫の病気	うつ病	パーキンソン病	その他	ない	無回答	《治療中、または後遺症のある病気》
参加している地域活動別	リズム運動	90	2.7	2.2	1.6	1.2	0.8	0.8	4.9	19.8	10.2	63.3
	くすのきクラブ	100	1.1	1.1	1.1	-	-	1.1	3.3	26.7	10.0	81.0
	くすのきカルチャー教室	109	4.0	2.0	3.0	1.0	1.0	1.0	5.0	9.0	10.0	73.4
	シルバー人材センター	57	2.8	3.7	-	2.8	1.8	-	6.4	16.5	10.1	57.9
	ウォーキング	63	1.8	1.8	-	1.8	-	-	3.5	35.1	7.0	74.6
	にこにこ運動教室	82	1.6	-	1.6	-	-	-	7.9	15.9	9.5	63.4

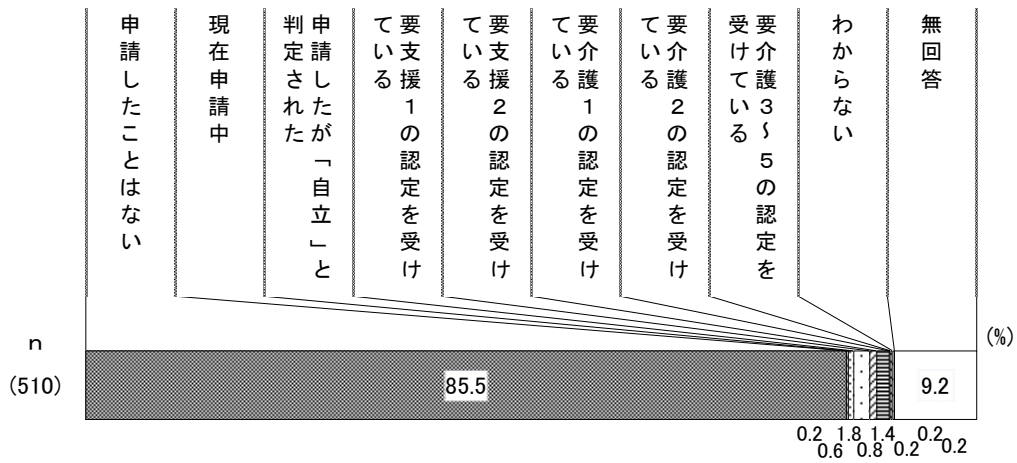
※《治療中、または後遺症のある病気》=100% - 「ない」 - 「無回答」

### (3) 要介護認定の申請経験

問6 あなた(あて名のご本人)は、これまでに介護保険の要介護認定を申請したことがありますか。(1つに○)

要介護認定の申請経験は「申請したことはない」が85.5%となっている。

図表 3-5 要介護認定の申請経験 (単数回答)





## 4 食べることについて

### (1) BMI

問7 あなた(あて名のご本人)の身長と体重を記入してください。

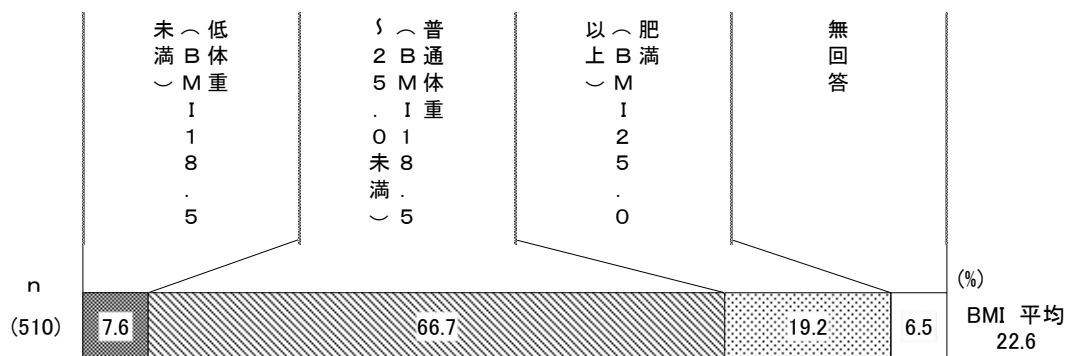
(枠の中に数字をご記入ください)

※身長・体重はBMIを求めるものとし非掲載としている。

この設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、低栄養の傾向を問うものとされており、BMIが18.5未満の場合、低栄養が疑われる高齢者と考えられている。

身長と体重の結果をもとにBMIを算出したところ、「低体重 (BMI 18.5未満)」は7.6%、「普通体重 (BMI 18.5～25.0未満)」が66.7%、「肥満 (BMI 25.0以上)」が19.2%となっている。

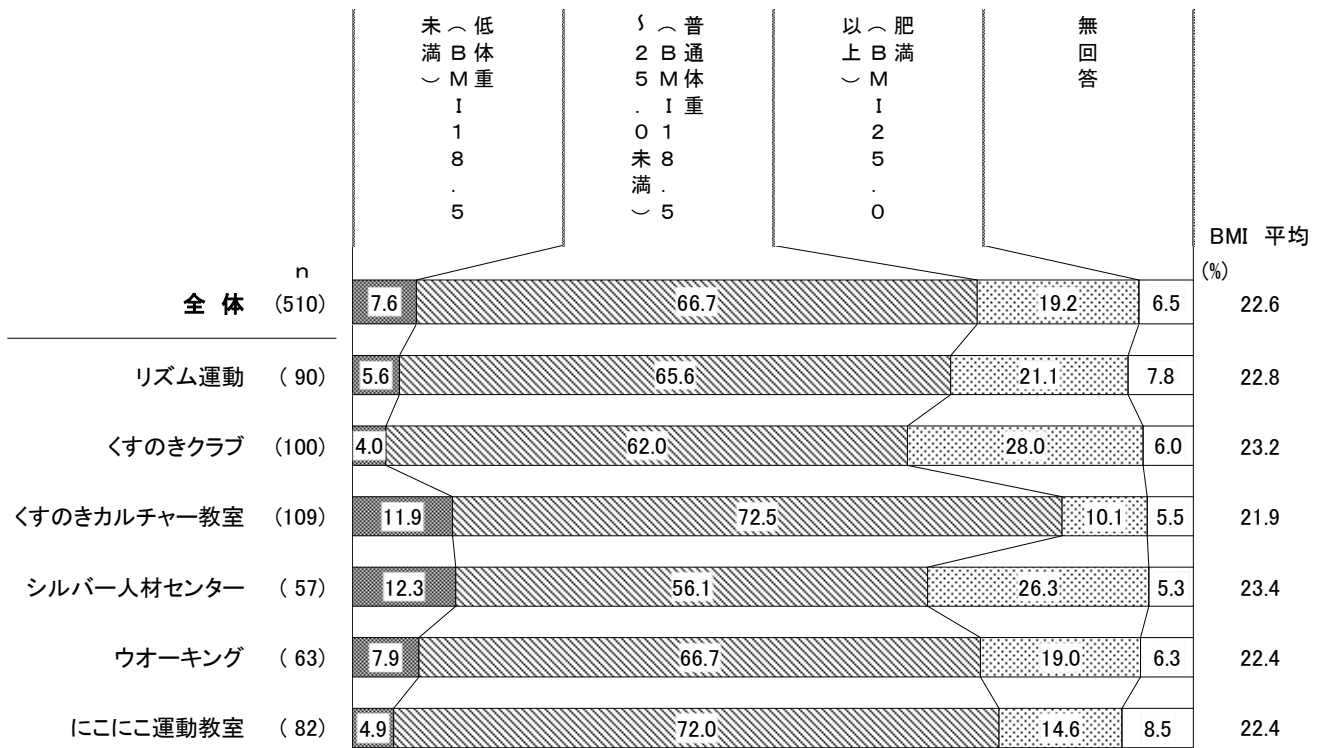
図表4-1 BMI (単数回答)



※BMI (Body Mass Index=体格指数) については、31 ページを参照のこと

参加している地域活動別でみると、いずれの活動も、「普通体重（BMI 18.5～25.0未満）」が高くなっているが、「肥満」がくすのきクラブで28.0%、シルバー人材センターで26.3%みられる。

図表4-2 BMI / 参加している地域活動別



## (2) 食事や口の健康

問8 あなた(あて名のご本人)の食事や口の健康についてお答えください。(それぞれ1つに○)

### ア 咀嚼機能

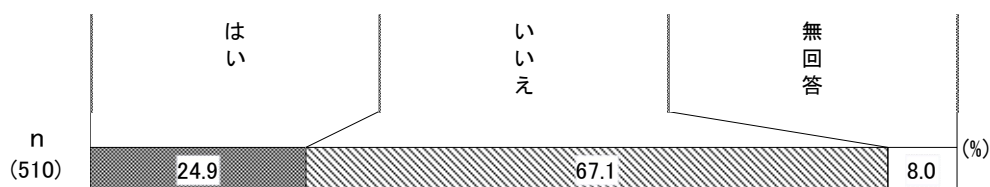
#### 設問内容

①半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

この設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調実施の手引き』において、口腔機能の低下のうち咀嚼機能の低下を問うものとされており、「はい」は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者と考えられている。

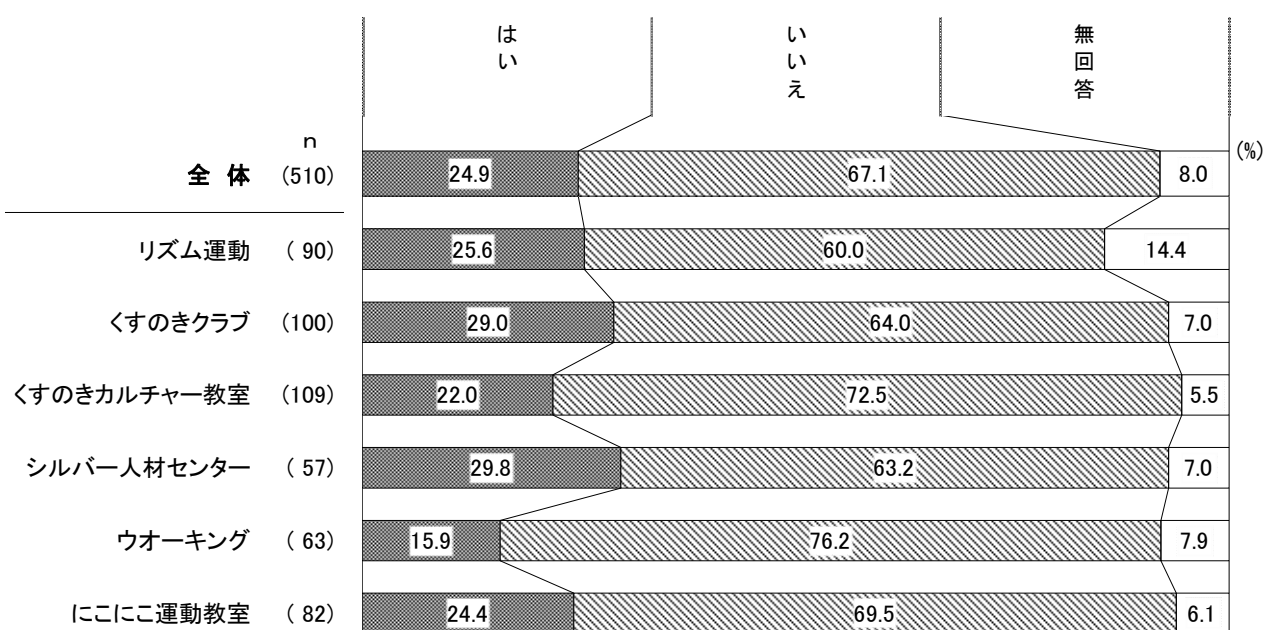
結果としては、「はい」が24.9%である。

図表 4-3 咀嚼機能 (単数回答)



参加している地域活動別で見ると、「はい」は、シルバー人材センターで29.8%と最も高く、次いでくすのきクラブで29.0%となっている。

図表 4-4 咀嚼機能/参加している地域活動別



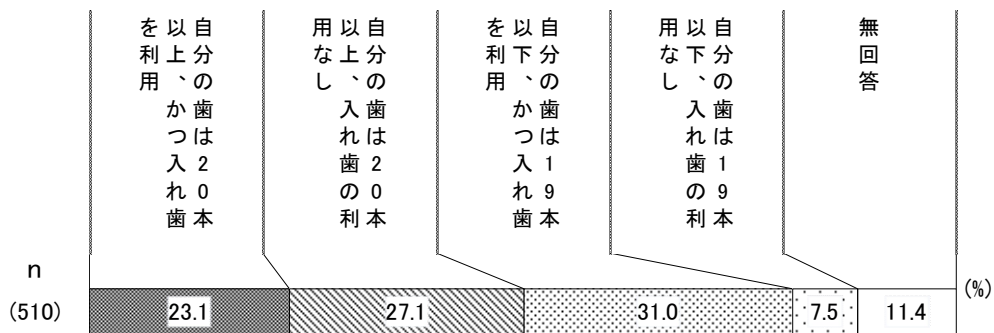
イ 義歯の有無と歯数

設問内容
②歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

この設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、高齢者の口腔の健康状態や義歯の使用状況の把握により、地域の歯科医療や口腔機能の向上に関するニーズの把握の参考となるものとされている。

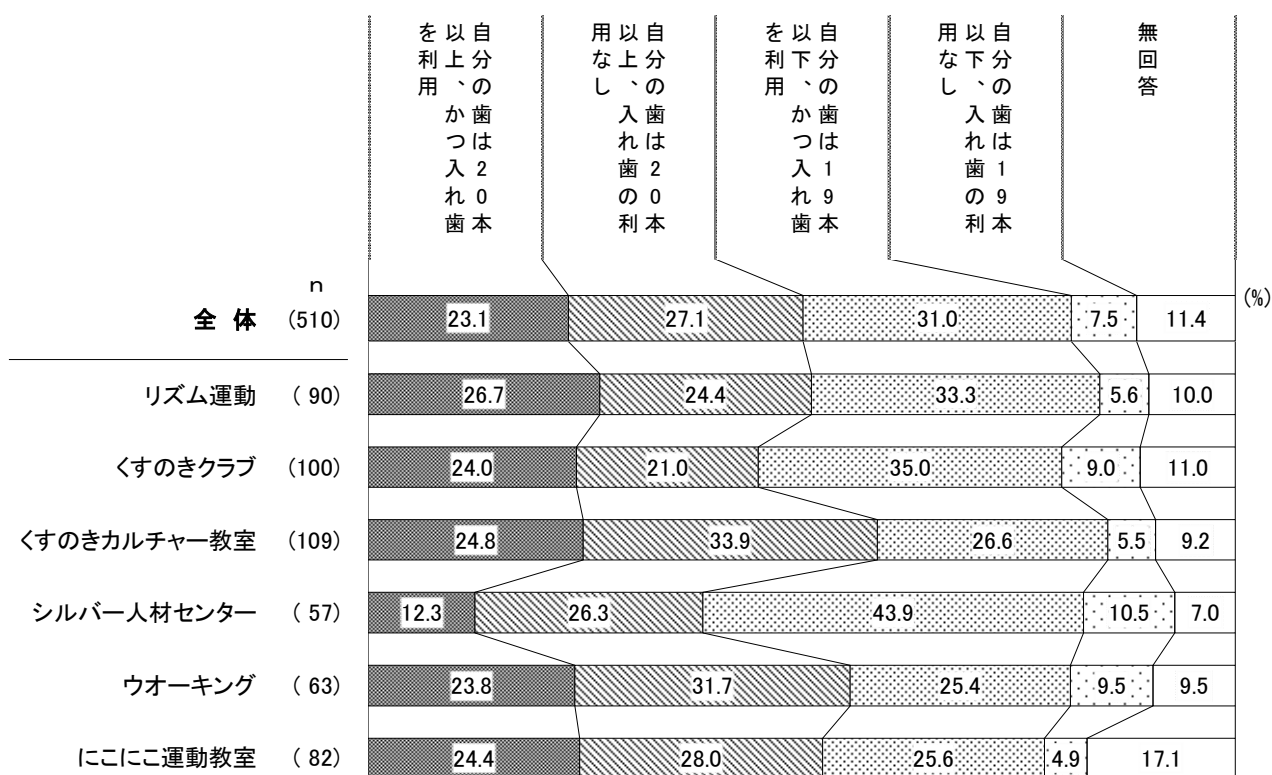
結果としては、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が31.0%、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が27.1%となっている。

図表 4-5 義歯の有無と歯数 (単数回答)



参加している地域活動別でみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」は、シルバー人材センターで43.9%と他の地域活動に比べて高くなっている。

図表4-6 義歯の有無と歯数／参加している地域活動別



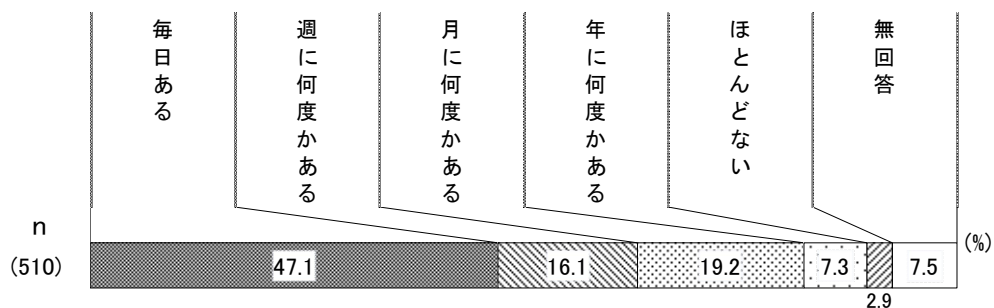
ウ 孤食の状況

設問内容
③どなたかと食事をとる機会がありますか。

この設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、孤食の状況を問う設問で、閉じこもり傾向と孤食の関係性を把握することで、地域課題（閉じこもり傾向の原因）の把握が可能になるものとされている。

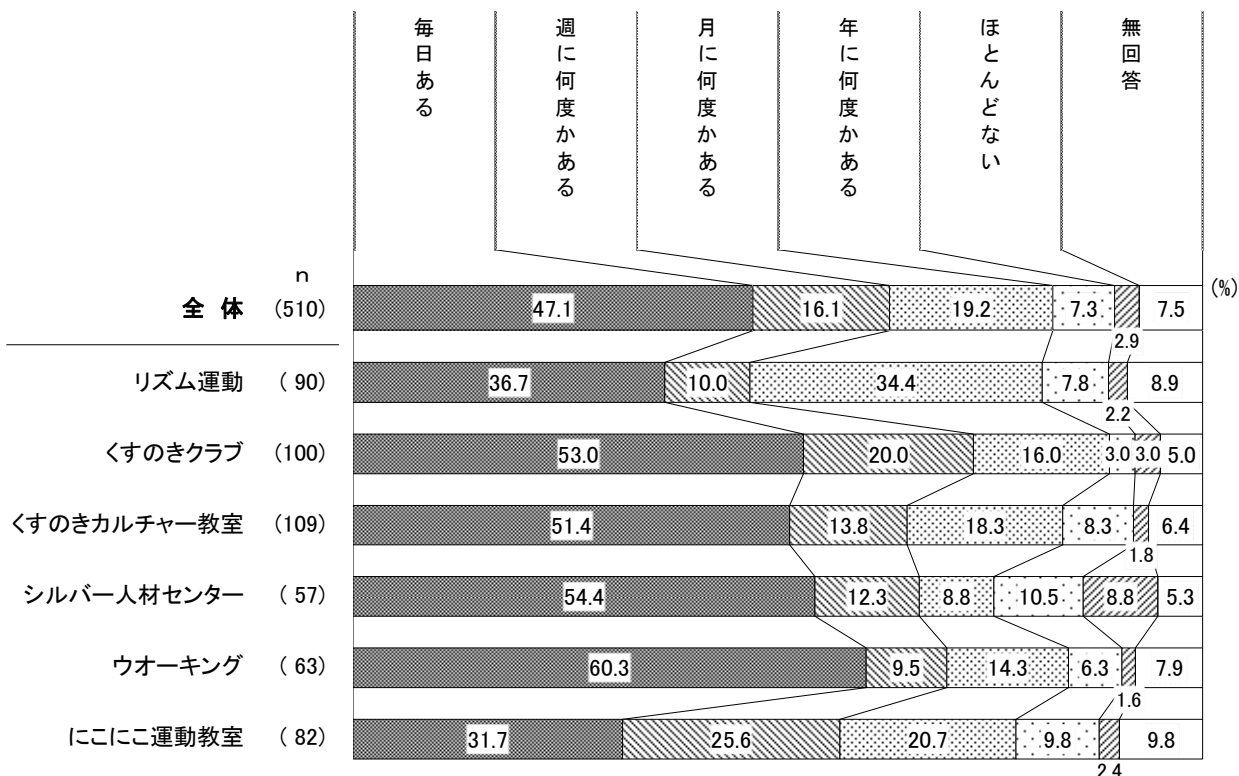
結果としては、「毎日ある」が47.1%で最も高く、「週に何度かある」が16.1%となっている。一方、「月に何度かある」が19.2%、「年に何度かある」が7.3%、「ほとんどない」が2.9%みられる。

図表 4-7 孤食の状況（単数回答）



参加している地域活動別でみると、リズム運動とにこにこ運動教室を除き、「毎日ある」は5割以上となっている。

図表 4-8 孤食の状況／参加している地域活動別



## 5 日常生活について

### (1) 毎日の生活について

問9 あなた(あて名のご本人)の毎日の生活についてお答えください。(それぞれ1つに〇)

#### ア 認知機能

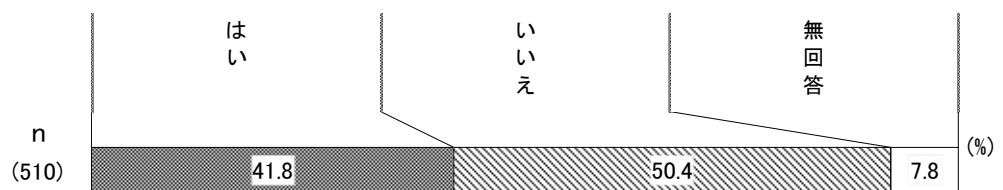
##### 設問内容

①物忘れが多いと感じますか。

この設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、認知機能の低下を問うものとされており、「はい」は、認知機能の低下がみられる高齢者と考えられている。

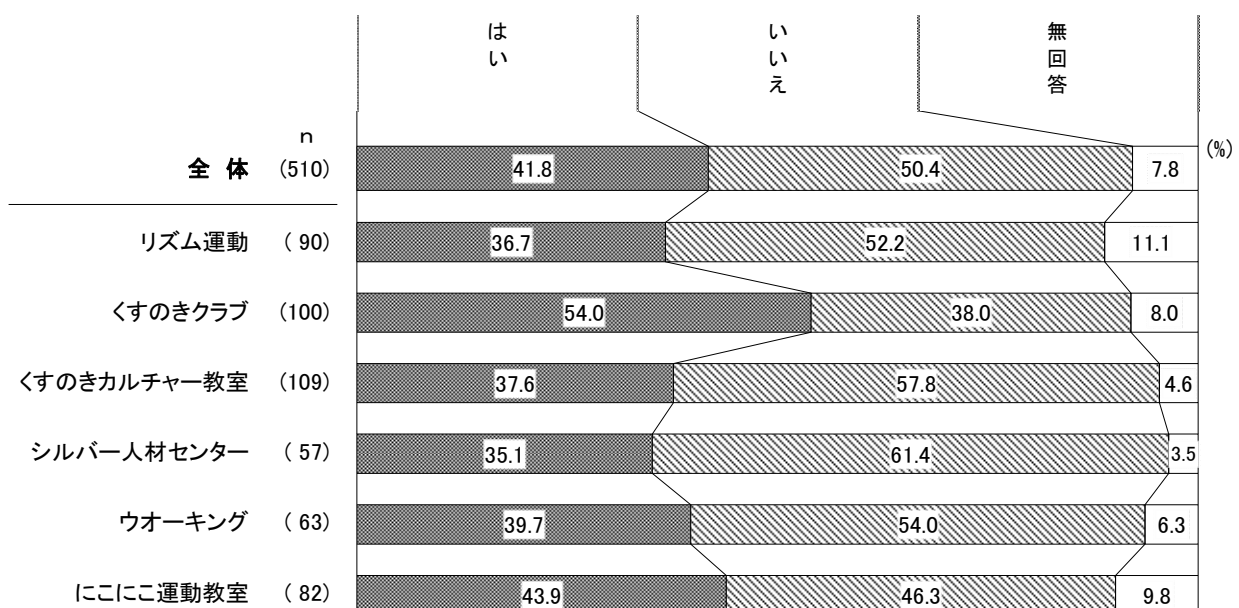
結果としては、「はい」が41.8%、「いいえ」が50.4%で、「いいえ」の方が高くなっている。

図表5-1 認知機能（単数回答）



参加している地域活動別でみると、「はい」は、くすのきクラブで54.0%と他の地域活動に比べて最も高くなっている。

図表5-2 認知機能／参加している地域活動別



設問内容	配点	選択肢	
②バスや電車を使って1人で外出していますか。 (自家用車でも可)	1	1. できるし、している	89.6%
	1	2. できるけどしていない	3.1%
	0	3. できない	1.2%
	0	無回答	6.1%
③自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1	1. できるし、している	91.4%
	1	2. できるけどしていない	2.0%
	0	3. できない	1.2%
	0	無回答	5.5%
④自分で食事の用意をしていますか。	1	1. できるし、している	86.7%
	1	2. できるけどしていない	9.4%
	0	3. できない	3.1%
	0	無回答	0.8%
⑤自分で請求書の支払いをしていますか。	1	1. できるし、している	89.6%
	1	2. できるけどしていない	6.3%
	0	3. できない	1.8%
	0	無回答	2.4%
⑥自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1	1. できるし、している	91.4%
	1	2. できるけどしていない	5.7%
	0	3. できない	1.4%
	0	無回答	1.6%

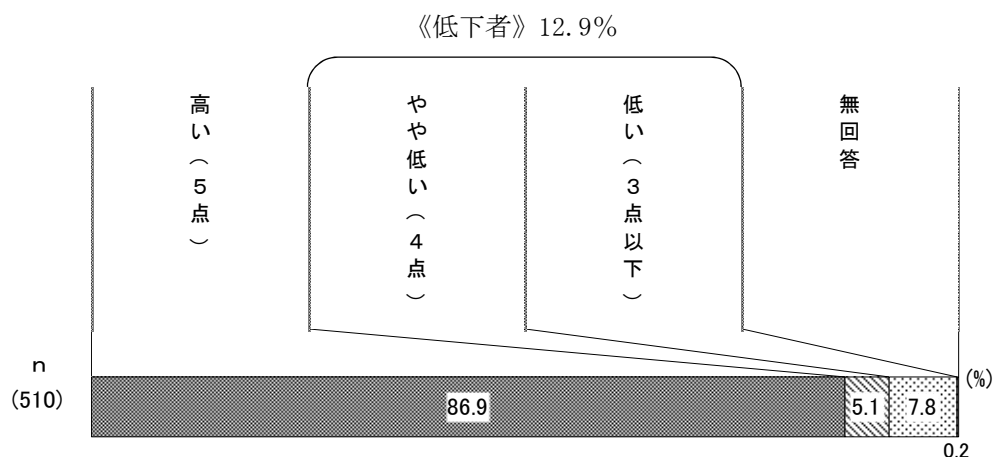
★合計が5点で自立度が「高い」、4点で「やや低い」、0～3点で「低い」と判定

これらの設問は、手段的日常生活動作（IADL）の自立度を把握する設問である。

『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』では、リスクについての判定については記載されていないが、ここでは、老研式活動能力指標による判定を用いて評価している。

結果としては、「高い（5点）」が86.9%で、「やや低い（4点）」（5.1%）と「低い（3点以下）」（7.8%）を合わせた《低下者》は12.9%となっている。

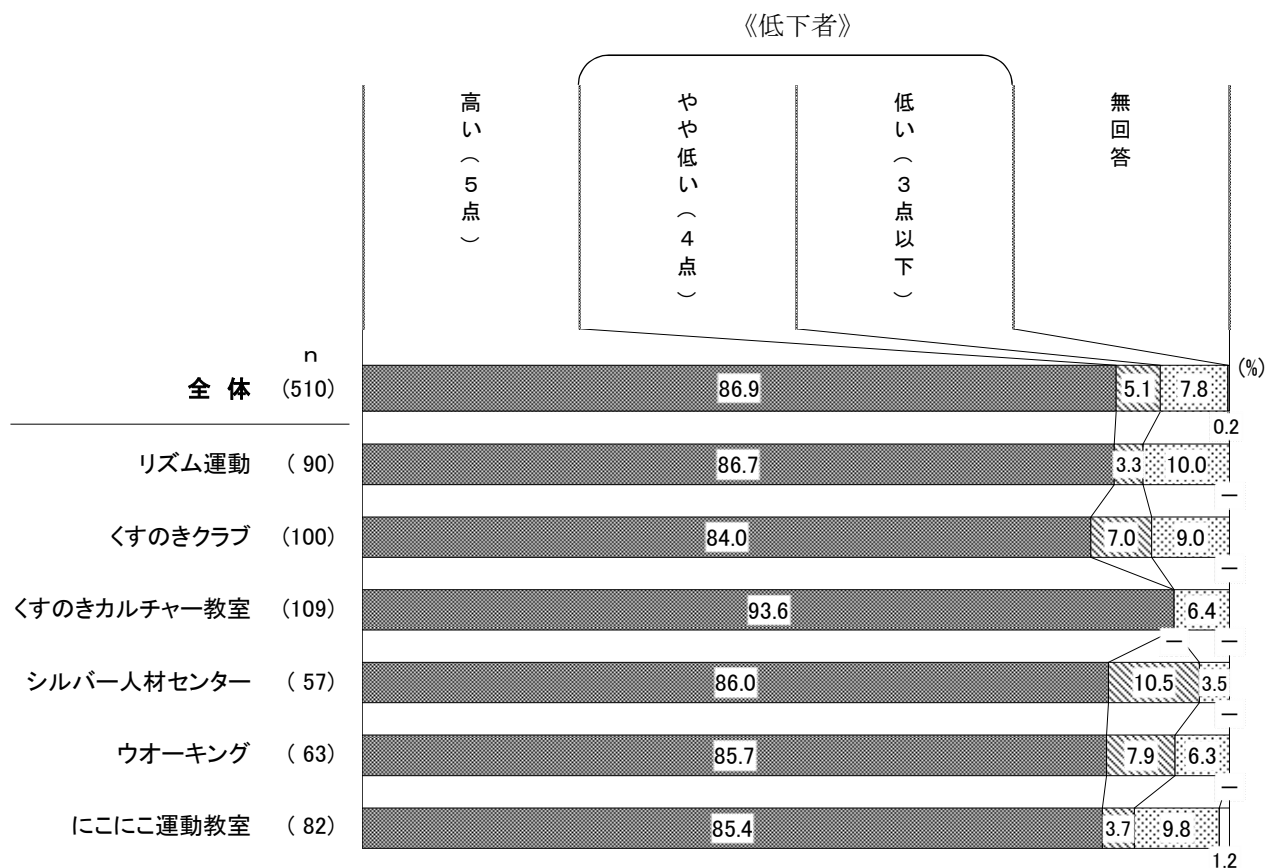
図表5-3 手段的日常生活動作（IADL）の自立度の評価（単数回答）





参加している地域活動別でみると、《低下者》は、くすのきカルチャー教室を除くとおおむね1割台半ばとなっている。

図表5-4 手段的日常生活動作（IADL）の自立度の評価／参加している地域活動別



## (2) からだを動かすことについて

問10 からだを動かすことについてお答えください。(それぞれ1つに○)

### ア 運動器機能の評価

【比較調査 257 参照】

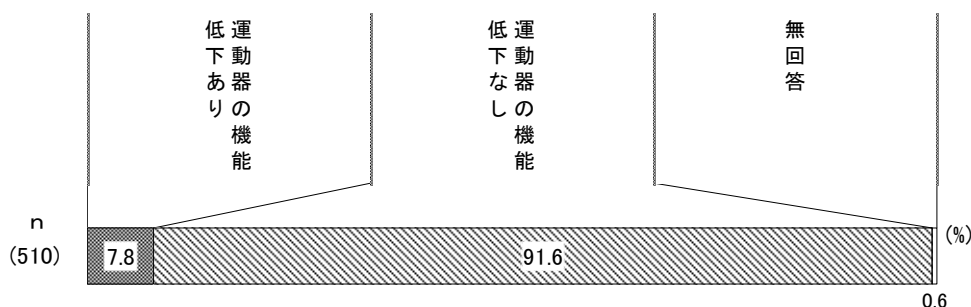
設問内容	配点	選択肢	
①階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	0	1. できるし、している	65.7%
	0	2. できるけどしていない	20.8%
	1	3. できない	11.8%
	0	無回答	1.8%
②椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	0	1. できるし、している	83.5%
	0	2. できるけどしていない	8.4%
	1	3. できない	5.9%
	0	無回答	2.2%
③15分位続けて歩いていますか。	0	1. できるし、している	90.0%
	0	2. できるけどしていない	5.9%
	1	3. できない	2.5%
	0	無回答	1.6%
④過去1年間に転んだことがありますか。	1	1. 何度もある	5.3%
	1	2. 1度ある	23.7%
	0	3. ない	68.6%
	0	無回答	2.4%
⑤転倒に対する不安は大きいですか。	1	1. とても不安である	12.5%
	1	2. やや不安である	39.0%
	0	3. あまり不安でない	27.5%
	0	4. 不安でない	19.6%
	0	無回答	1.4%

★合計が3点以上で「運動器機能が低下している高齢者」と判定

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、運動器の機能低下を問うものとされており、5つの設問で3問以上、機能低下に該当する選択肢が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者と考えられている。

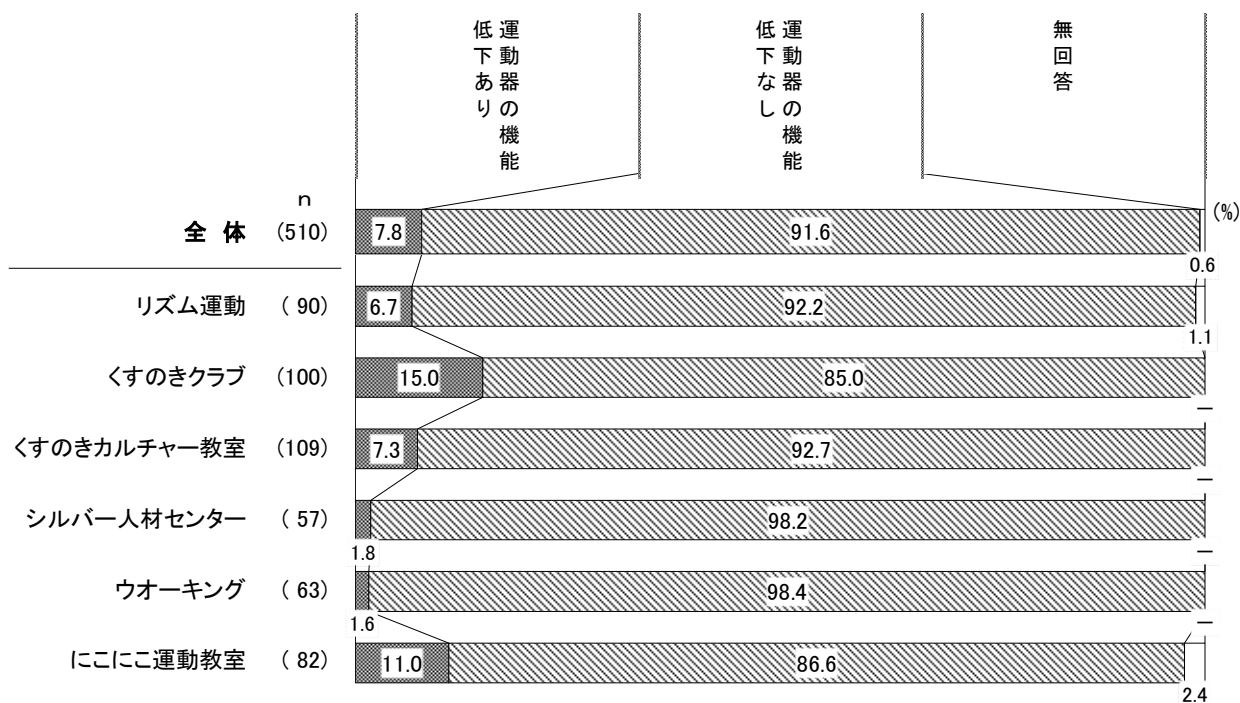
結果としては、「運動器の機能低下あり」は7.8%となっている。

図表 5-5 運動器機能の評価（単数回答）



参加している地域活動別でみると、「運動器の機能低下あり」は、くすのきクラブで15.0%、にこにこ運動教室で11.0%と他の地域活動に比べて高くなっている。

図表 5-6 運動器機能の評価／参加している地域活動別



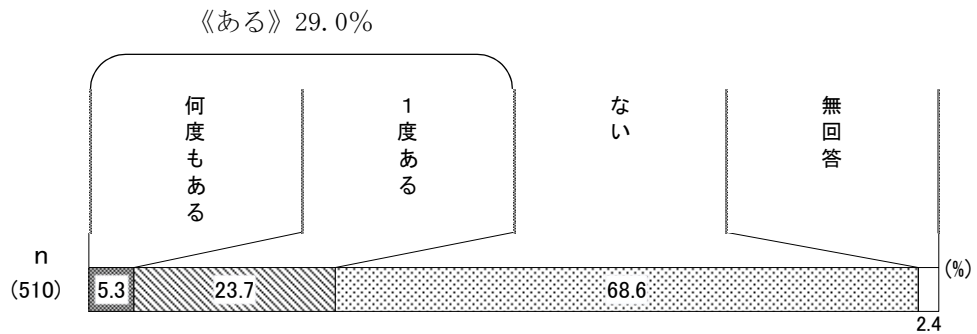
イ 転倒経験と転倒への不安

設問内容
④過去1年間に転んだことがありますか。
⑤転倒に対する不安は大きいですか。

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、転倒リスクを問うものとされており、“④過去1年間に転んだことがあるか”で、「何度もある」か「1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者と考えられている。

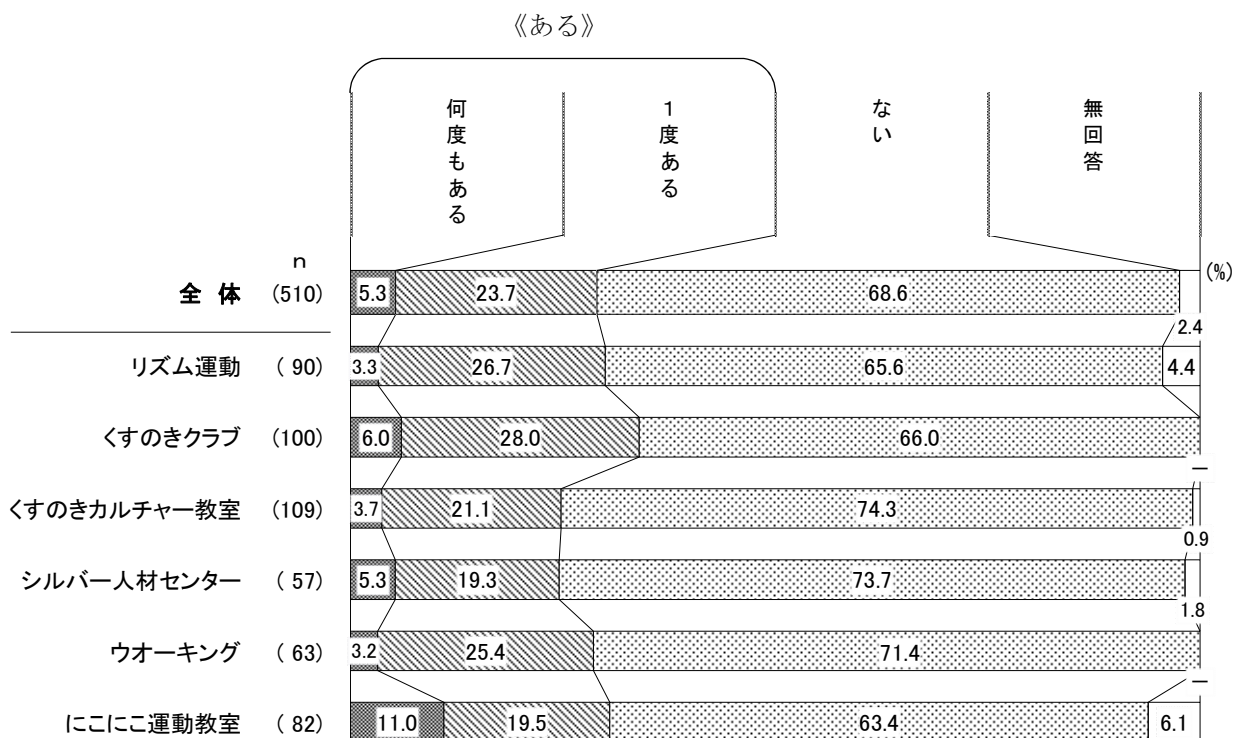
結果としては、「何度もある」が5.3%、「1度ある」が23.7%で、これらを合わせた《ある》は29.0%である。

図表5-7 転倒経験（単数回答）



参加している地域活動別でみると、《ある》はくすのきクラブで34.0%と他の地域活動に比べて最も高くなっている。

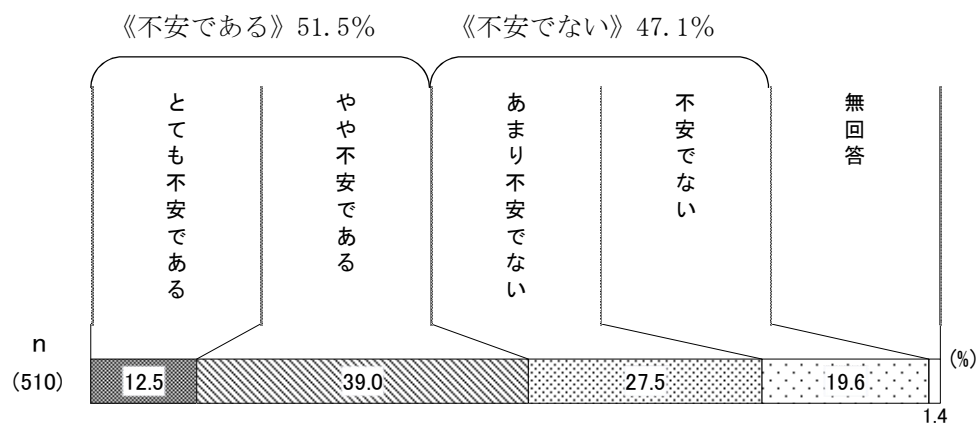
図表5-8 転倒経験／参加している地域活動別



⑤転倒に対する不安の設問は、転倒リスクの分析を補完するものと考えられている。

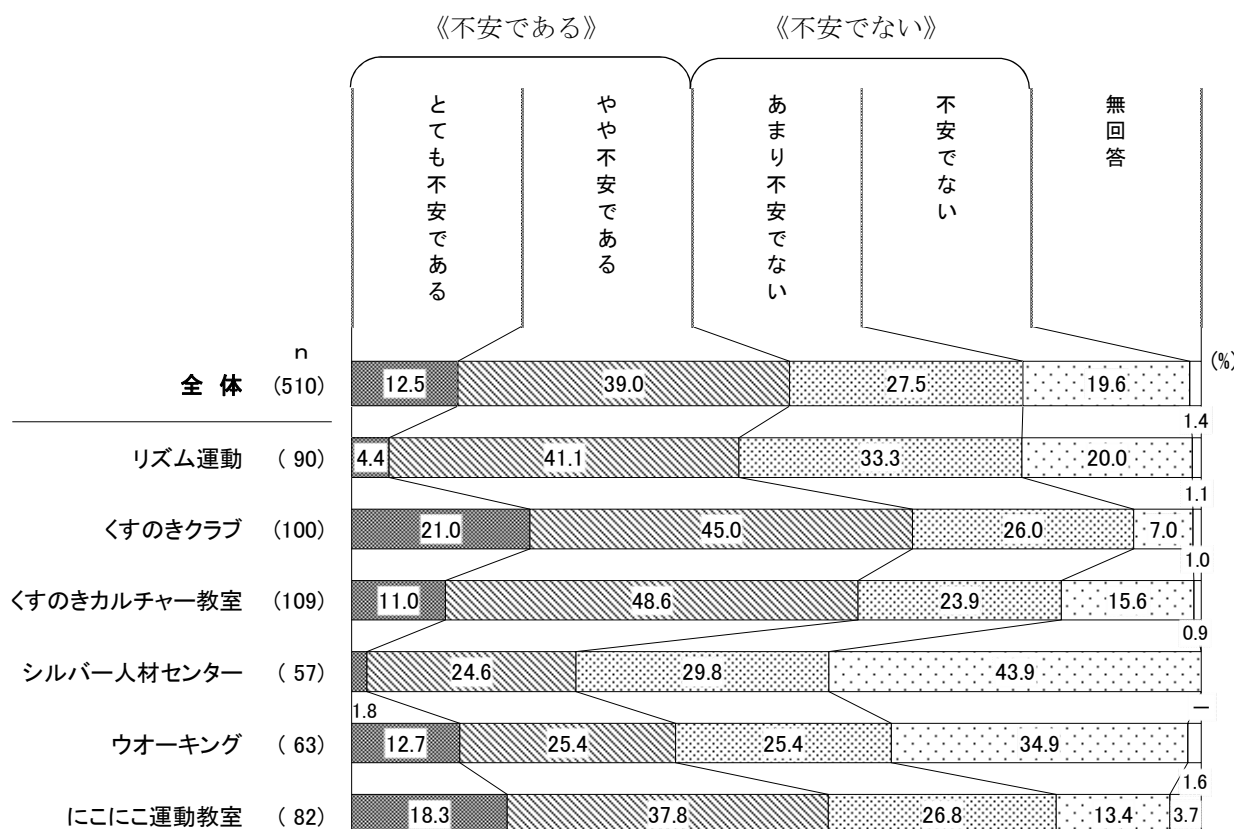
結果として、「とても不安である」が12.5%、「やや不安である」が39.0%で最も高くなっている。これらを合わせた《不安である》は51.5%である。一方、「あまり不安でない」(27.5%)と「不安でない」(19.6%)を合わせた《不安でない》は47.1%となっている。

図表5-9 転倒への不安(単数回答)



参加している地域活動別で見ると、《不安である》はくすのきクラブで66.0%、くすのきカルチャー教室で59.6%と、他の地域活動に比べて高くなっている。

図表5-10 転倒への不安/参加している地域活動別

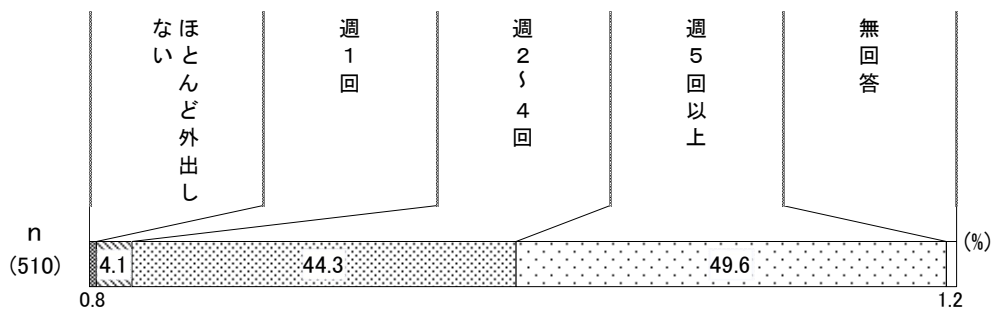


設問内容
⑥週に1回以上は外出していますか。
⑦昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、閉じこもり傾向を問うものとされており、“⑥週に1回以上は外出しているか”で、「ほとんど外出しない」か「週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と考えられている。

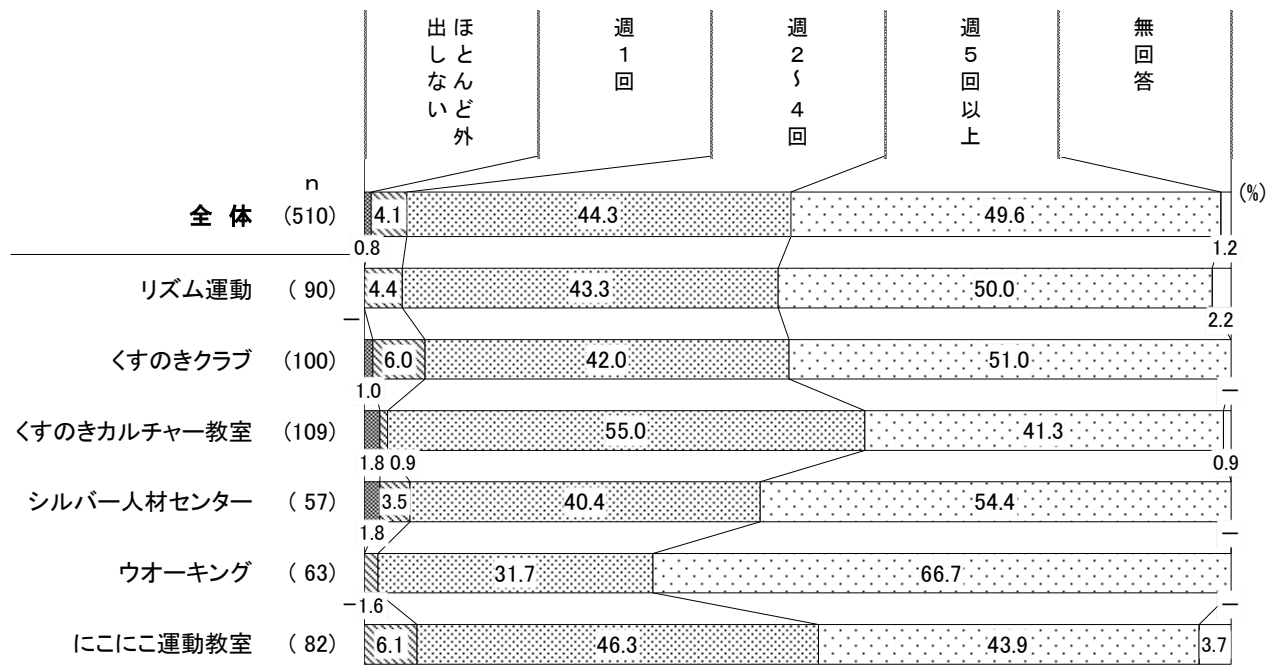
結果としては、「ほとんど外出しない」が0.8%、「週1回」が4.1%となっている。

図表5-11 週に1回以上の外出（単数回答）



参加している地域活動別で見ると、「週1回」がにこにこ運動教室で6.1%、くすのきクラブで6.0%などとなっている。

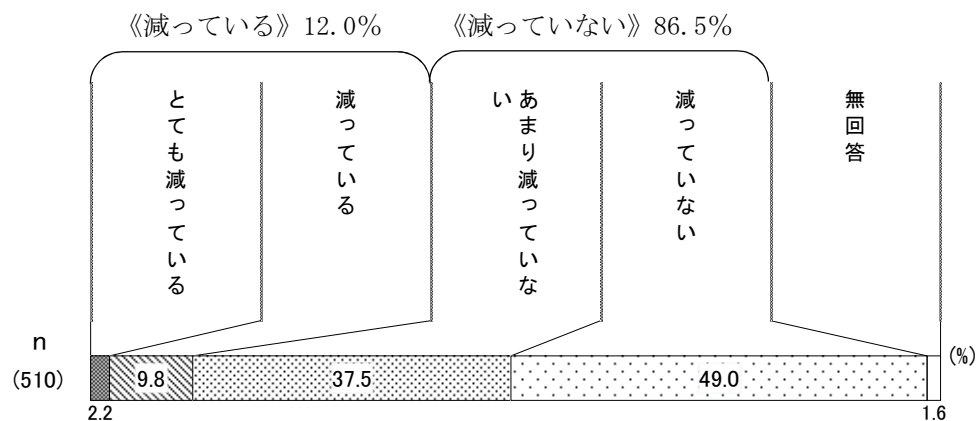
図表5-12 週に1回以上の外出／参加している地域活動別



昨年と比べた外出回数の増減に関する⑦の設問は、閉じこもり傾向のある高齢者の分析を補完するものと考えられている。

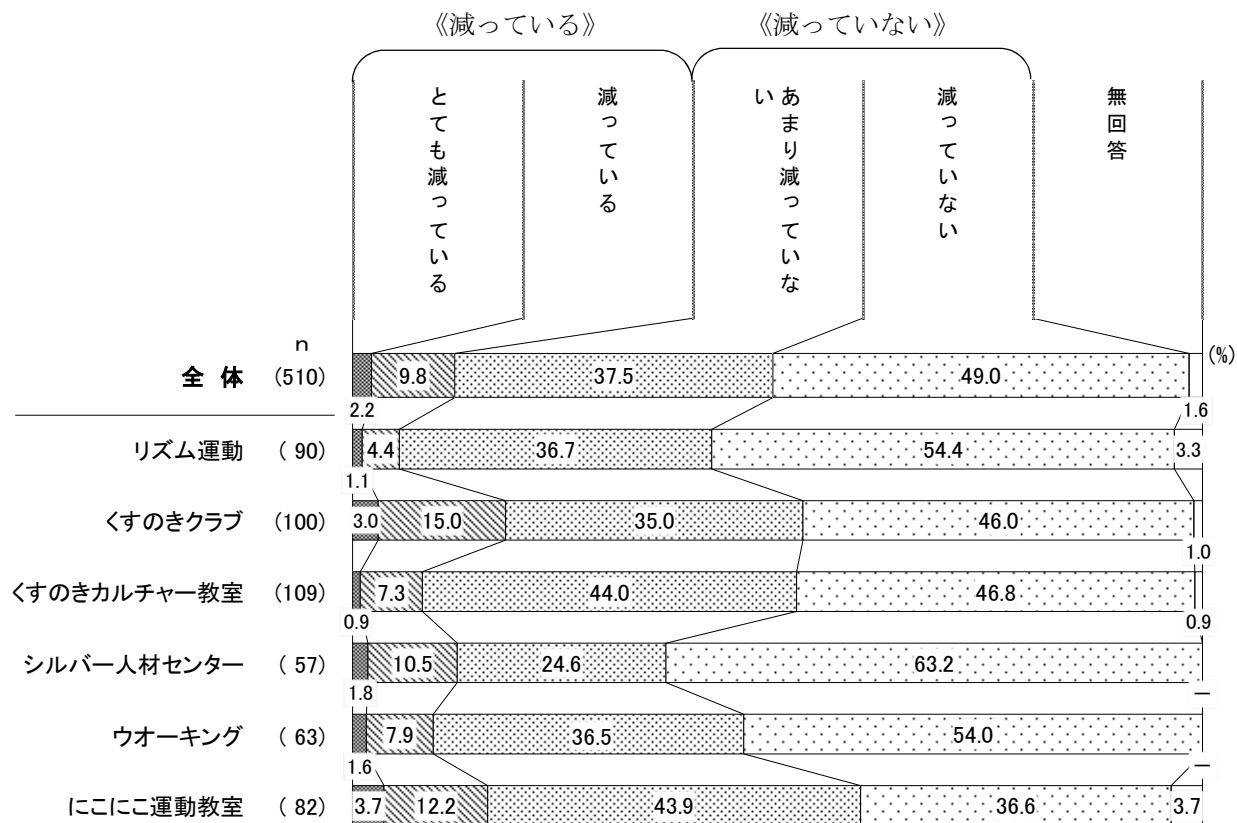
結果として、「とても減っている」が2.2%、「減っている」が9.8%で、これらを合わせた《減っている》は12.0%である。一方、「あまり減っていない」(37.5%)と「減っていない」(49.0%)を合わせた《減っていない》は86.5%となっている。

図表5-13 昨年と比べた外出回数の増減（単数回答）



参加している地域活動別でみると、いずれも《減っていない》が8割以上となっている。《減っている》は、くすのきクラブで18.0%と他の地域活動に比べて最も高い。

図表5-14 昨年と比べた外出回数の増減／参加している地域活動別





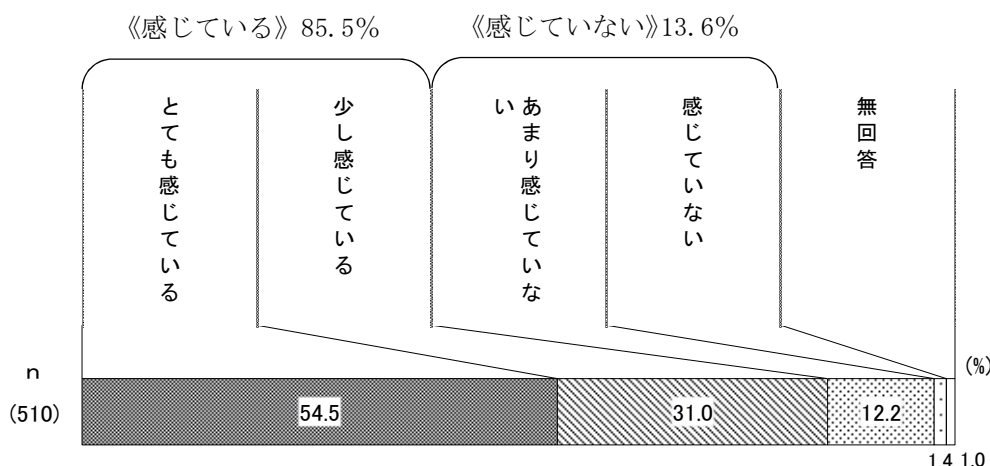
### (3) 現在の生活に対する生きがいやほりあい

問11 あなた(あて名のご本人)は、現在の生活に生きがいやほりあいを感じていますか。

(1つに○)

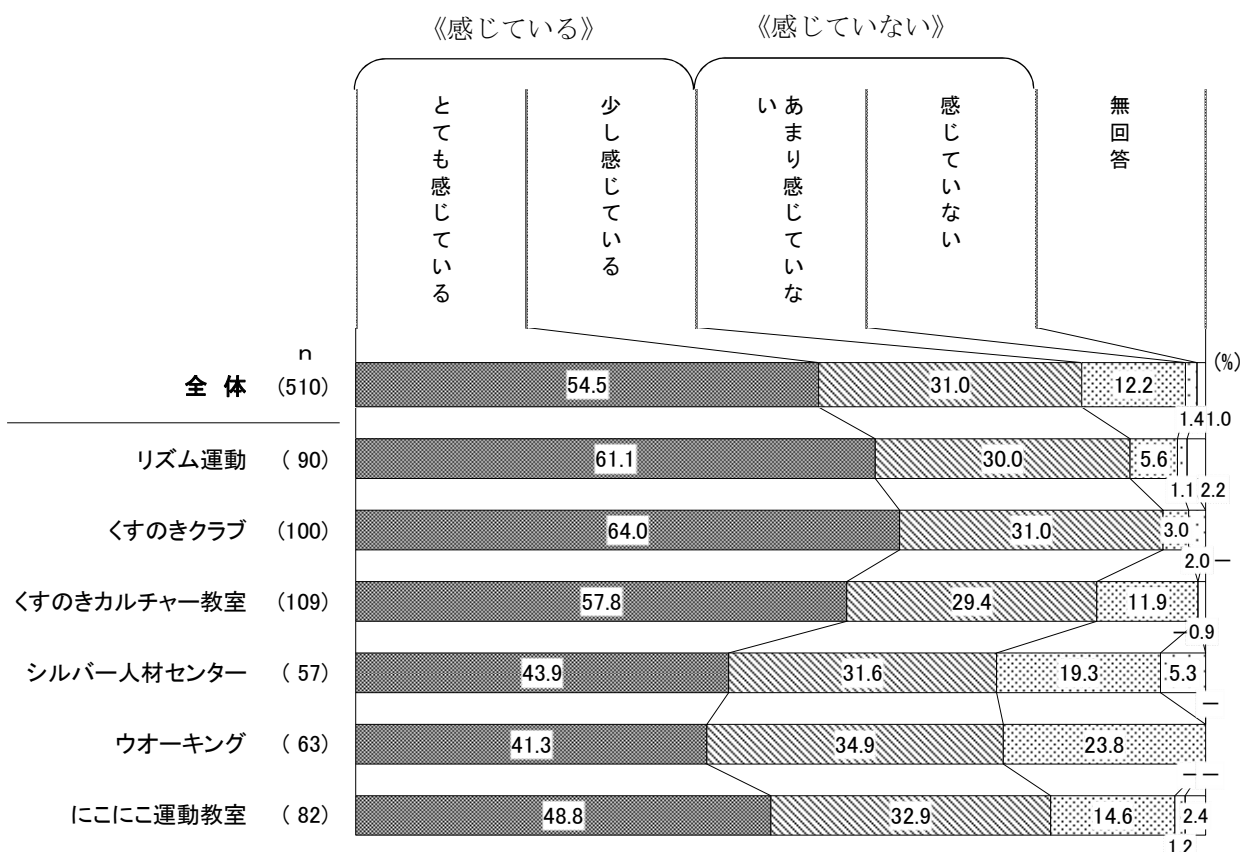
現在の生活に対する生きがいやほりあいは、「とても感じている」が54.5%で最も高く、「少し感じている」が31.0%で、これらを合わせた《感じている》は85.5%である。一方、「あまり感じていない」(12.2%)と「感じていない」(1.4%)を合わせた《感じていない》は13.6%となっている。

図表5-15 現在の生活に対する生きがいやほりあい(単数回答)



参加している地域活動別でみると、いずれも《感じている》が多数を占めている。

図表5-16 現在の生活に対する生きがいやほりあい/参加している地域活動別



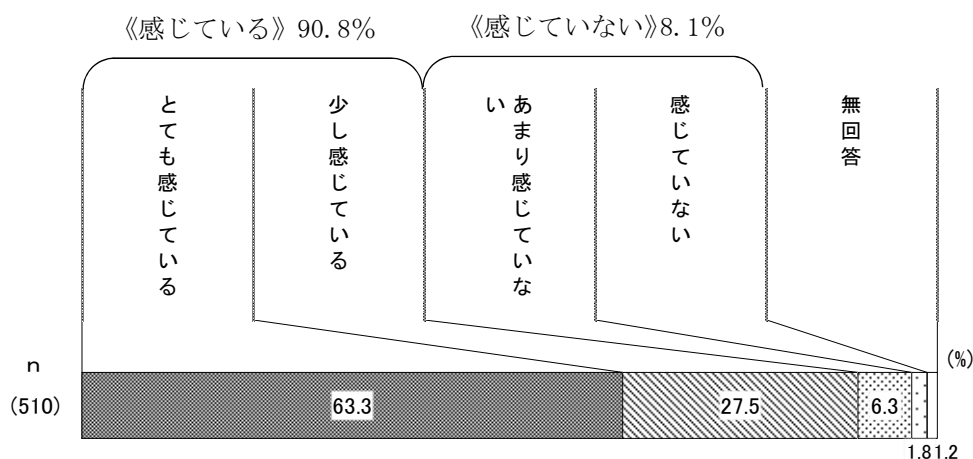
#### (4) 家族や親せき、友人との交流の満足感

問12 あなた(あて名のご本人)は、家族や親せき、友人との交流に満足を感じていますか。

(1つに○)

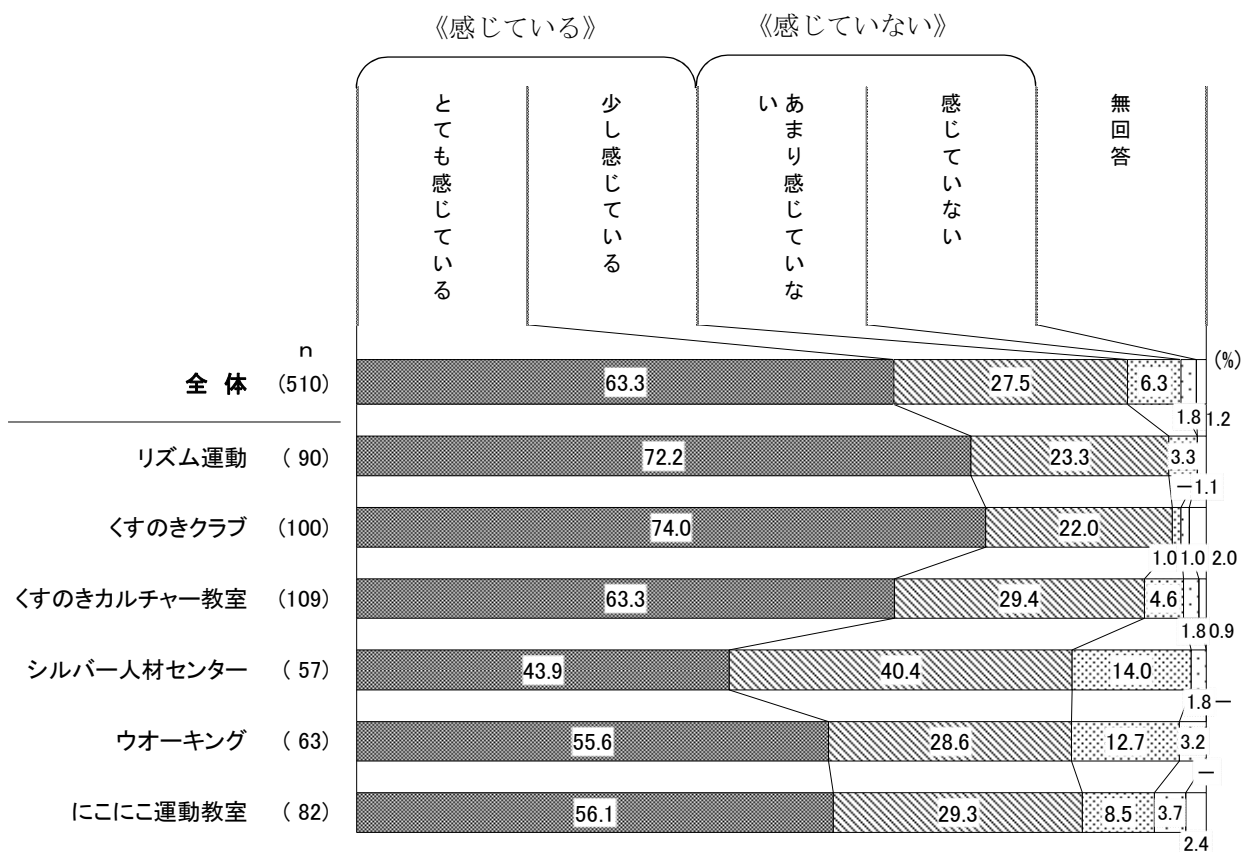
家族や親せき、友人との交流の満足感は、「とても感じている」が63.3%で最も高く、「少し感じている」が27.5%で、これらを合わせた《感じている》は90.8%である。一方、「あまり感じていない」(6.3%)と「感じていない」(1.8%)を合わせた《感じていない》は8.1%となっている。

図表5-17 家族や親せき、友人との交流の満足感(単数回答)



参加している地域活動別でみると、いずれも《感じている》が多数を占めている。

図表5-18 家族や親せき、友人との交流の満足感/参加している地域活動別



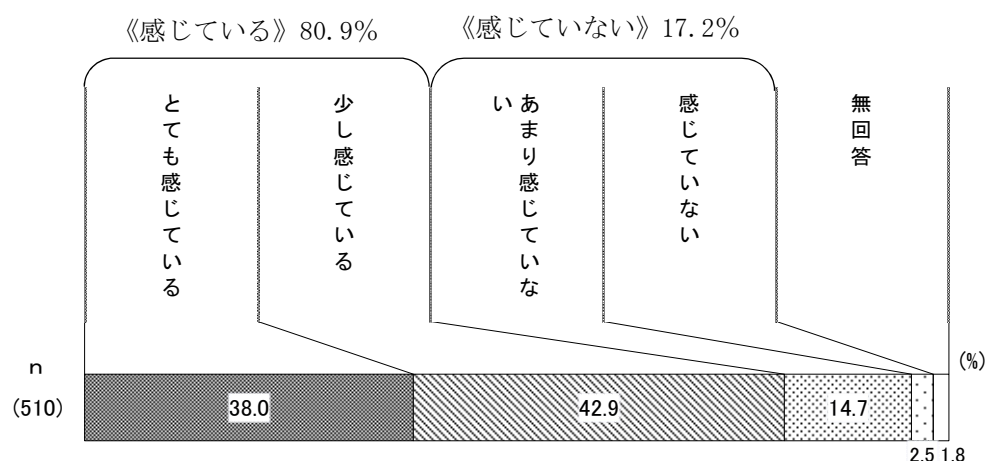
## (5) まだやりたいことの有無

問13 あなた(あて名のご本人)は、自分にはまだやりたいことがあると感じていますか。

(1つに○)

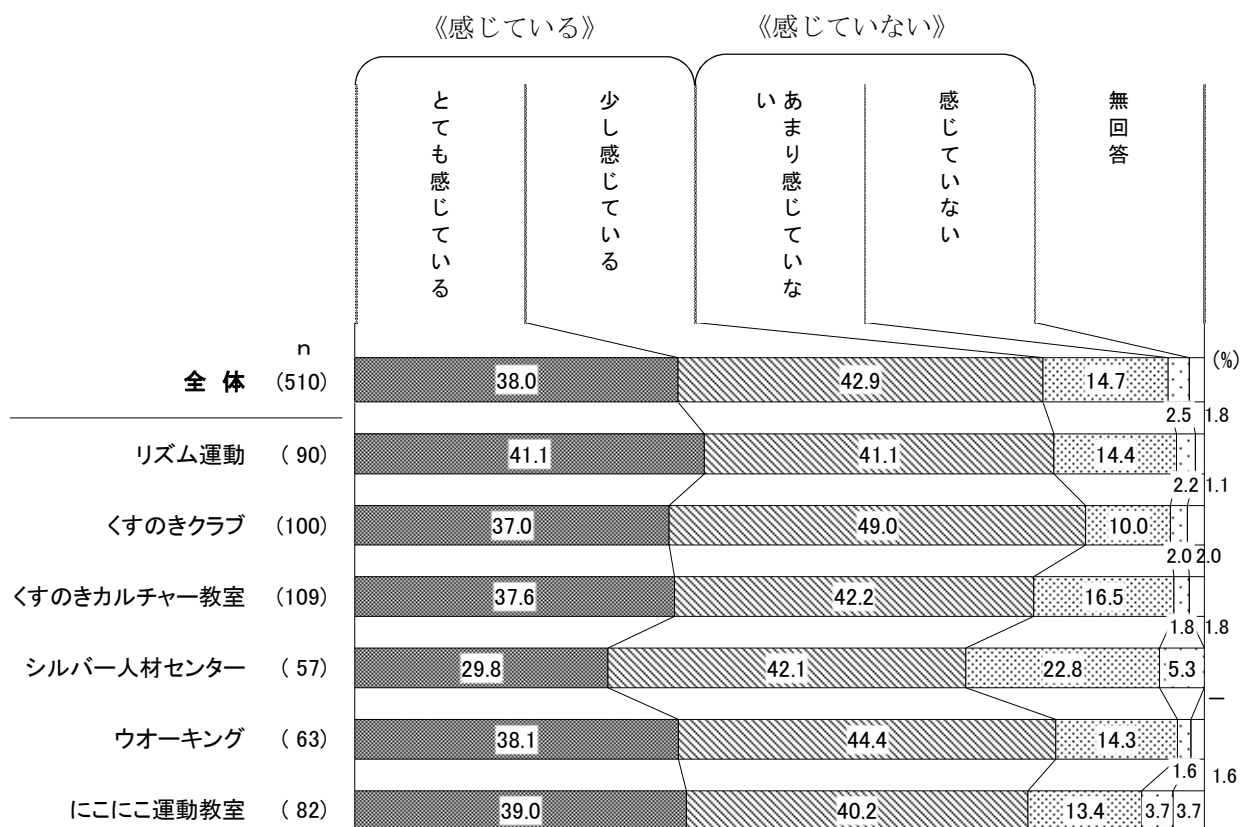
まだやりたいことがあると、「とても感じている」は38.0%、「少し感じている」は42.9%で最も高く、これらを合わせた《感じている》は80.9%である。一方、「あまり感じていない」(14.7%)と「感じていない」(2.5%)を合わせた《感じていない》は17.2%となっている。

図表5-19 まだやりたいことの有無(単数回答)



参加している地域活動別でみると、いずれも《感じている》が多数を占めている。

図表5-20 まだやりたいことの有無/参加している地域活動別

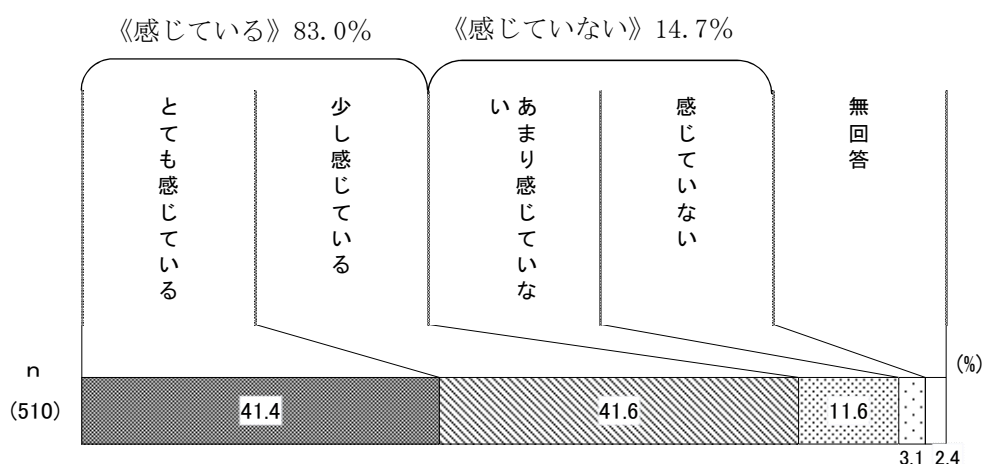


## (6) 家族や他人からの期待

問14 あなた(あて名のご本人)は、家族や他人から期待され、頼りにされていると感じていますか。(1つに○)

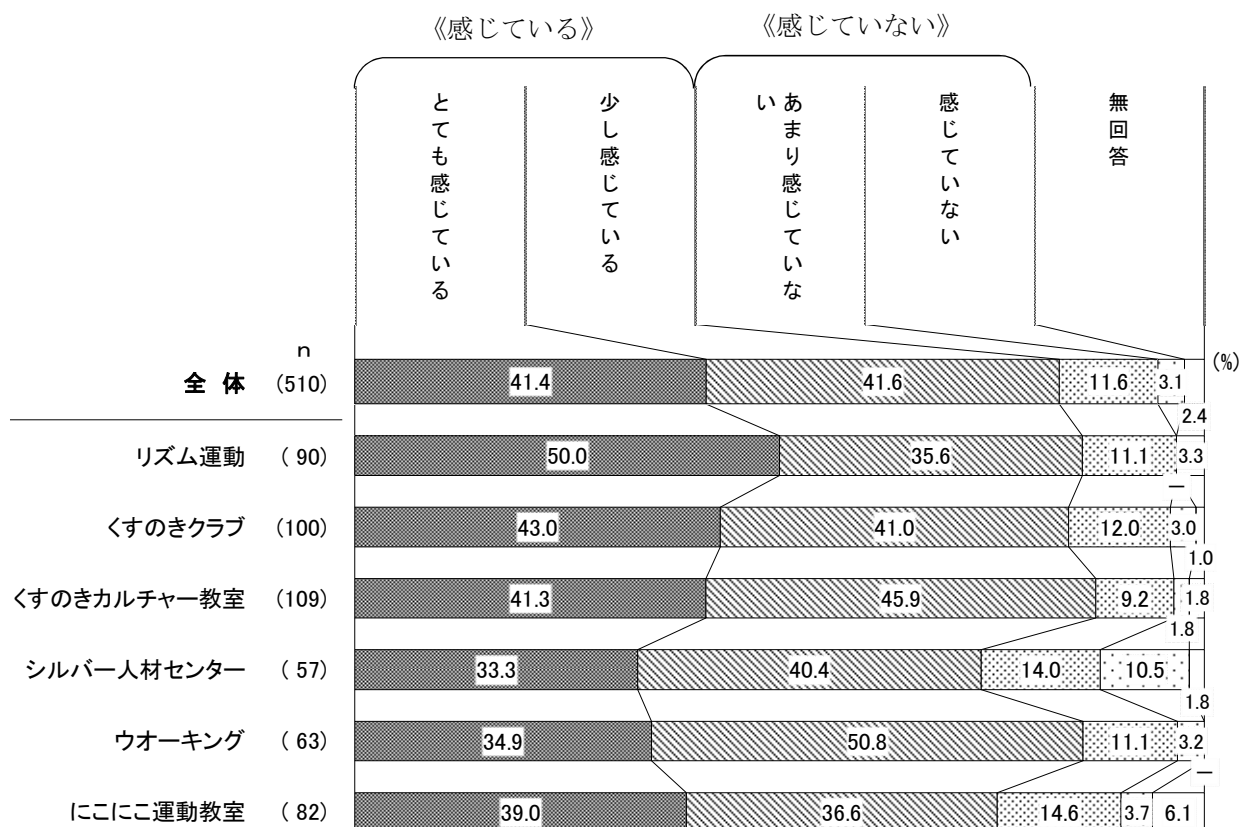
家族や他人からの期待を、「とても感じている」は41.4%、「少し感じている」は41.6%で、これらを合わせた《感じている》は83.0%である。一方、「あまり感じていない」(11.6%)と「感じていない」(3.1%)を合わせた《感じていない》は14.7%となっている。

図表5-21 家族や他人からの期待(単数回答)



参加している地域活動別でみると、いずれも《感じている》が多数を占めている。

図表5-22 家族や他人からの期待/参加している地域活動別

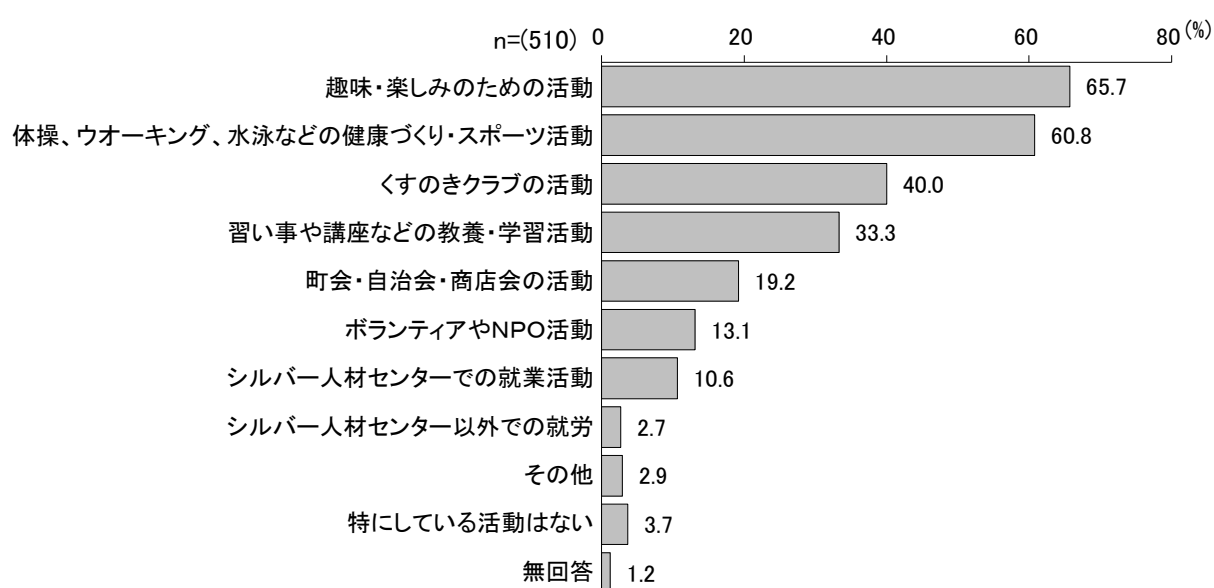


## (7) 現在参加している余暇活動・社会参加活動

問15 この調査でお聞きしている活動も含め、あなた(あて名のご本人)は、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

現在参加している余暇活動・社会参加活動は、「趣味・楽しみのための活動」が65.7%で最も高く、次いで「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」が60.8%となっている。このほか、「くすのきクラブの活動」が40.0%、「習い事や講座などの教養・学習活動」が33.3%などとなっている。

図表 5-23 現在参加している余暇活動・社会参加活動（複数回答）



## (8) なごみの家の認知度と利用内容

問16 あなた(あて名のご本人)は、「なごみの家」について、どのくらい知っていますか。

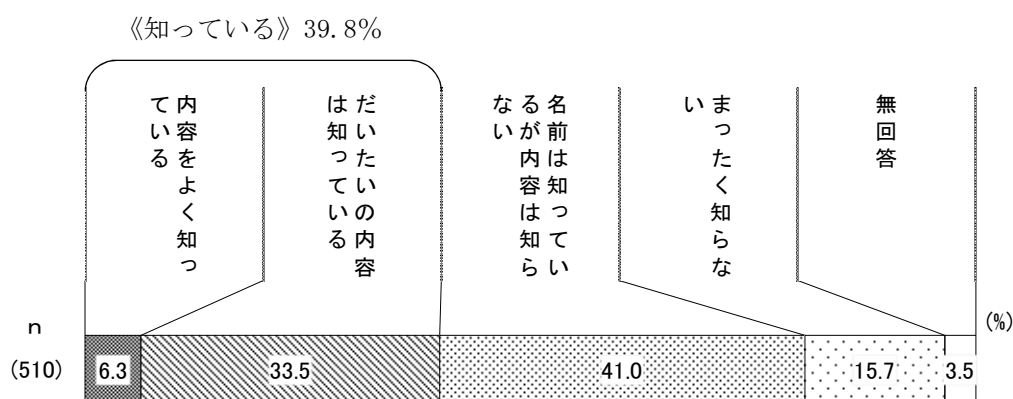
(1つに○)

★内容を知っている方(問16で1または2に○)にお聞きします。

問16-1 なごみの家をどのように利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

なごみの家の認知度は、「内容をよく知っている」が6.3%、「だいたいの内容は知っている」が33.5%で、これらを合わせた《知っている》は39.8%であり、「名前は知っているが内容は知らない」が41.0%となっている。一方、「まったく知らない」が15.7%である。

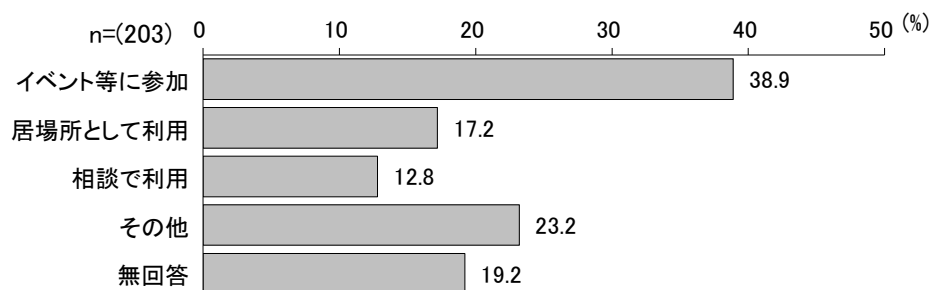
図表5-24 なごみの家の認知度と利用内容(単数回答)



内容や名前を《知っている》と回答した人に、利用内容をたずねた。

その結果、「イベント等に参加」が38.9%で最も高くなっている。

図表5-25 なごみの家の利用意向(複数回答)



# 第5章

## 介護保険制度と介護予防 に関する調査

### < 調査概要 >

調査方法	郵送配布－郵送回収
調査対象者	50歳以上65歳未満の区民
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	令和元年12月6日～12月26日
対象者数 及び 回収率	対象者数： 800 有効回収数： 356 有効回収率： 44.5%





# 1 基本属性

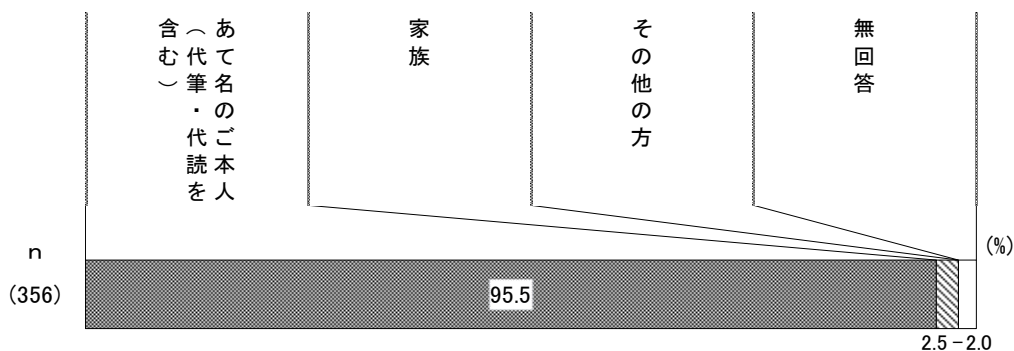
## (1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに〇)

問2 あなた(あて名のご本人)の性別、令和元年12月1日現在の満年齢をお答えください。

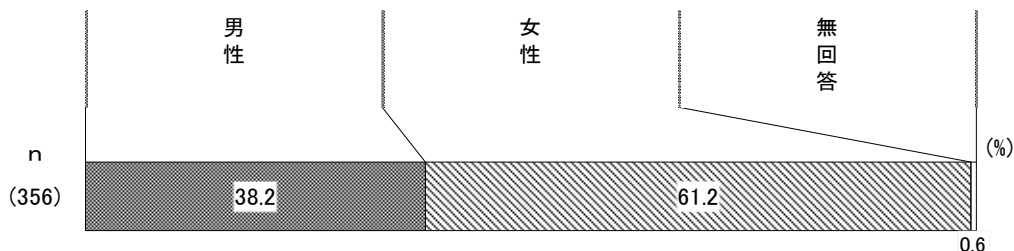
調査回答者は、「あて名のご本人(代筆・代読を含む)」が95.5%となっている。

図表 1-1 調査回答者(単数回答)



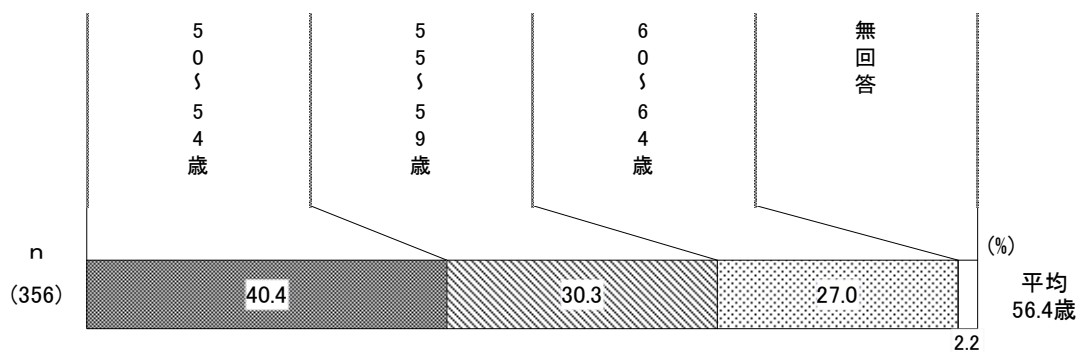
性別は、「男性」が38.2%、「女性」が61.2%と、女性の方が23ポイント高い。

図表 1-2 性別(単数回答)



年齢は、「50~54歳」が40.4%、「55~59歳」が30.3%、「60~64歳」が27.0%となっている。対象年齢が限られているので参考となるが、平均は56.4歳となっている。

図表 1-3 現在の満年齢(単数回答)

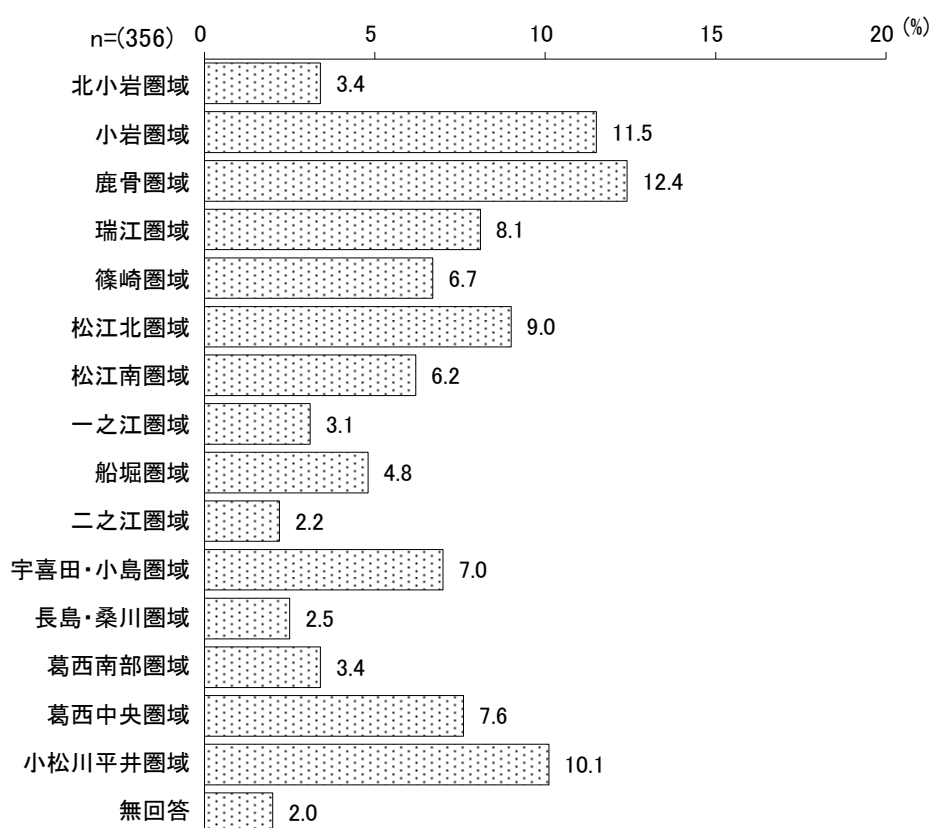


## (2) 居住地（日常生活圏域）

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。  
丁目が無い場合は、町名だけ記入してください。 【比較調査251頁参照】

居住地（日常生活圏域）は、「鹿骨圏域」が12.4%、「小岩圏域」が11.5%、「小松川平井圏域」が10.1%で1割台となっている。

図表 1 - 4 居住地（日常生活圏域）（単数回答）



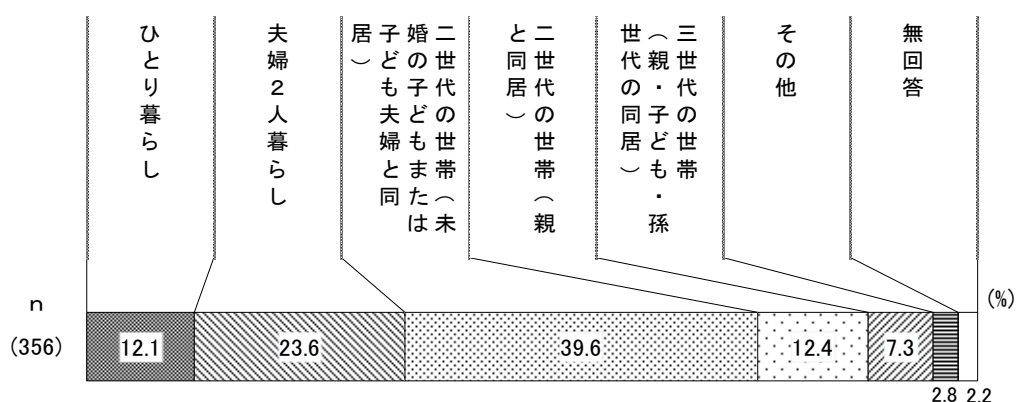
### (3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

【比較調査252頁参照】

世帯構成は、「二世代の世帯(未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居)」が39.6%で最も高く、次いで「夫婦2人暮らし」が23.6%となっている。

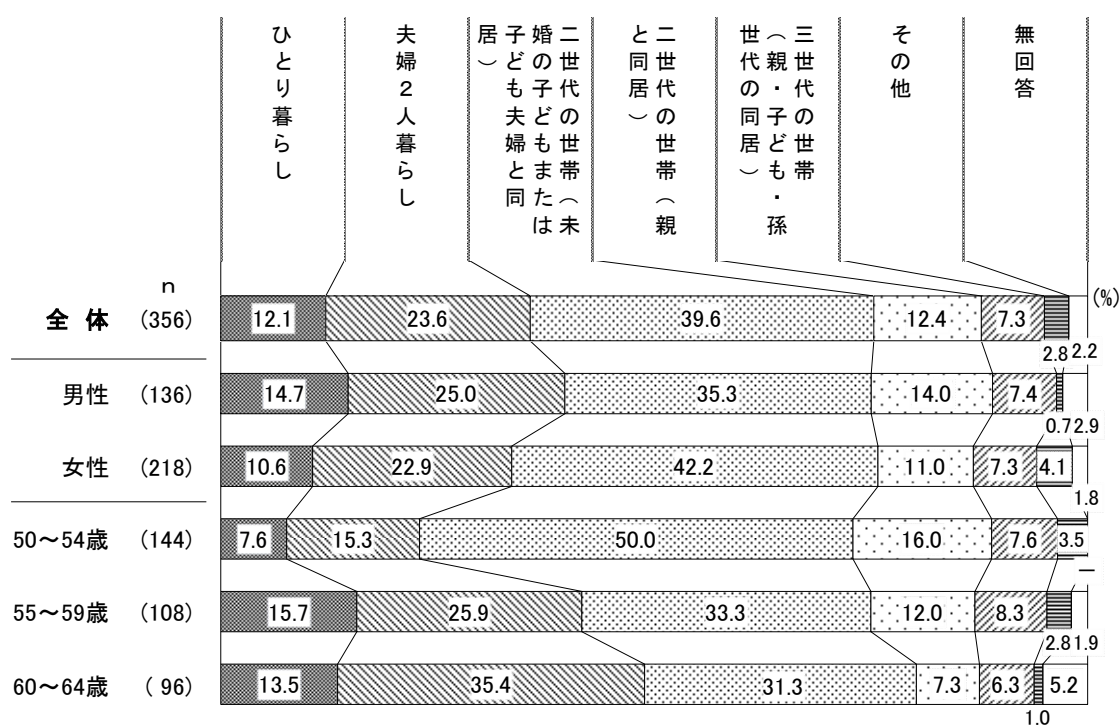
図表1-5 世帯構成(単数回答)



性別で見ると、「二世代の世帯(未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居)」は女性の方が男性よりも約7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「夫婦2人暮らし」は年齢が上がるほど高くなり、逆に、「二世代の世帯(未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居)」と「二世代の世帯(親と同居)」は年齢が低いほど高い。

図表1-6 世帯構成/性別、年齢別

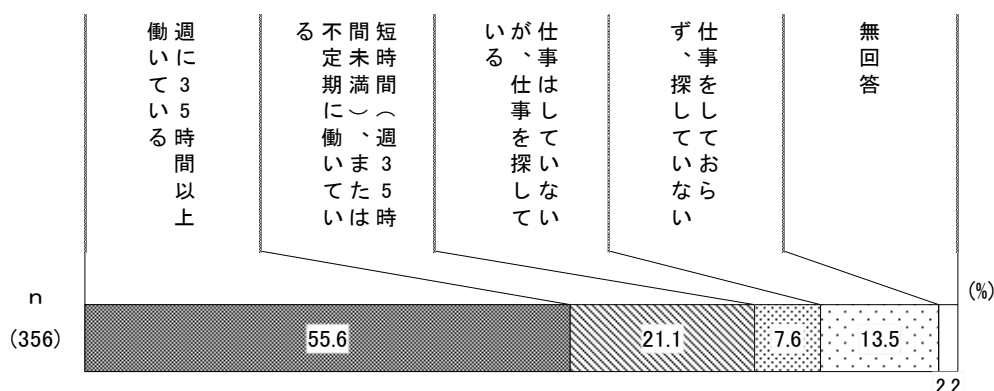


#### (4) 就労状況

問5 あなた(あて名のご本人)は、現在、収入のともなう仕事(パート・アルバイト、家業の手伝いを含む)をしていますか。(1つに○)

就労状況は、「週に35時間以上働いている」が55.6%で最も高く、次いで「短時間(週35時間未満)、または不規則に働いている」が21.1%となっている。また、「仕事をしておらず、探していない」が13.5%みられる。

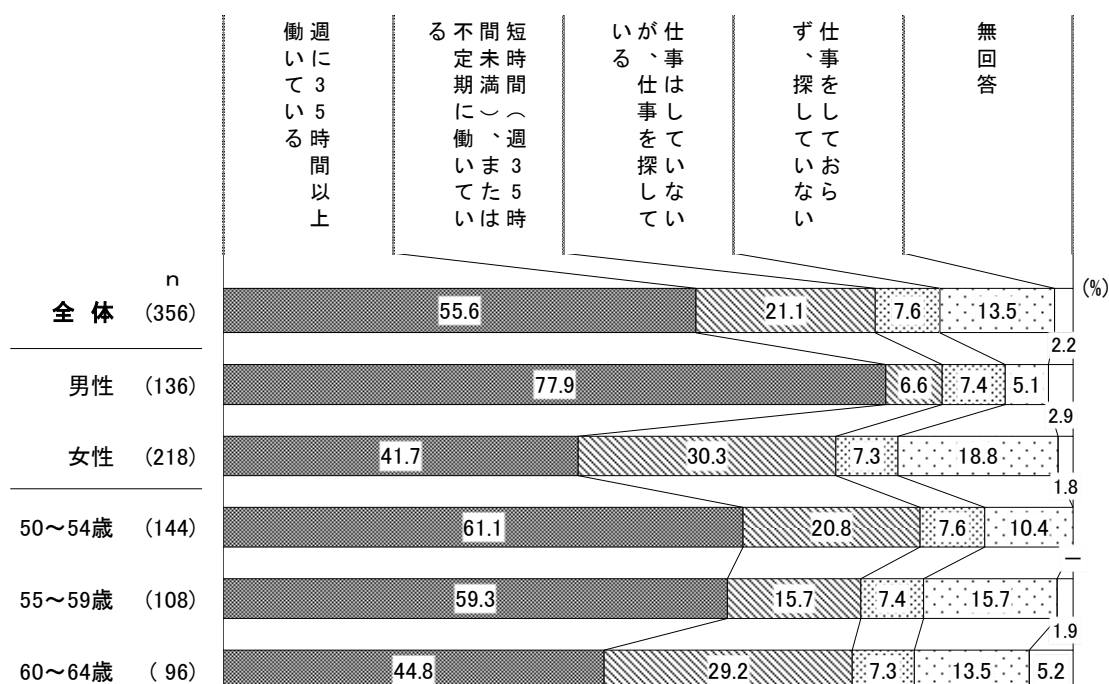
図表1-7 就労状況(単数回答)



性別でみると、男性では「週に35時間以上働いている」が77.9%となっている。女性でも「週に35時間以上働いている」が41.7%で最も高いが、次いで「短時間(週35時間未満)、または不規則に働いている」が30.3%となっている。

年齢別でみると、「週に35時間以上働いている」は50~54歳で61.1%となっており、年齢が上がるほど低くなる。また、「短時間(週35時間未満)、または不規則に働いている」は60~64歳で29.2%と他の年齢層に比べて最も高い。

図表1-8 就労状況/性別、年齢別



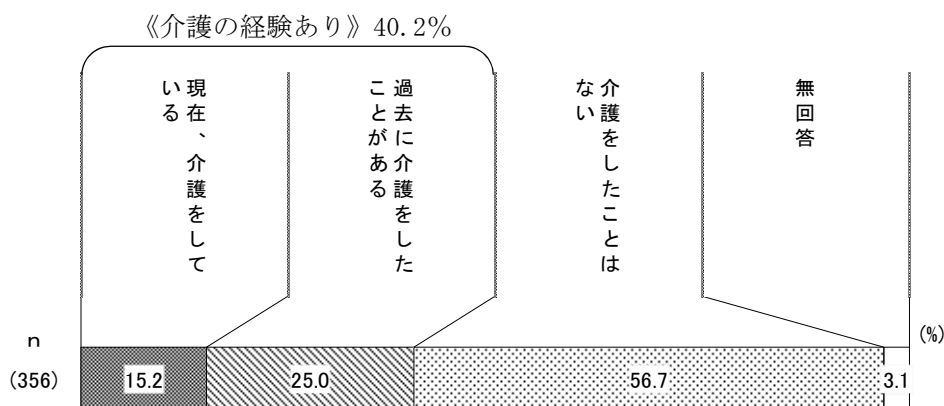
## (5) 介護の経験

問6 あなた(あて名のご本人)は、ご家族または親族などの介護をしたことがありますか。  
(1つに○)

※ホームヘルパー等やボランティア活動として介護する場合は除きます。

介護の経験は、「現在、介護をしている」が15.2%となっている。「過去に介護をしたことがある」が25.0%で、これらを合わせた《介護の経験あり》は40.2%である。一方、「介護をしたことはない」が56.7%と高くなっている。

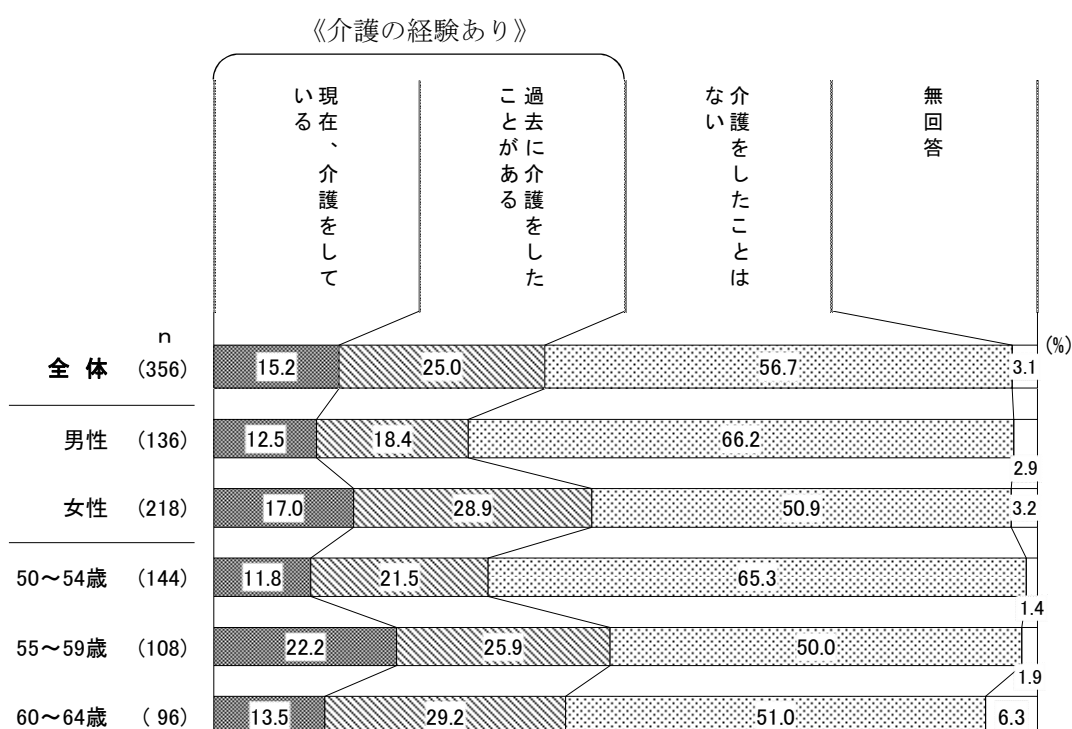
図表 1-9 介護の経験 (単数回答)



性別でみると、「現在、介護をしている」は女性の方が男性よりも約5ポイント高く、「過去に介護をしたことがある」でも女性は約11ポイント上回る。そのため、《介護の経験あり》は、女性の方が男性よりも15ポイント高い。

年齢別でみると、「現在、介護をしている」は55～59歳で22.2%と他の年齢層比べて最も高く、この年齢層は《介護の経験あり》が48.1%である。一方、「介護をしたことはない」は50～54歳で65.3%と最も高くなっている。

図表 1-10 介護の経験／性別、年齢別



## 2 健康について

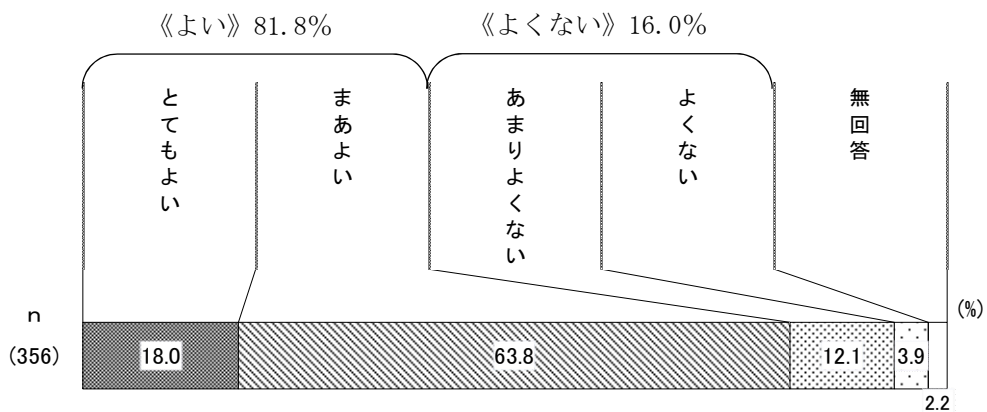
### (1) 健康状態

問7 現在のあなた(あて名のご本人)の健康状態はいかがですか。(1つに○)

【比較調査253頁参照】

健康状態は、「とてもよい」が18.0%で、「まあよい」が63.8%と最も高くなっている。これらを合わせた《よい》は81.8%である。一方、「あまりよくない」(12.1%)と「よくない」(3.9%)を合わせた《よくない》は16.0%となっている。

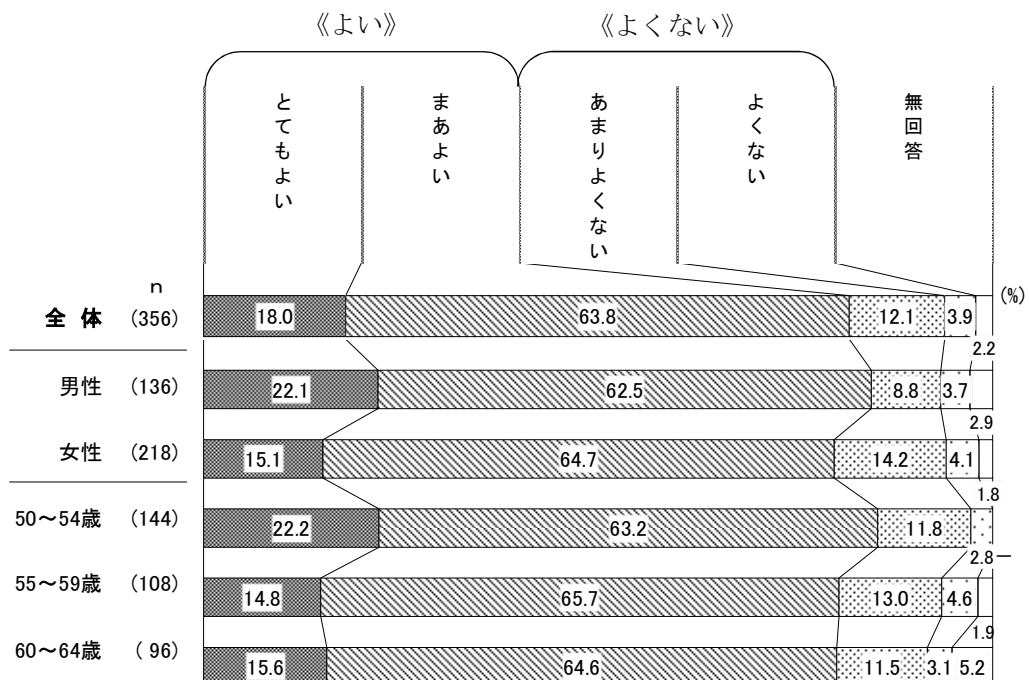
図表2-1 健康状態(単数回答)



性別では、「とてもよい」は男性の方が女性よりも7ポイント高くなっている。「とてもよい」と「まあよい」を合わせた《よい》では、男性が約5ポイント上回っている。

年齢別でみると、《よい》はいずれの年齢層でも8割台である。

図表2-2 健康状態/性別、年齢別

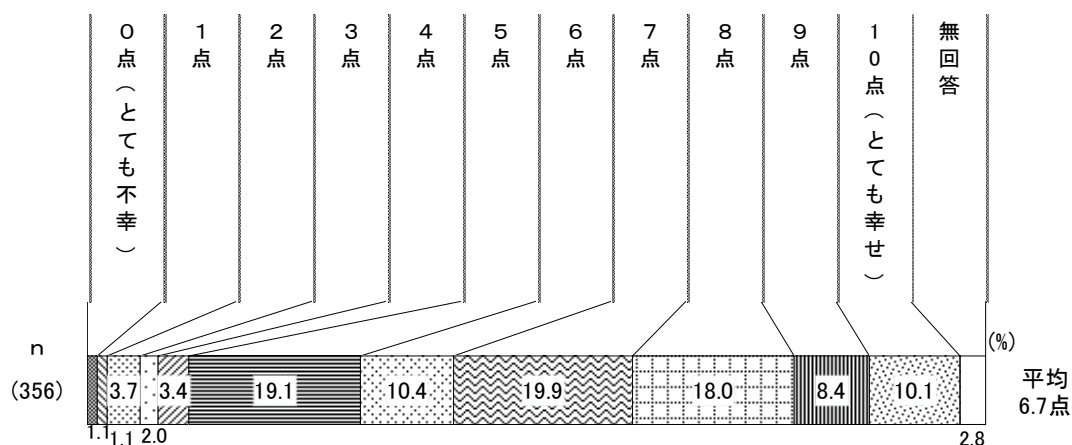


## (2) 現在の幸福度

問8 あなた(あて名のご本人)は、現在どの程度幸せですか。(点数に○)  
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在の幸福度は、「7点」が19.9%で最も高く、次いで「5点」が19.1%、「8点」が18.0%となっている。平均は6.7点である。

図表2-3 現在の幸福度 (単数回答)



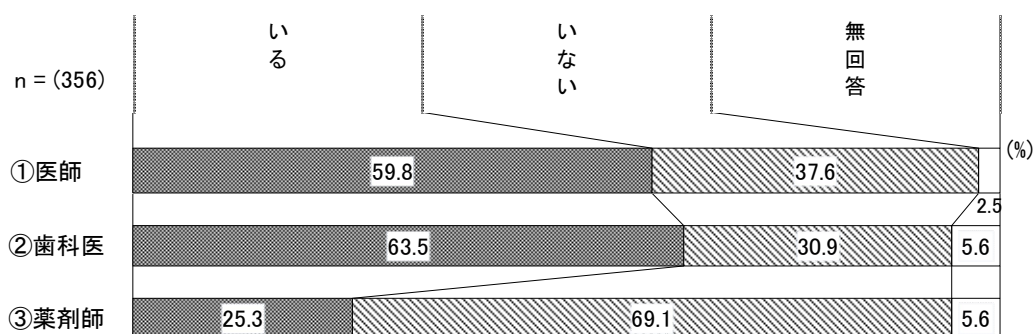
## (3) かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無

問9 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師、歯科医、薬剤師(※)がいますか。  
 (それぞれ1つに○)【比較調査254・255参照】

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師、歯科医、薬剤師

かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無では、「いる」が医師で59.8%、歯科医で63.5%、薬剤師で25.3%となっている。

図表2-4 かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無 (単数回答)



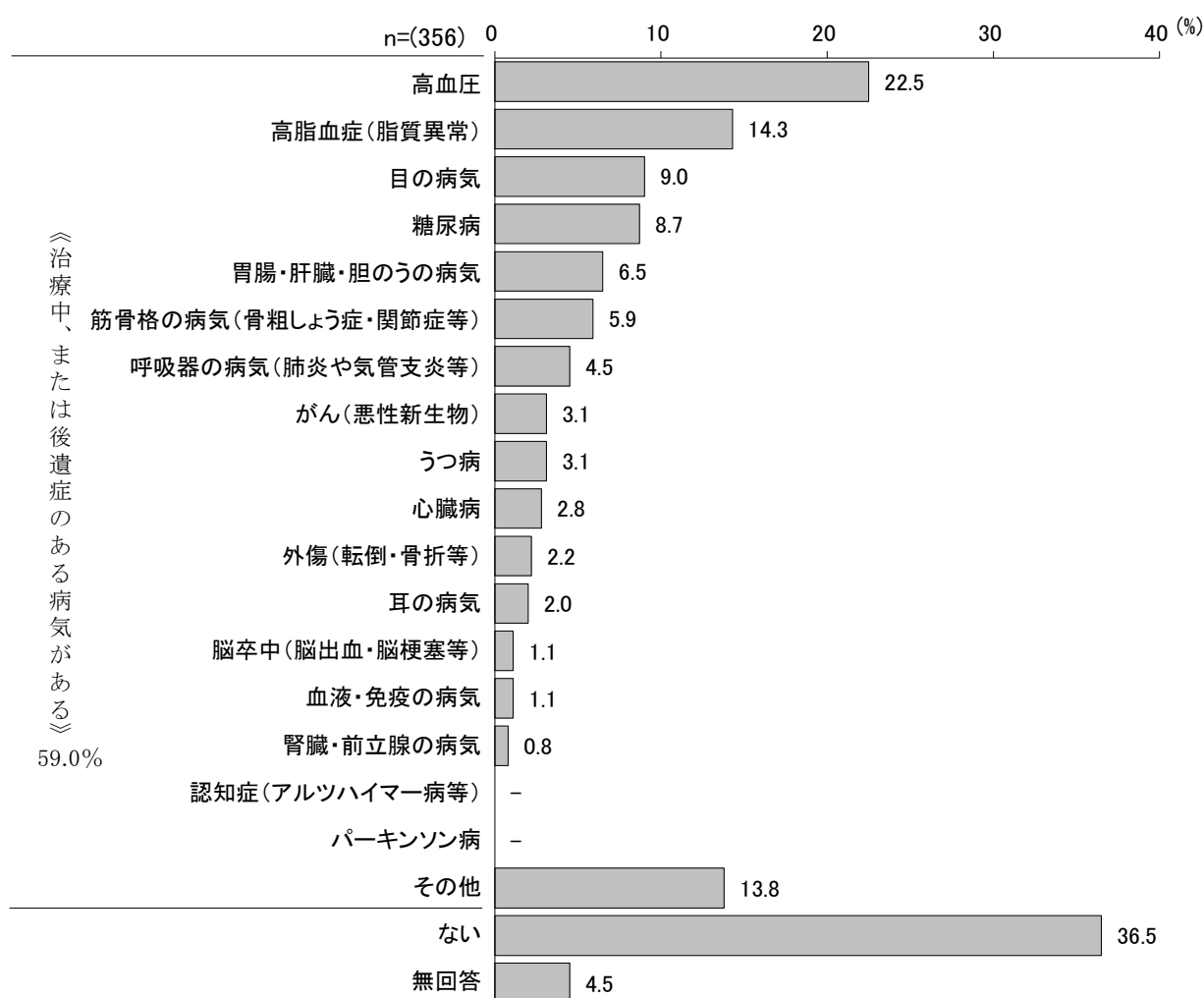
#### (4) 治療中、または後遺症のある病気

問10 あなた(あて名のご本人)は、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中、または後遺症のある病気では、《治療中、または後遺症のある病気がある》が59.0%、「ない」が36.5%である。

病気の中では、「高血圧」が22.5%で最も高く、次いで「高脂血症(脂質異常)」が14.3%となっている。

図表 2-5 治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



※《治療中、または後遺症のある病気がある》 = 100% - 「ない」 - 「無回答」



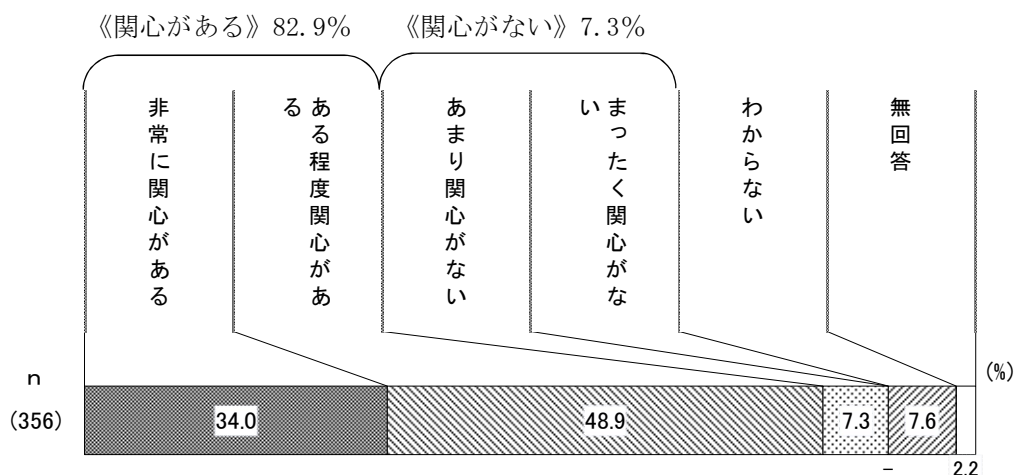
### 3 高齢者介護に関する意識について

#### (1) 高齢化の進展への関心度

問11 江戸川区の65歳以上の高齢者人口は、平成31年4月1日現在147,081人で、総人口に占める割合(高齢化率)は21.1%となり、今後も高齢化の進展が見込まれます。あなた(あて名のご本人)はこのことにどの程度関心がありますか。(1つに○)

高齢化の進展への関心度は、「非常に関心がある」が34.0%で、「ある程度関心がある」が48.9%と最も高くなっている。これらを合わせた《関心がある》は82.9%である。

図表3-1 高齢化の進展への関心度(単数回答)

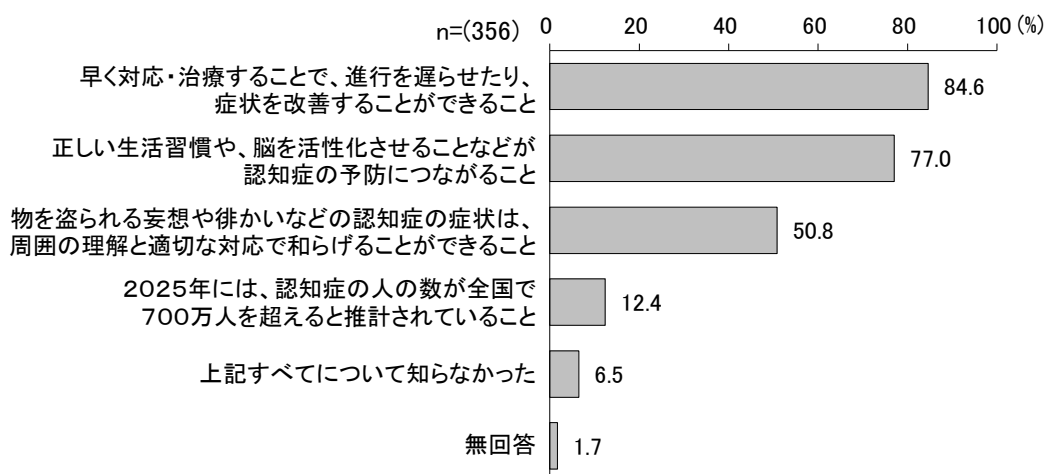


## (2) 認知症に関する知識

問12 認知症に関する次の知識のうち、あなた(あて名のご本人)が知っていることすべてに○をしてください。

認知症に関する知識は、「早く対応・治療することで、進行を遅らせたり、症状を改善することができること」が84.6%で最も高く、次いで「正しい生活習慣や、脳を活性化させることなどが認知症の予防につながる」ことが77.0%となっている。

図表 3-2 認知症に関する知識 (複数回答)

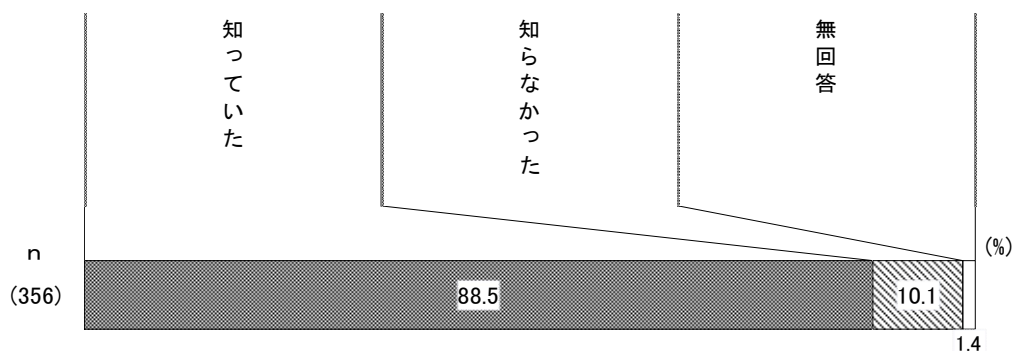


## (3) 若年性認知症の認知度

問13 65歳未満で発症する認知症を若年性認知症と言います(高齢期の認知症と病理的な違いはありません)。あなた(あて名のご本人)は、若年性認知症を知っていますか。  
(1つに○)

若年性認知症について、「知っていた」が88.5%となっている。

図表 3-3 若年性認知症の認知度 (単数回答)

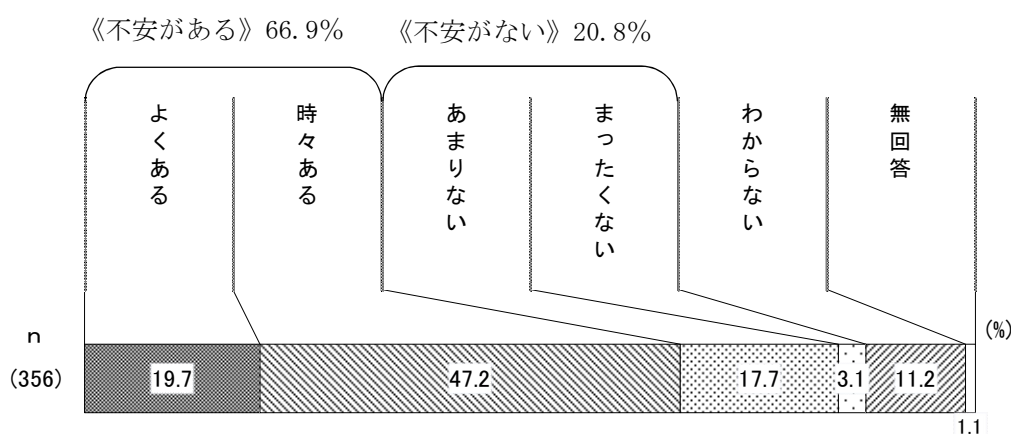


#### (4) 老後の寝たきりや認知症への不安

問14 あなた(あて名のご本人)ご自身は老後に寝たきりや認知症になるかもしれないと、不安に思うことがありますか。(1つに○)

老後の寝たきりや認知症への不安は、「よくある」が19.7%で、「時々ある」が47.2%と最も高くなっている。これらを合わせた《不安がある》は66.9%である。一方、「あまりない」(17.7%)と「まったくない」(3.1%)を合わせた《不安がない》は20.8%となっている。

図表3-4 老後の寝たきりや認知症への不安(単数回答)

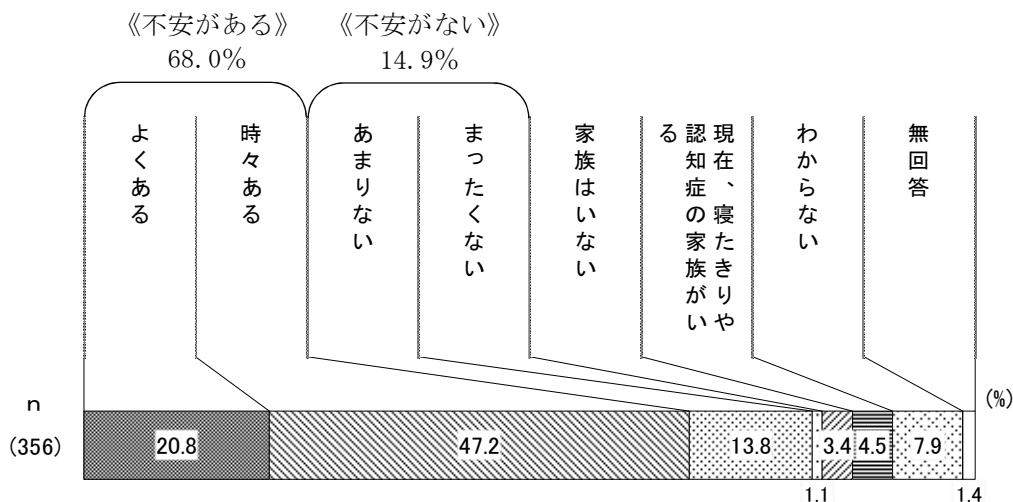


#### (5) 家族の老後の寝たきりや認知症への不安

問15 あなた(あて名のご本人)のご家族が老後に寝たきりや認知症になるかもしれないと、不安に思うことがありますか。(1つに○)

家族の老後の寝たきりや認知症への不安は、「よくある」が20.8%で、「時々ある」が47.2%と最も高くなっている。これらを合わせた《不安がある》は68.0%である。一方、「あまりない」(13.8%)と「まったくない」(1.1%)を合わせた《不安がない》は14.9%となっている。また、「現在、寝たきりや認知症の家族がいる」が4.5%みられる。

図表3-5 家族の老後の寝たきりや認知症への不安(単数回答)

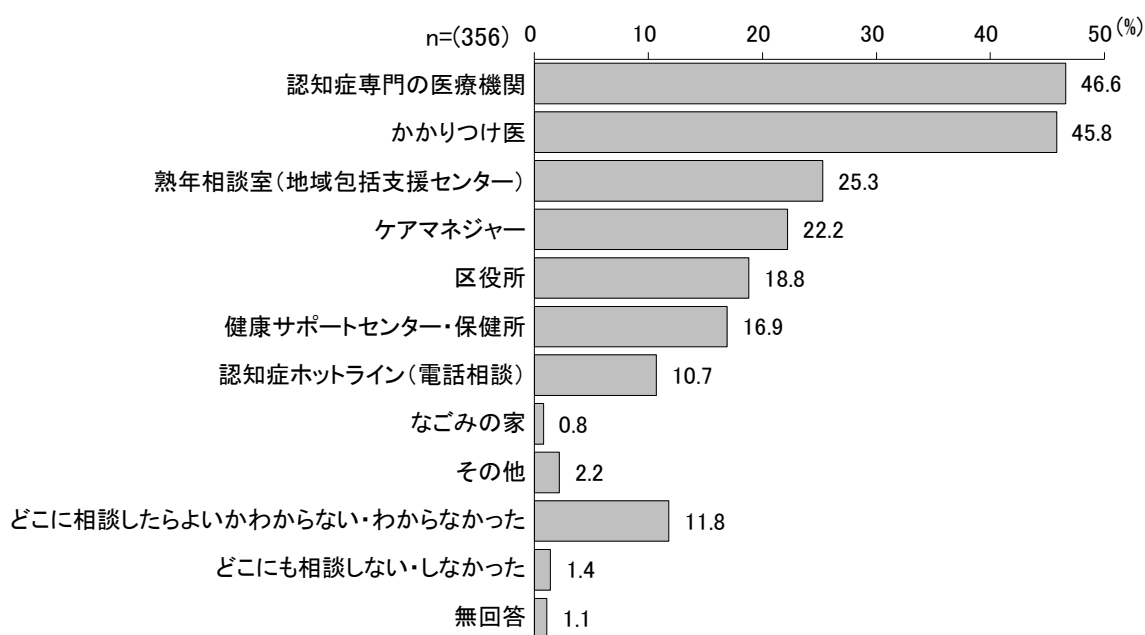


## (6) 認知症に関する相談先

問16 あなた(あて名のご本人)やご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか・  
 しましたか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査260頁参照】

認知症に関する相談先は、「認知症専門の医療機関」が46.6%、「かかりつけ医」が45.8%でおおむね並んで高くなっている。次いで「熟年相談室(地域包括支援センター)」が25.3%、「ケアマネジャー」が22.2%などとなっている。

図表3-6 認知症に関する相談先(複数回答)

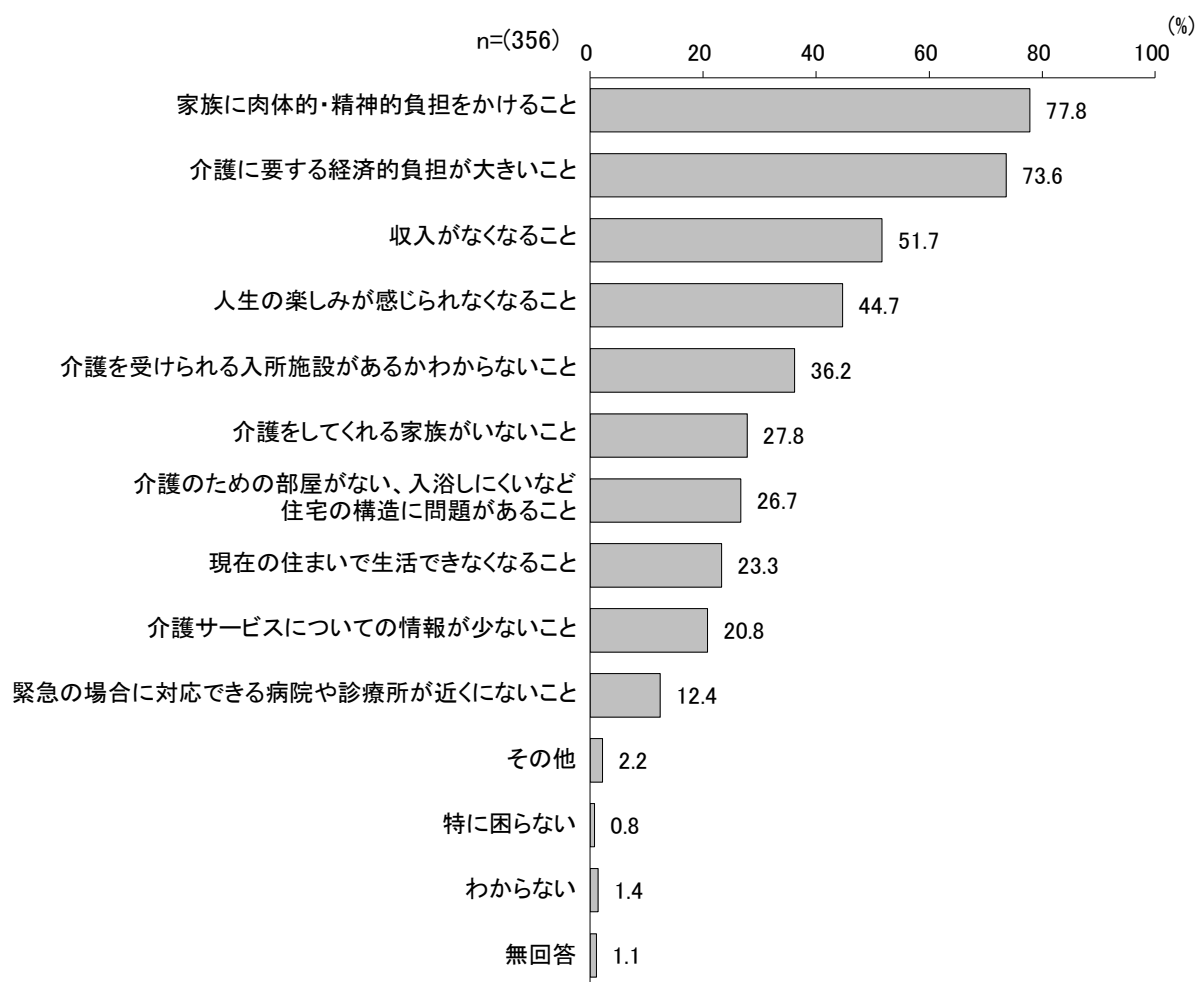


## (7) 老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること

問17 あなた(あて名のご本人)ご自身が、寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合、どのようなことに困ると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ることは、「家族に肉体的・精神的負担をかけること」が77.8%で最も高く、次いで「介護に要する経済的負担が大きいこと」が73.6%となっている。このほか「収入がなくなること」が51.7%、「人生の楽しみが感じられなくなること」が44.7%などとなっている。

図表3-7 老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること（複数回答）



## (8) 家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること

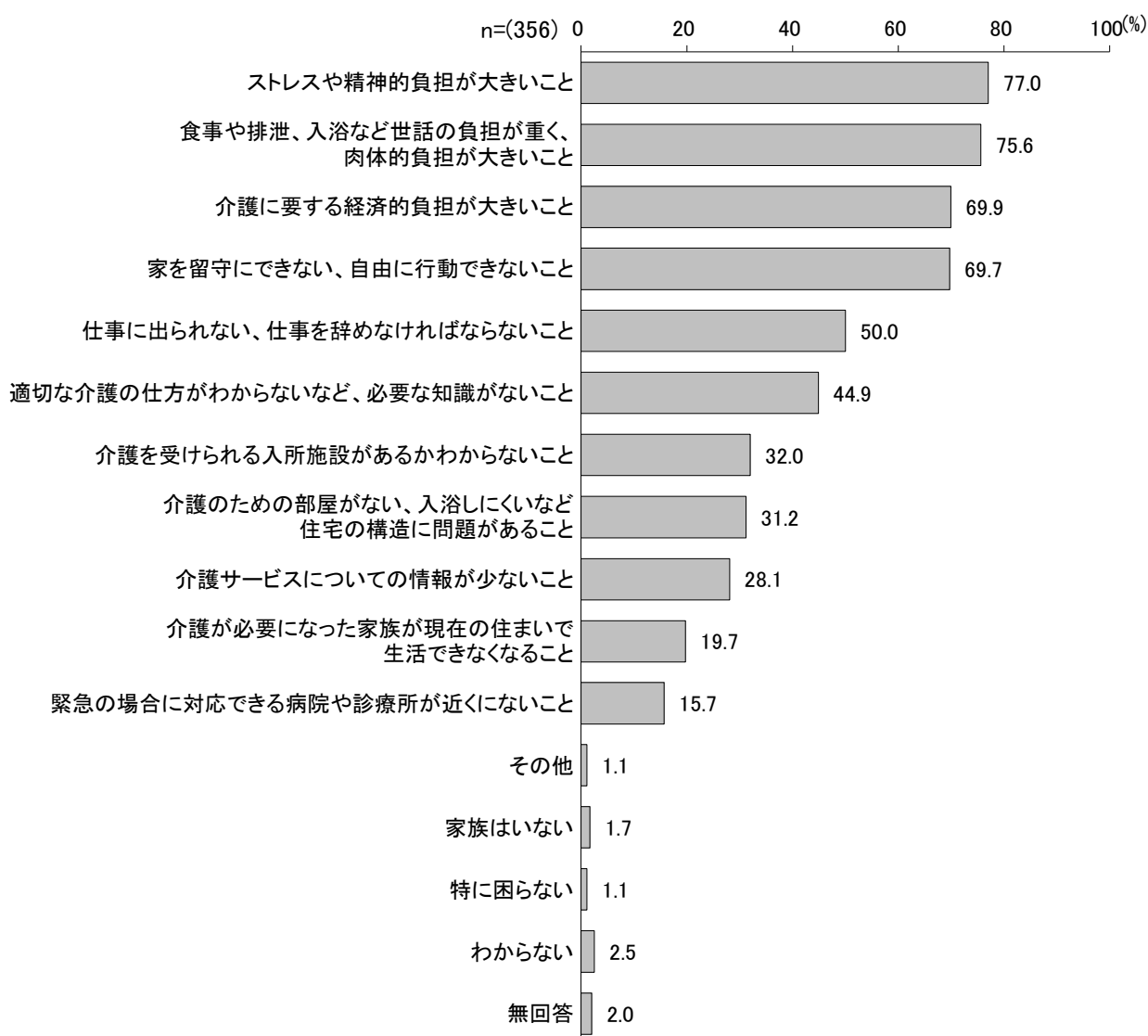
問18 仮に、あなた(あて名のご本人)のご家族が、寝たきりや認知症になり、介護が必要になった場合に、あなたは、どのようなことに困ると思いますか。また、現在、寝たきりや認知症のご家族がいる方はどんなことにお困りですか。

(あてはまるものすべてに○)

家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ることは、「ストレスや精神的負担が大きいこと」が77.0%で最も高く、次いで「食事や排泄、入浴など世話の負担が重く、肉体的負担が大きいこと」が75.6%となっている。このほか、「介護に要する経済的負担が大きいこと」が69.9%、「家を留守にできない、自由に行動できないこと」が69.7%と約7割でおおむね並び、「仕事に出られない、仕事を辞めなければならないこと」が50.0%などとなっている。

図表3-8 家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること

(複数回答)



## 4 社会参加、生きがいづくりについて

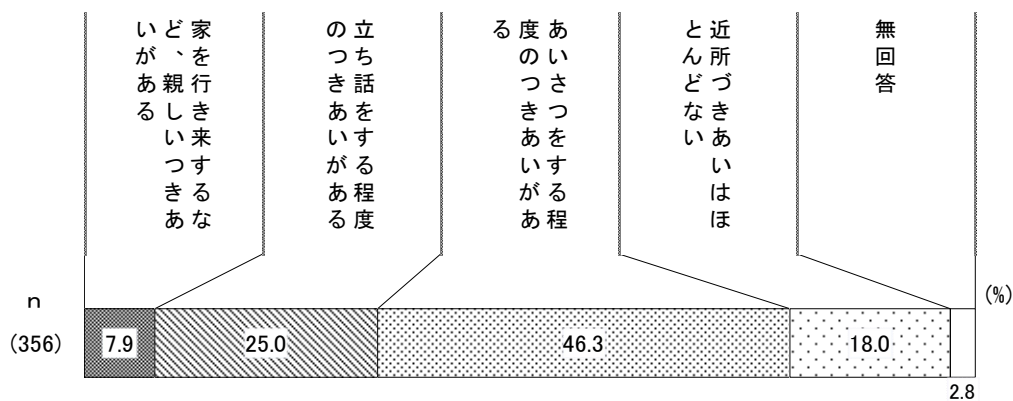
### (1) 近所の人とのつきあいの程度

問19 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。

(1つに○)【比較調査258頁参照】

近所の人とのつきあいの程度は、「あいさつをする程度のつきあいがある」が46.3%で最も高く、次いで「立ち話をする程度のつきあいがある」が25.0%となっている。一方、「近所づきあいはほとんどない」が18.0%みられる。

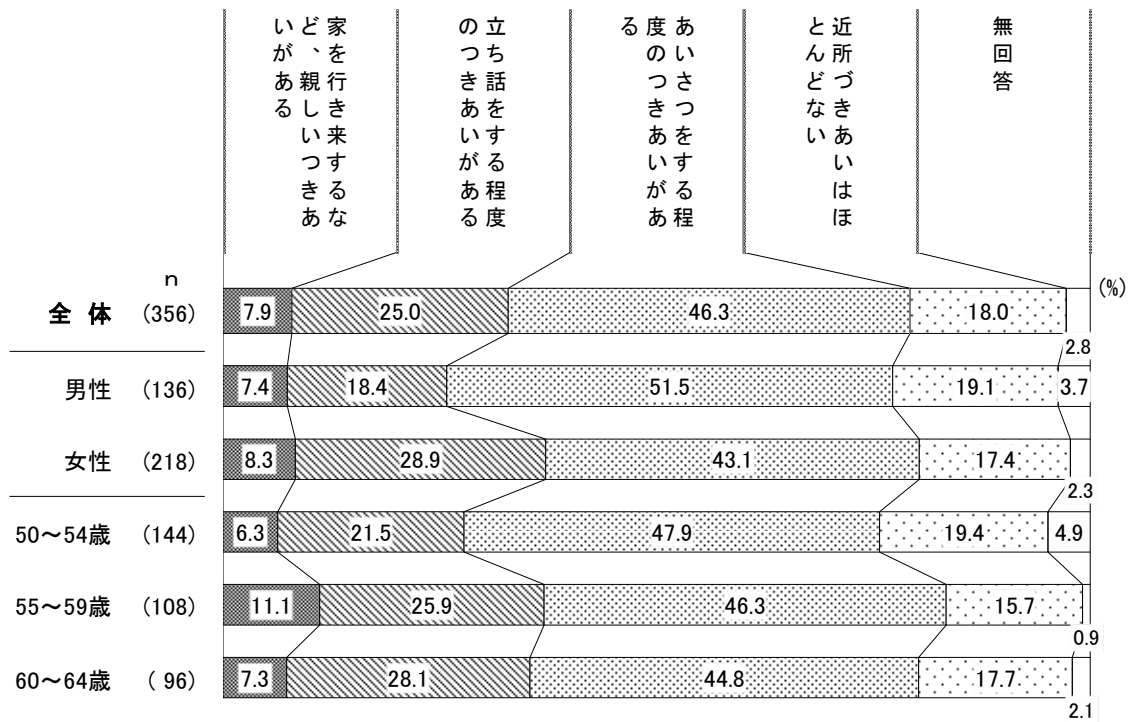
図表4-1 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



性別でみると、「立ち話をする程度のつきあいがある」は、女性の方が男性よりも約11ポイント高くなっている。一方、「あいさつをする程度のつきあいがある」は、男性の方が女性よりも約8ポイント高い。

年齢別でみると、いずれの年齢層でも「あいさつをする程度のつきあいがある」は高く4割台である。また、「立ち話をする程度のつきあいがある」は年齢が上がるほど高く、60～64歳で28.1%となっている。

図表4-2 近所の人とのつきあいの程度／性別、年齢別





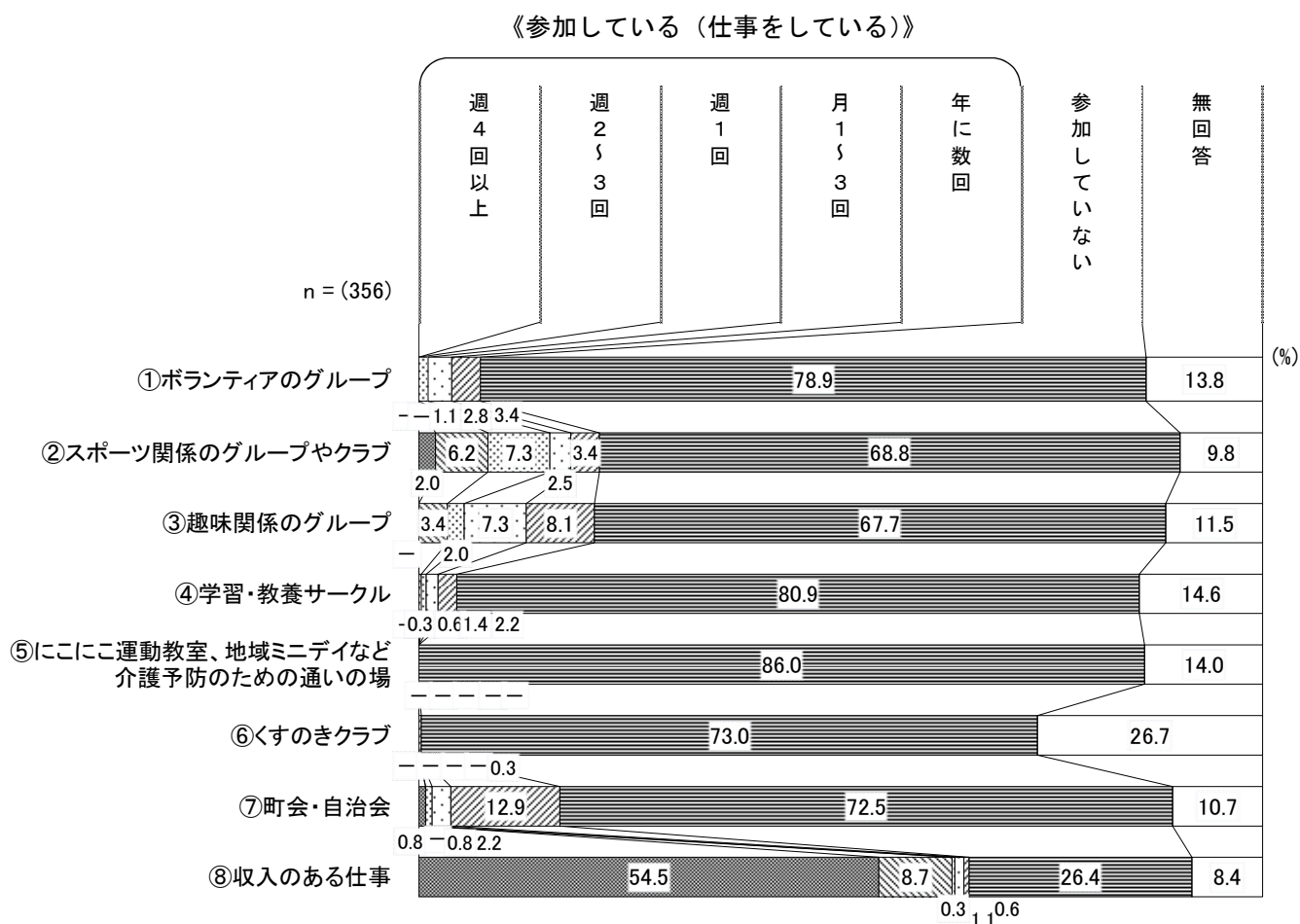
## (2) 会やグループ等への参加頻度

問20 あなた(あて名のご本人)は、以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(それぞれ1つに○)  
 ※①～⑧それぞれに回答してください。

会やグループ等への参加頻度は、“⑧収入のある仕事”を除いて、「参加していない」が6割以上となっている。

「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた《参加している(仕事をしている)》は、“⑧収入のある仕事”が65.2%となっている。“②スポーツ関係のグループやクラブ”と“③趣味関係のグループ”が2割台である。

図表4-3 会やグループ等への参加頻度(単数回答)

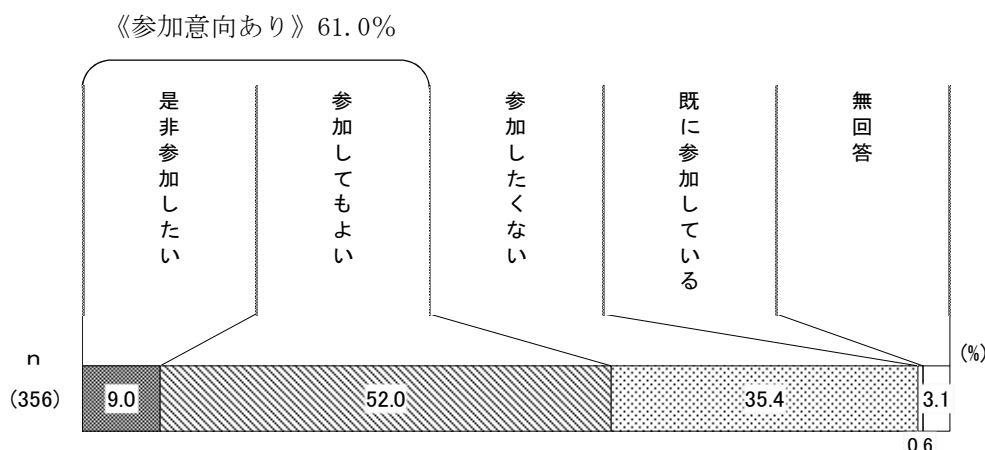


### (3) 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向

問21 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなた(あて名のご本人)はその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○) 【比較調査258◇参照】

地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向は、「是非参加したい」が9.0%、「参加してもよい」が52.0%で最も高くなっている。これらを合わせた《参加意向あり》は61.0%である。一方、「参加したくない」が35.4%となっている。

図表4-4 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向(単数回答)

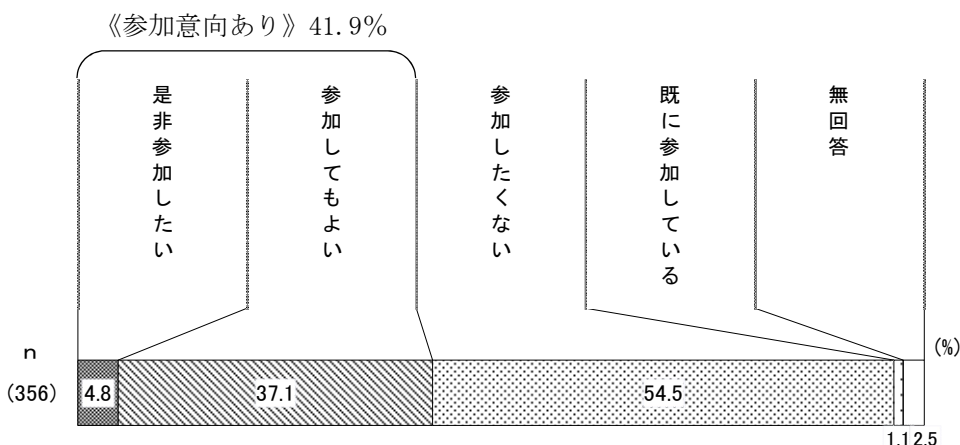


### (4) 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向

問22 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなた(あて名のご本人)はその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つに○) 【比較調査259◇参照】

地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向は、「是非参加したい」が4.8%、「参加してもよい」が37.1%で、これらを合わせた《参加意向あり》は41.9%である。一方、「参加したくない」が54.5%と最も高くなっている。

図表4-5 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向(単数回答)



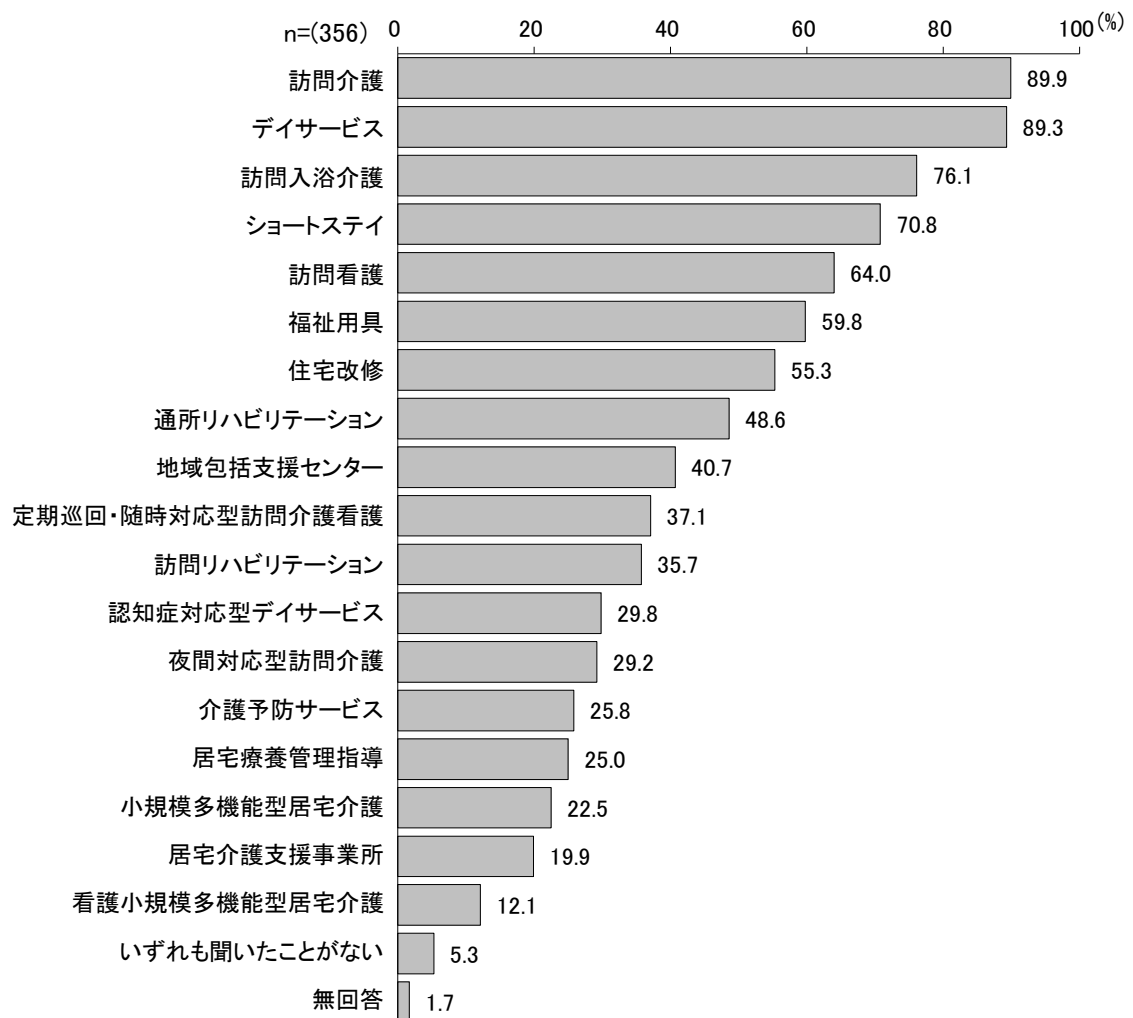
## 5 在宅介護、施設介護に関する意識について

### (1) 自宅で受ける介護保険サービスの周知度

問23 現在の住まいで受ける介護保険の対象となるサービスに、次のようなものがあります。この中で聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

自宅で受ける介護保険サービスの周知度は、「訪問介護」が89.9%、「デイサービス」が89.3%と約9割でおおむね並んで高くなっている。次いで「訪問入浴介護」が76.1%、「ショートステイ」が70.8%、「訪問看護」が64.0%などとなっている。

図表5-1 自宅で受ける介護保険サービスの周知度（複数回答）

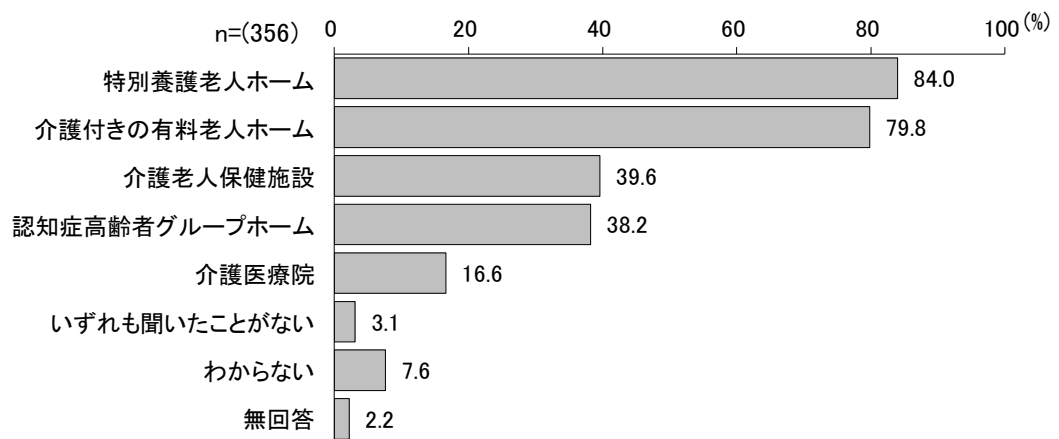


## (2) 施設・居住系サービスの周知度

問24 介護保険の対象となるサービスを受ける施設に、次のようなものがあります。この中で聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

施設・居住系サービスの周知度は、「特別養護老人ホーム」が84.0%、「介護付きの有料老人ホーム」が79.8%と上位2項目が高くなっている。

図表5-2 施設・居住系サービスの周知度（複数回答）

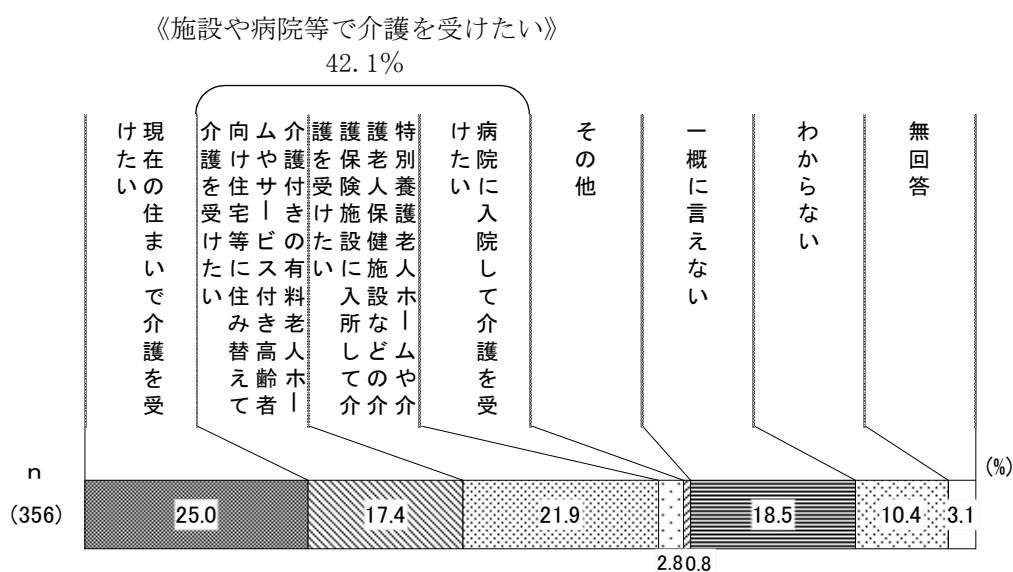


### (3) 自分自身が介護を受けたい場所

問25 あなた(あて名のご本人)ご自身が老後に寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。(1つに○)

自分自身が介護を受けたい場所は、「現在の住まいで介護を受けたい」が25.0%で最も高く、次いで「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」が21.9%、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けたい」が17.4%などとなっている。

図表5-3 自分自身が介護を受けたい場所（単数回答）



#### (4) 現在の住まいで介護を受けたい理由

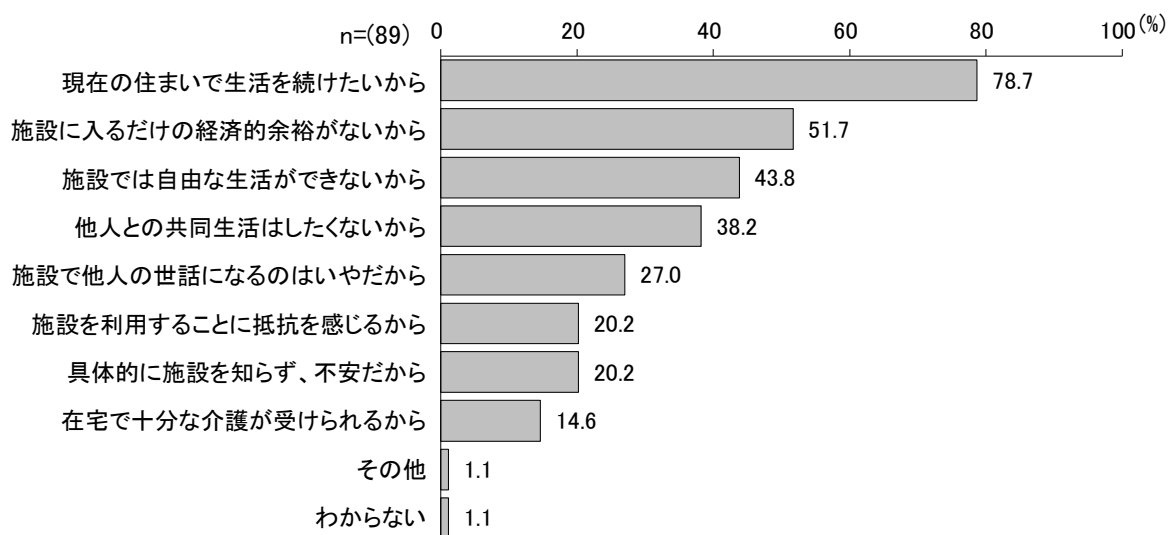
★現在の住まいで介護を受けたい方(問 25 で1に○)にうかがいます。

問25-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になった場合に、「現在の住まいで介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねた。

その結果、「現在の住まいで生活を続けたいから」が78.7%で最も高く、次いで「施設に入るだけの経済的余裕がないから」が51.7%となっている。このほか、「施設では自由な生活ができないから」が43.8%、「他人との共同生活はしたくないから」が38.2%などとなっている。

図表 5-4 現在の住まいで介護を受けたい理由 (複数回答)



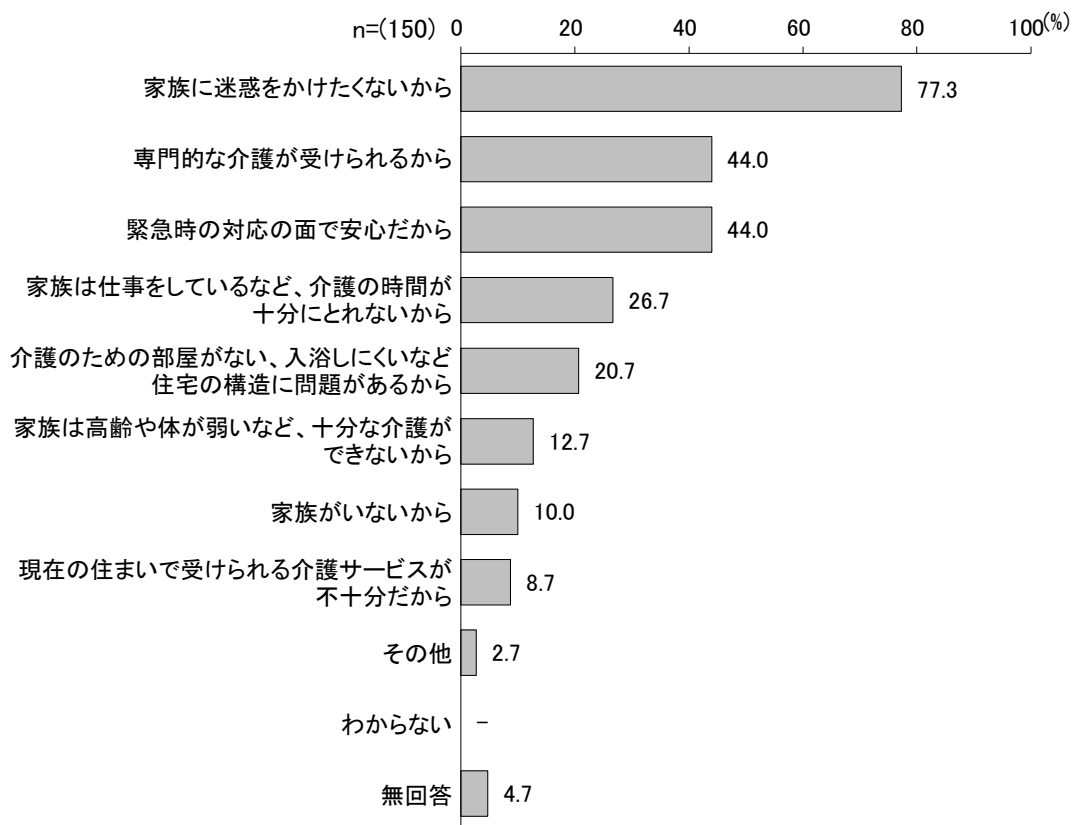
## (5) 施設や病院等で介護を受けたい理由

★施設や病院等で介護を受けたい方(問25で2～4に○)にうかがいます。  
問25-2 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になった場合に、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けたい」、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「病院に入院して介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねた。

その結果、「家族に迷惑をかけたくないから」が77.3%で最も高くなっている。次いで「専門的な介護が受けられるから」と「緊急時の対応の面で安心だから」が44.0%などとなっている。

図表5-5 施設や病院等で介護を受けたい理由（複数回答）



## (6) 施設や病院等を選ぶ重視点

★施設や病院等で介護を受けたい方(問25で2～4に○)にうかがいます。

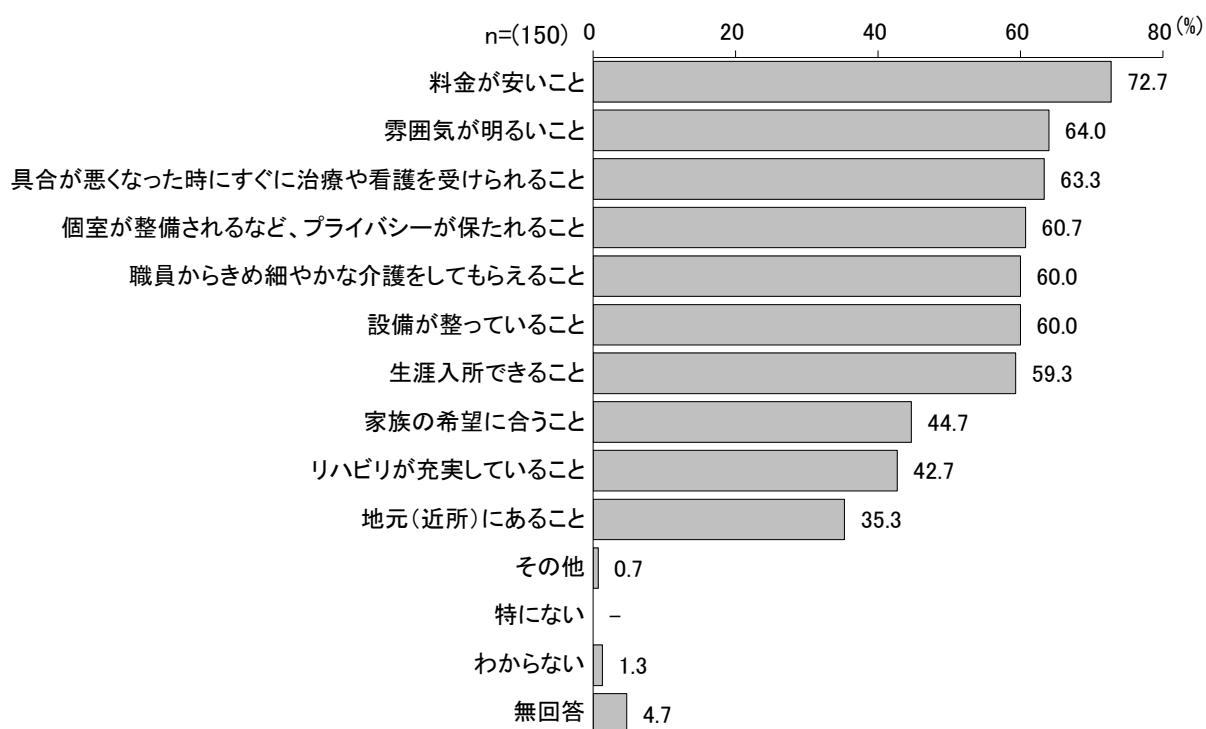
問25-3 あなた(あて名のご本人)が施設を選ぶ際に重視したいことはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になった場合に、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けたい」、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「病院に入院して介護を受けたい」と回答した人に、施設や病院等を選ぶ際の重視点をたずねた。

その結果、「料金が安いこと」が72.7%で最も高くなっている。次いで「雰囲気が明るいこと」が64.0%、「具合が悪くなった時にすぐに治療や看護を受けられること」が63.3%、「個室が整備されるなど、プライバシーが保たれること」が60.7%、「職員からきめ細やかな介護をしてもらえること」と「設備が整っていること」が60.0%、「生涯入所できること」は59.3%と約6割である。

図表5-6 施設や病院等を選ぶ重視点(複数回答)



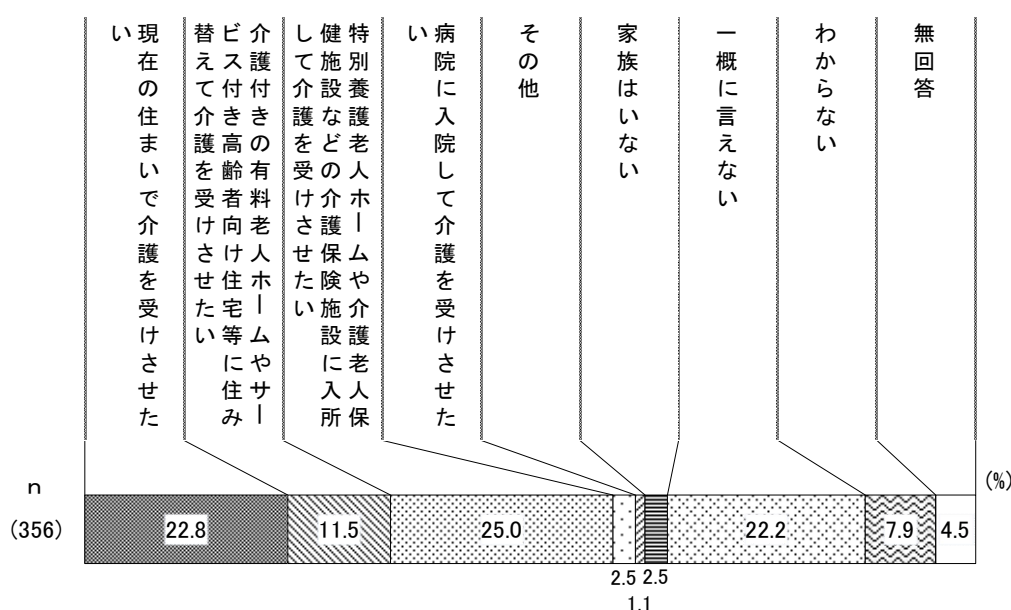


## (7) 家族に介護を受けさせたい場所

問26 あなた(あて名のご本人)のご家族が寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けさせたいと思いますか。(1つに○)

家族に介護を受けさせたい場所は、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けさせたい」が25.0%で最も高く、次いで「現在の住まいで介護を受けさせたい」が22.8%、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けさせたい」が11.5%などとなっている。一方、「一概に言えない」が22.2%みられる。

図表5-7 家族に介護を受けさせたい場所（単数回答）



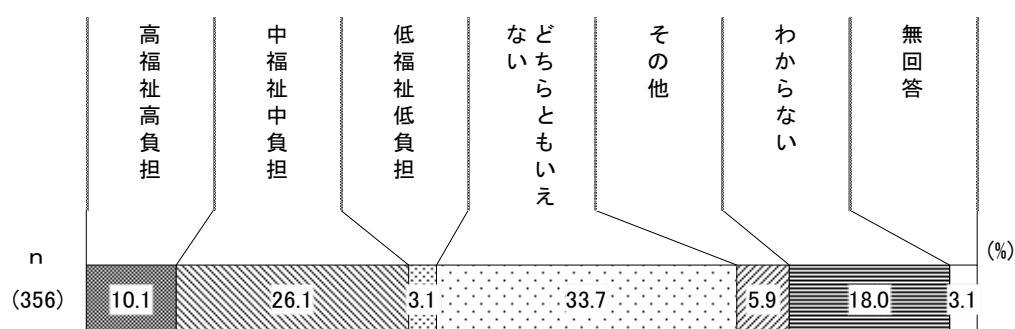
## 6 介護保険制度について

### (1) 福祉サービスの水準と負担の関係に対する考え

問27 あなた(あて名のご本人)は、福祉サービスの水準と負担の関係について、どれが望ましいと思いますか。(1つに〇)

福祉サービスの水準と負担の関係に対する考えは、「中福祉中負担」が26.1%で、「高福祉高負担」が10.1%、「低福祉低負担」が3.1%となっているが、「どちらともいえない」が33.7%と最も高い。

図表6-1 福祉サービスの水準と負担の関係に対する考え（単数回答）

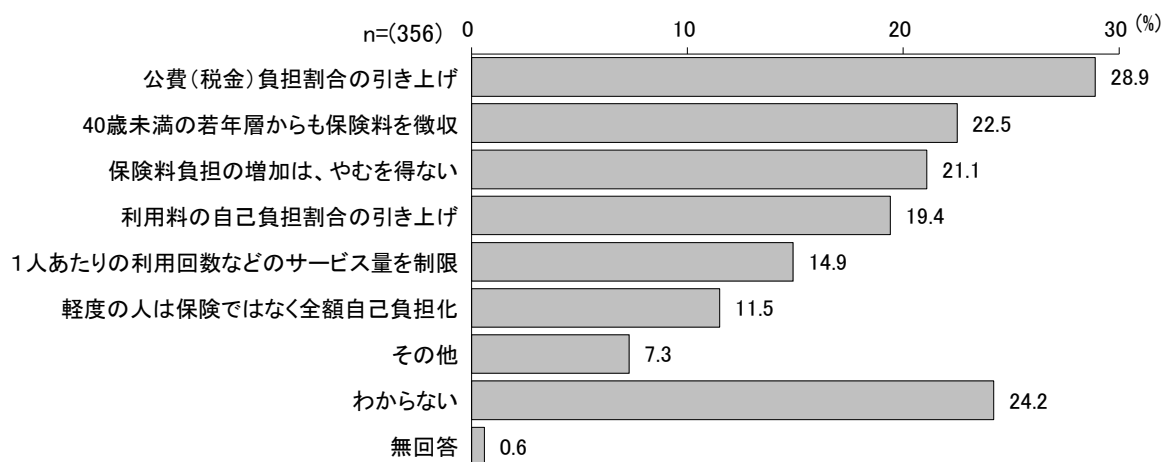


## (2) 介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段

問28 今後の介護保険料負担の増加を抑制するために、どのような手段を講ずるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段は、「公費(税金)負担割合の引き上げ」が28.9%で最も高くなっている。次いで「40歳未満の若年層からも保険料を徴収」が22.5%、「保険料負担の増加は、やむを得ない」が21.1%、「利用料の自己負担割合の引き上げ」が19.4%でおおむね並んでいる。なお、「わからない」が24.2%みられる。

図表6-2 介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段(複数回答)

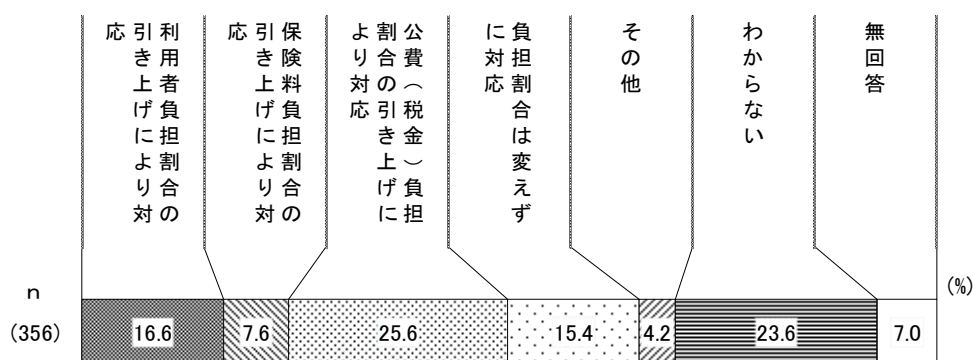


## (3) 介護サービスを充実させた際の費用負担についての考え

問29 今後、超高齢社会を迎えるにあたり、介護サービスをより一層充実させていく場合には、利用料、介護保険料、公費(税金)負担がさらに増えることとなります。その際、大幅に増大する費用をどのように負担していくべきだと思いますか。(1つに○)

介護サービスを充実させた際の費用負担についての考えは、「公費(税金)負担割合の引き上げにより対応」が25.6%で最も高く、次いで「利用者負担割合の引き上げにより対応」が16.6%、「負担割合は変えずに対応」が15.4%とおおむね並び、「保険料負担割合の引き上げにより対応」が7.6%となっている。なお、「わからない」が23.6%みられる。

図表6-3 介護サービスを充実させた際の費用負担についての考え(単数回答)

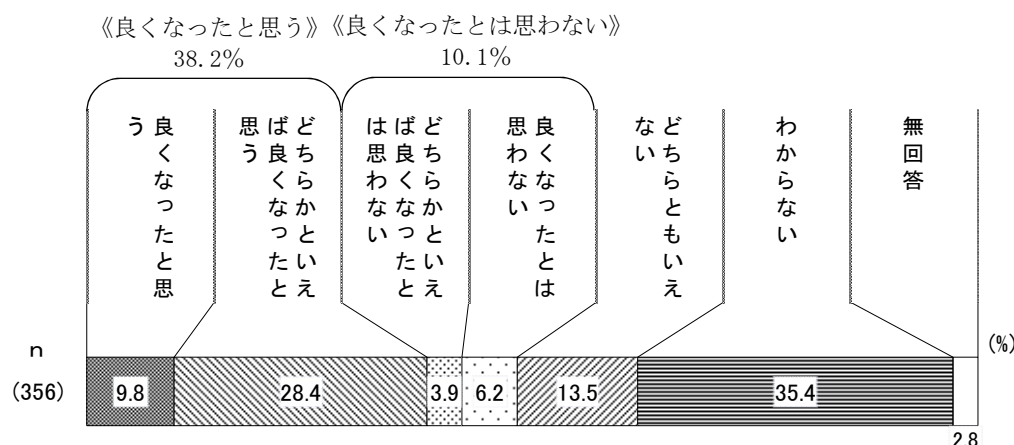


#### (4) 介護保険制度導入による効果

問30 介護保険制度が創設されて19年が経過しました。あなた(あて名のご本人)は介護保険制度が始まったことにより、介護の状況は良くなったと思いますか。(1つに○)

介護保険制度導入による効果は、「良くなったと思う」が9.8%、「どちらかといえば良くなったと思う」が28.4%で、これらを合わせた《良くなったと思う》は38.2%である。一方、「どちらかといえば良くなったとは思わない」(3.9%)と「良くなったとは思わない」(6.2%)を合わせた《良くなったとは思わない》は10.1%となっている。なお、「わからない」が35.4%みられる。

図表6-4 介護保険制度導入による効果(単数回答)



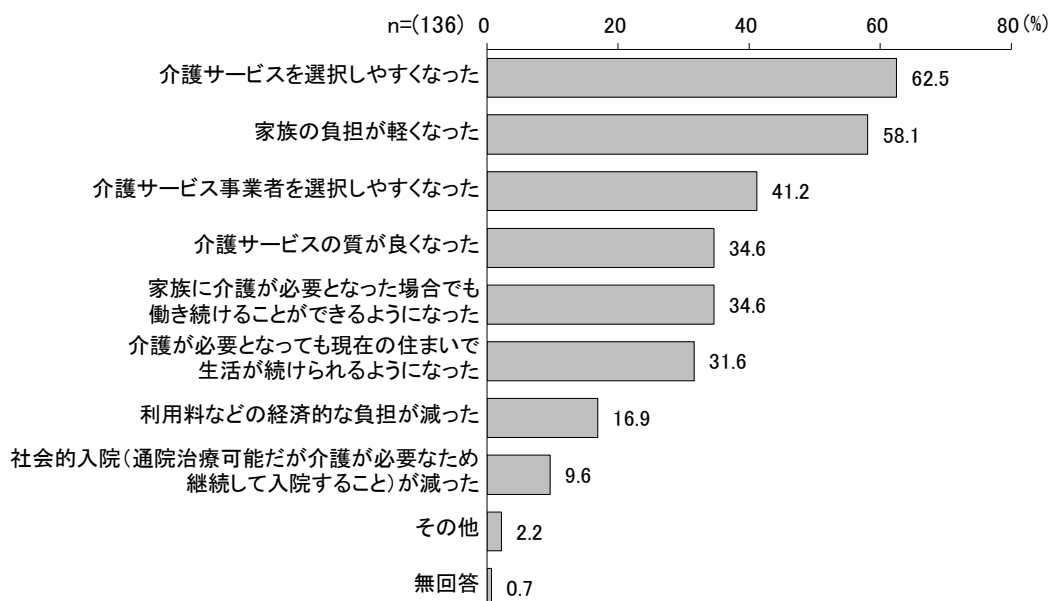
#### (5) 介護保険制度導入の効果で良くなったと思う理由

★良くなったと思う方(問30で1または2に○)にうかがいます。

問30-1 良くなったと思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険制度導入による効果で、《良くなったと思う》と回答した人に、その理由をたずねた。その結果、「介護サービスを選択しやすくなった」が62.5%で最も高く、次いで「家族の負担が軽くなった」が58.1%となっている。

図表6-5 介護保険制度導入の効果で良くなったと思う理由(複数回答)



## (6) 介護保険制度導入の効果で良くなったと思わないこと

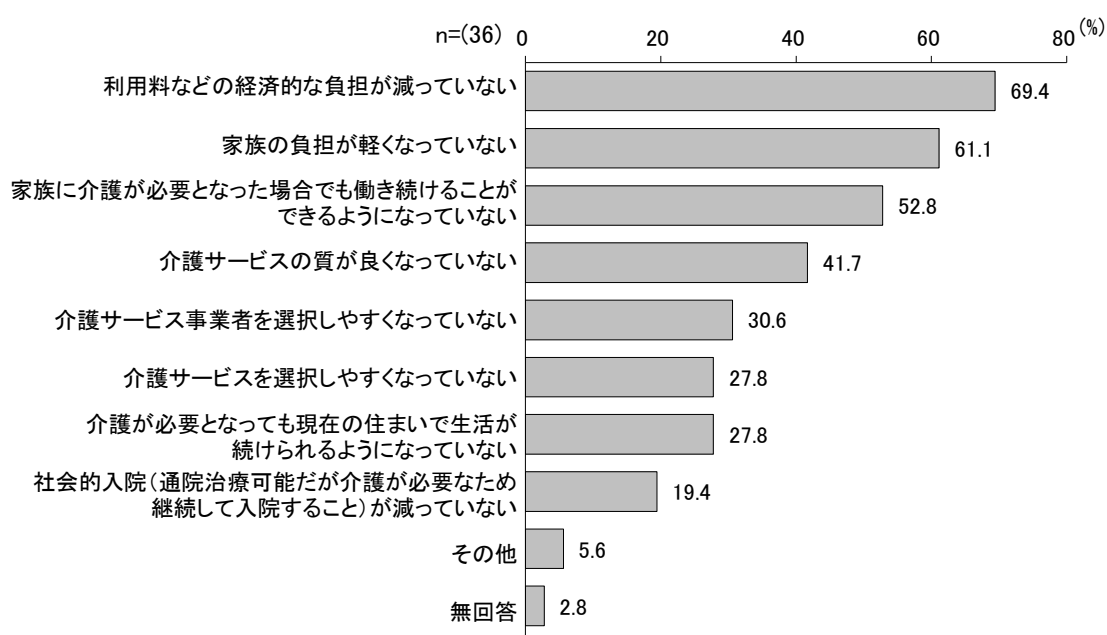
★良くなったと思わない方(問30で3または4に○)にうかがいます。

問30-2 良くなったとは思わないことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険制度導入による効果で、「良くなったと思わない」と回答した人に、その理由をたずねた。

その結果、「利用料などの経済的な負担が減っていない」が69.4%で最も高く、次いで「家族の負担が軽くなっていない」が61.1%、「家族に介護が必要となった場合でも働き続けることができるようになっていない」が52.8%などとなっている。

図表6-6 介護保険制度導入の効果で良くなったと思わないこと(複数回答)

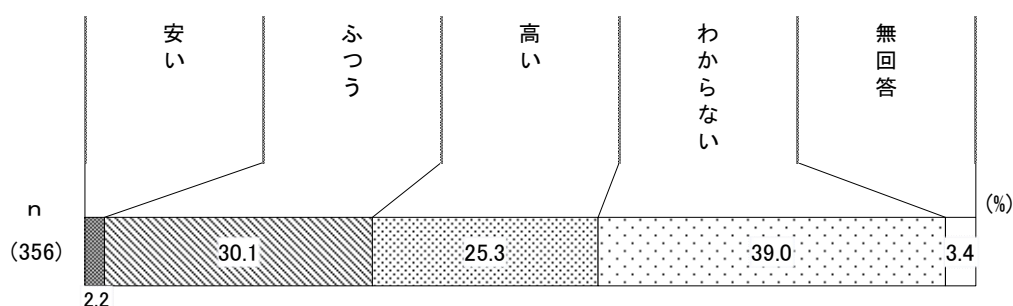


## (7) 介護保険料についての考え

問31 介護保険の保険料について、どのように思いますか。(1つに○)

介護保険料については、「安い」が2.2%、「ふつう」が30.1%、「高い」が25.3%となっているが、「わからない」が39.0%で最も高い。

図表6-7 介護保険料についての考え(単数回答)



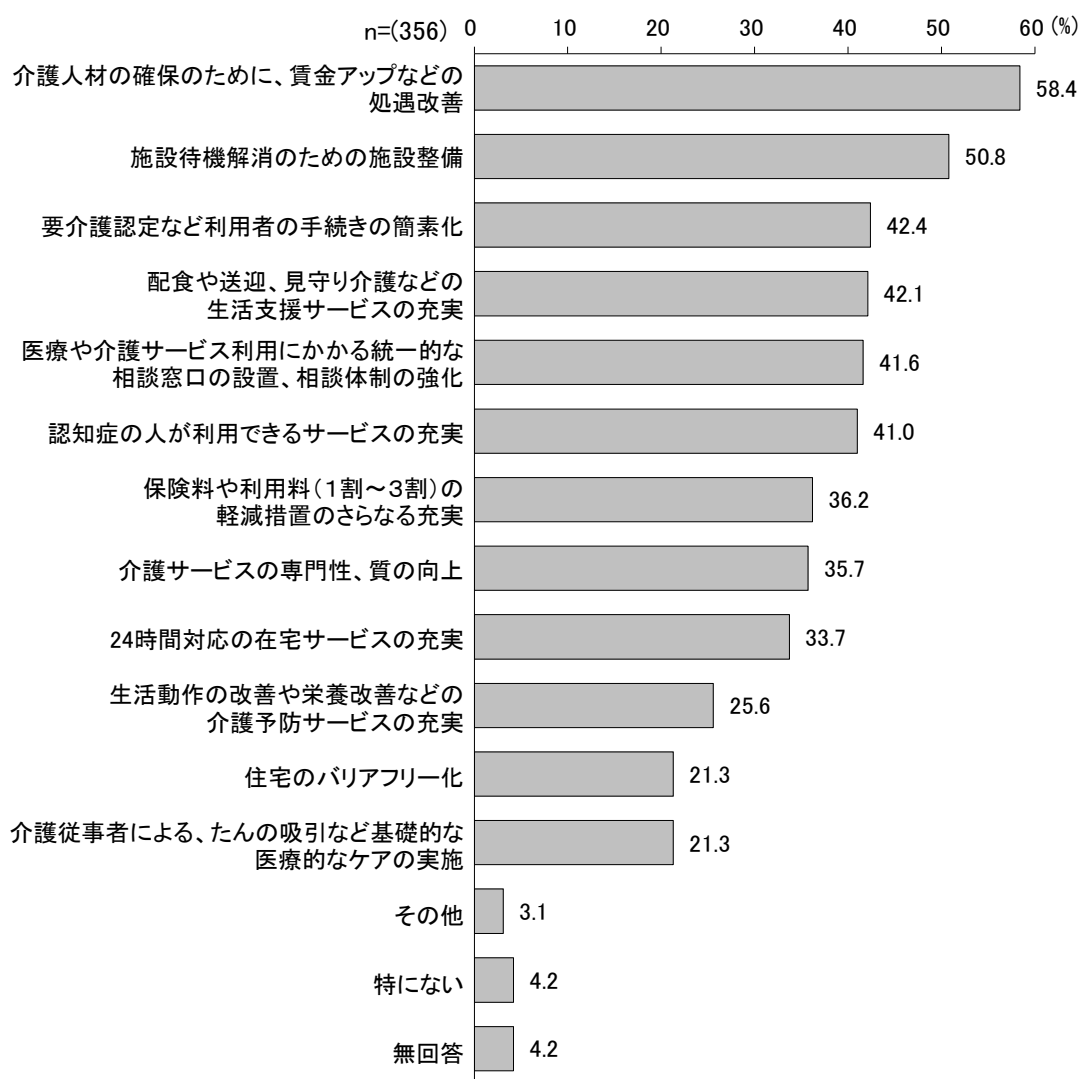
## 7 行政に対する要望について

### (1) 国や区が重点を置くべき施策

問32 今後、増加が予想される介護を必要とする高齢者のために、国や区はどのような施策に重点を置くべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

国や区が重点を置くべき施策は、「介護人材の確保のために、賃金アップなどの処遇改善」が58.4%で最も高く、次いで「施設待機解消のための施設整備」が50.8%となっている。このほか、「要介護認定など利用者の手続きの簡素化」が42.4%、「配食や送迎、見守り介護などの生活支援サービスの充実」が42.1%、「医療や介護サービス利用にかかる統一的な相談窓口の設置、相談体制の強化」が41.6%、「認知症の人が利用できるサービスの充実」が41.0%と4割台でおおむね並んでいる。

図表7-1 国や区が重点を置くべき施策（複数回答）



## (2) なごみの家の認知度と利用内容

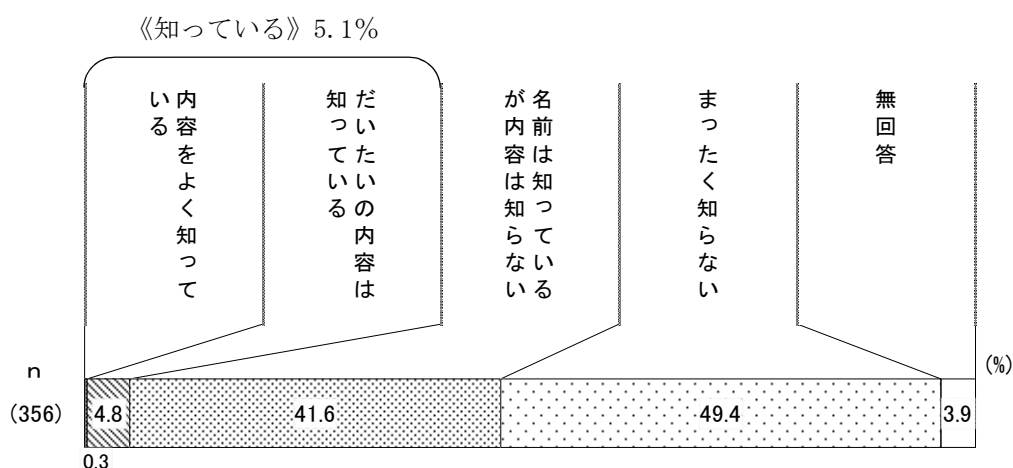
問33 あなた(あて名のご本人)は、「なごみの家」についてどのくらい知っていますか。  
(1つに○)

★内容を知っている方(問33で1または2に○)にお聞きします。

問33-1 なごみの家をどのように利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

なごみの家の認知度は、「内容をよく知っている」が0.3%、「だいたいの内容は知っている」が4.8%で、これらを合わせた《知っている》は5.1%であり、「名前は知っているが内容は知らない」が41.6%となっている。一方、「まったく知らない」が49.4%である。

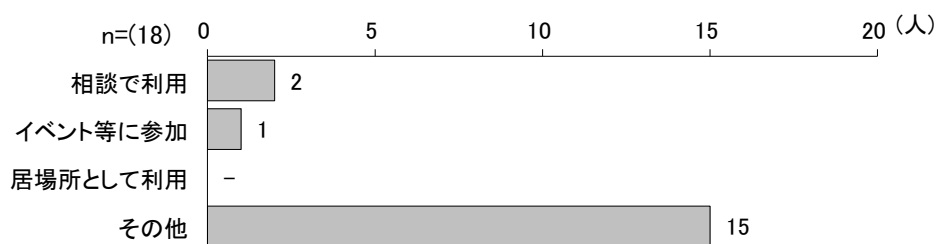
図表7-2 なごみの家の認知度(単数回答)



内容や名前を《知っている》と回答した人に、利用内容をたずねた。

ここではn(人数)が少ないことから、人数の図表を参考として掲載しておく。

図表7-3 なごみの家の利用内容(複数回答)



### (3) 区の熟年者施策の充実度

問34 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。

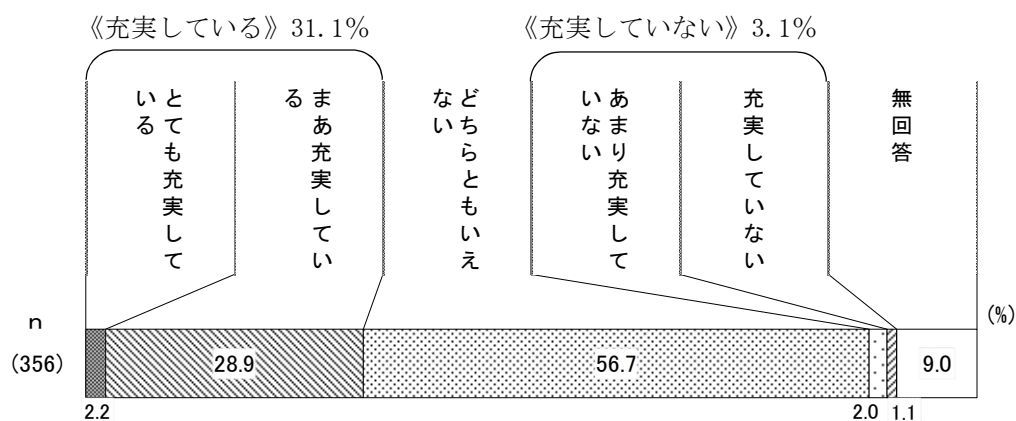
(1つに○)【比較調査265頁参照】

【「あまり充実していない」、又は「充実していない」と回答された方】

そのように感じている理由は何ですか。(自由記述)

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」が2.2%、「まあ充実している」が28.9%で、これらを合わせた《充実している》は31.1%である。「どちらともいえない」が56.7%と最も高くなっており、「あまり充実していない」(2.0%)と「充実していない」(1.1%)を合わせた《充実していない》は3.1%となっている。

図表7-4 区の熟年者施策の充実度 (単数回答)



《充実していない》と感じている理由：13件より抜粋して記載

- ・情報提供が少ない。わかりづらい。
- ・まわりに不幸な老人を多く見受ける。どこからも助けが無いように見える。
- ・知らない施策については評価できない。
- ・母の場合は不可なくデイに通わせてもらっているが、聞いた話で、認知症ゆえの行動に施設から頻りにクレームがくるという話を伺った。施設はそれをわかって経営される専門職の集団ではないか？
- ・何がどのように進められているのかわからない。



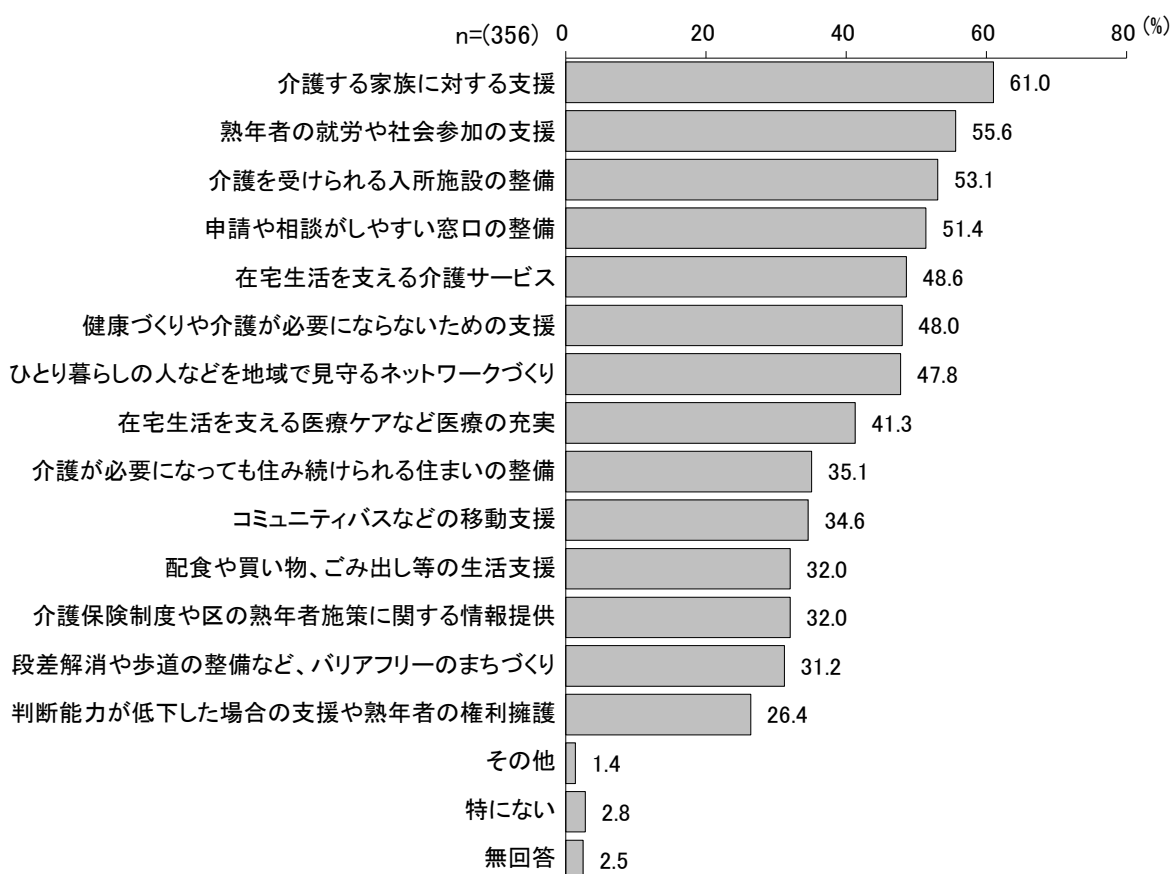
#### (4) 今後充実すべき熟年者施策

問35 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)【比較調査266頁参照】

今後充実すべき熟年者施策は、「介護する家族に対する支援」が61.0%で最も高くなっている。次いで「熟年者の就労や社会参加の支援」が55.6%、「介護を受けられる入所施設の整備」が53.1%、「申請や相談がしやすい窓口の整備」が51.4%と5割台でおおむね並ぶ。このほか、「在宅生活を支える介護サービス」が48.6%、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が48.0%、「ひとり暮らしの人などを地域で見守るネットワークづくり」が47.8%と約5割である。

図表7-5 今後充実すべき熟年者施策（複数回答）



## (5) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

(76件について分類し、抜粋して記載)

### 【1】区の熟年者施策について（21件より抜粋）

- ・新しい区長にとっても期待しています。高齢者福祉だけでなく障害など、福祉には大きな予算が必要であることも理解しています。やっってもらふ福祉から、自分も一緒に支え合い補い合う福祉や地域になっていきたいと感じています。
- ・自分は一人暮らしなので、そういった家族のいない者に対する施策も充実していただけると助かります。安心して利用できる制度の構築をお願いします。
- ・現在を支えている若者、これからを支える子どもたちに対する、支援や手厚い対応を望みます。それは、お金に関わることばかりでなく、精神的に未来に希望を持てるような施策を考えていただきたいと思います。できることは自分でやる。やっってもらってあたりまえではないという気持ちで、元気な老後を目指せるような、そんな江戸川区になって欲しいです。
- ・今後増える高齢者、認知症の方などについての更なる対策を期待しています。

### 【2】サービス利用料・介護保険料その他経済的負担について（12件より抜粋）

- ・介護保険料を支払うのは義務だと思い支払ってはいるものの、実際介護を利用する事なく亡くなる人はたくさんいると思います。利用する方は負担が少ないため、毎日のように利用し、利用しない方は払うだけ払って一生が終わる。何か不公平です。全く利用のない方には1ヶ月分でもいいので、戻り手当のような感じで返金があると嬉しいです。年金暮らしの方は特に保険料を支払うのも苦しいと思いますし、まして自分が全く利用しないのに他人のためにお金を払っているような感覚になってしまうのはおかしいと思います。
- ・経済的な不安があります。健康であれば仕事がずっと続けられるようにして欲しい。医療費が毎月必要なので大変です。働いているときはなんとかありますが、仕事がなくなったら、薬や検査など自分の体のメンテナンスが出来なくなり不安です。国や区で少しでも負担割合を増やしてもらいたいです。
- ・長い間、保険料を払い税金を払ってきた人が、何か事情があるにせよ、生活保護等で払っていない人と同じサービスで、何か納得できない。若い世代の人、子どもたちの労働意欲・やる気をそがれてしまう気がする。
- ・65才になった兄がいますが、貯蓄もなく現在仕事をしています。給与も少なく、年金も少ないです。その中で介護保険料の金額を払うことは厳しいです。70才になり働けなくなった時のために貯蓄したくても出来ないため、介護保険料の見直しを考えてもらえたらと思います。

### 【3】区からの情報提供について（8件より抜粋）

- ・区や国にも言いたいのですが、まだ介護について消極的に考えている方が多いと思います。明らかに支援が必要な方に情報が届いておらず、最悪なケースも聞きます。医療・介護に携わっていないと、どこに誰に、何を聞けばいいのかわからない。家族にも負担をかけてはいけないと考えてしまう方もいます。足を運ばなければ得られない情報だけでは困ります。うるさい、聞きあきたと言われても介護に関するコマーシャルやチラシを流して欲しいです。最後まで自分らしく生きられたと思える日本に、江戸川区になって欲しいです。
- ・高齢者の生きがいづくりが大切と感じます。そのための意識を高める、きっかけを作るための情報提供が必要と考えます。生きがいを感じている方のほうが介護される比率は下がると思います。
- ・自分はフルタイムで働いていてなかなか情報収集ができないので、土・日の相談会などがあるとありがたいと思っています。今は親のことしか考えられませんが、近いうちには自分のことになるので、区の取組に期待しつつ、知る努力もしようと思います。
- ・自分自身に介護サービスが必要になったときに、どういうタイプの施設があって、どういうタイプの施設を選ぶべきなのかなど、全くわからない。必要になってから探しても空きがあるのかもわからず、現時点では地域包括支援センターに相談に行き教わる事ぐらいしか想像できない。もう少し事前に理解しておけると安心感につながる気がする。まだこの先のこととして考えている年代（中高年）にも、ある程度シミュレーションできるようなガイドブックやチャート方式などがあると嬉しいです。
- ・介護されなくて良いように健康づくりができる場所が近くにあると良い。また65才以上の就労について、どこに相談すれば良いのかわからないのでそういう情報提供が欲しい。

### 【4】介護人材の確保について（3件より抜粋）

- ・介護の人材をヘルパーなどの資格の有無にかかわらず、広く多くの誠実な人に求めていただきたいと思います。長く病院で患者さんの付き添いをやって生計を立てていた人が、資格制度ができたために続けられなくなったというのを聞きました。資格取得のための時間的、経済的余裕のない人でしたので、他の職種に移ったとのことでした。反対に社会貢献をしたいと考え資格を得たものの、実際に就労してみると頭で思い描いていたものとはかけ離れており、短期間で離職に至ったという話もよく聞きます。多くの介護人材を得られるように、普通の仕事と同じように「良い人を募る」ということにできないでしょうか。
- ・私はショートステイで日夜従事しています。介護保険により介護を受ける側はとても利用し易くなったと思います。介護を受ける側だけではなく、介護施設で介護に従事している者への賃金アップ等の処遇改善を行わなければ、「質の良い介護」の継続はないと思います。認知症の介護は紙で行う調査などという簡単なものではありません。役所の方々に1度、体験介護を行ってみてはいかがでしょうか。

#### 【5】その他の区に対する意見や要望（32件より抜粋）

- ・江戸川区に住んで20年が過ぎました。とても良い街だと思います。特に幼稚園、小・中学校が充実していて、子育て・教育に満足しています。子どもにも高齢者にも優しい街だと思います。定期的に聞こえる防災放送の練習にも安心感があります。今年は実際に台風の時に聞こえていました。強い風の中でも、指示がわかり安心しました。介護についても実際に経験し、ご近所の方にも理解して頂き助かりました。区の制度がしっかりしていると住民の連携も取りやすいのだと思います。今度は自分が高齢者となり、どの様な世になるのか…と時々思いますが、体を動かし、健康を保てる様に心掛けたいと思います。親の介護ではケアマネさんの訪問がとても心強かったです。デイサービスの皆様にも助けて頂きました。ありがたかったです。
- ・江戸川区は福祉・子育てに良いと言われ、区民としてもとても住みやすさを感じています。どうかこの状況を続けていただきたいです。

# 第6章

## 区民向け5調査間の 比較結果

※区民を対象とした5調査間の比較結果では、各調査名を下記のとおり省略して表記する。

「熟年者の健康と生きがいに関する調査」	⇒【熟年者調査】
「介護予防に関する調査」	⇒【介護予防調査】
「介護保険サービス利用に関する調査」	⇒【利用者調査】
「熟年者のお元気度チェック調査」	⇒【地域活動調査】
「介護保険制度と介護予防に関する調査」	⇒【第二号被保険者調査】

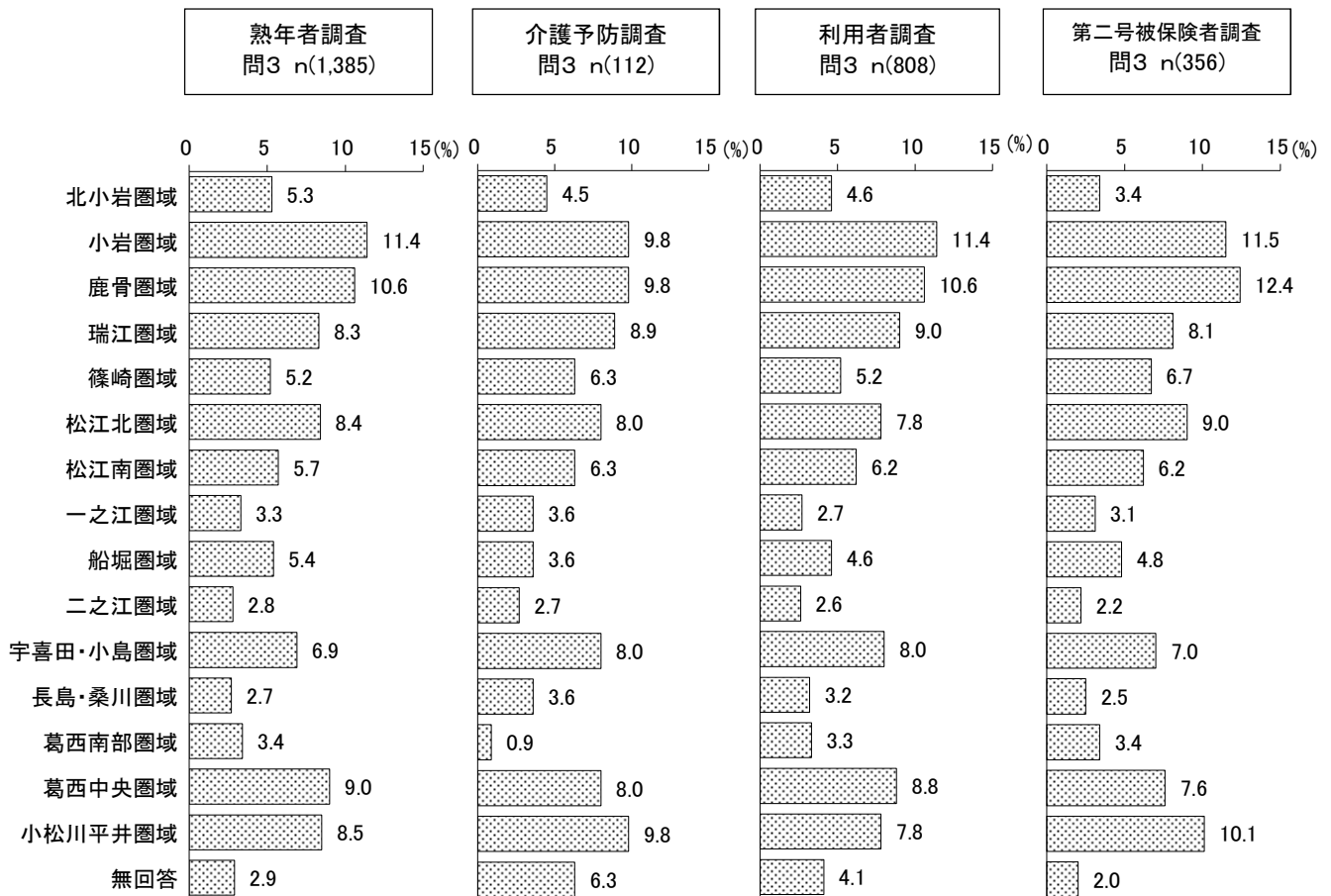


# 1 基本属性

## (1) 居住地（日常生活圏域）

いずれの調査でも「小岩圏域」、「鹿骨圏域」で、居住者の割合が高くなっている。また、【介護予防調査】では、「小松川平井圏域」もそれらの2圏域に並んでいる。

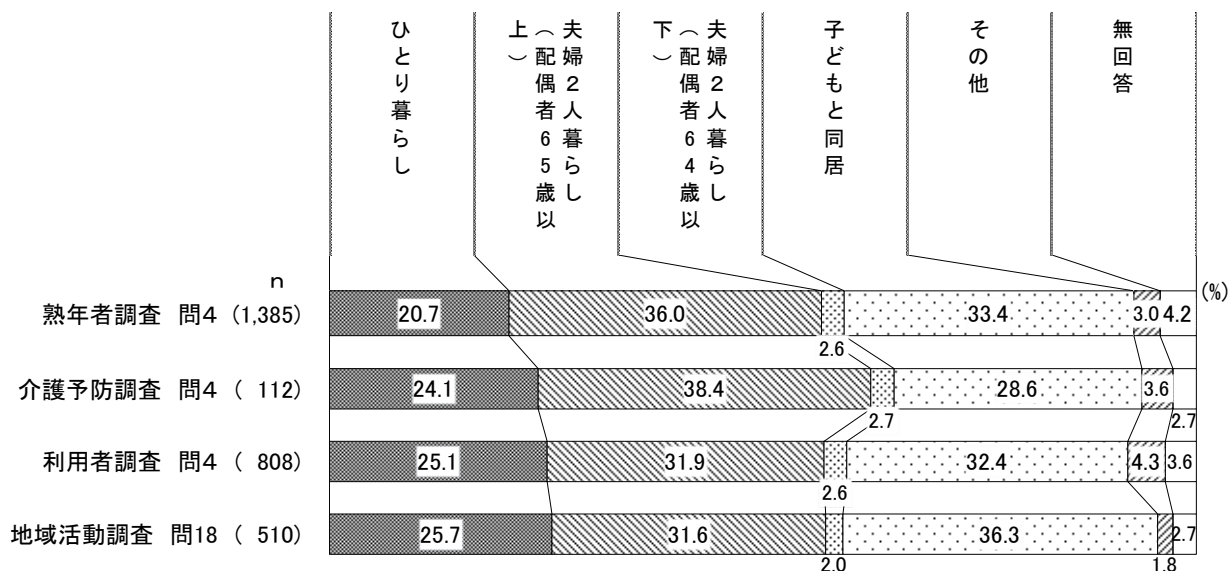
図表 1 - 1 居住地（日常生活圏域）



## (2) 世帯構成

いずれの調査でも「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」か「子どもと同居」の割合が高くなっている。「ひとり暮らし」の割合は、【熟年者調査】で20.7%だが、それ以外の調査では2割台半ばである。

図表 1-2 世帯構成



※第二号被保険者調査でも世帯構成はたずねているが、調査対象の特性から、異なる選択肢であるため、ここでは省略している。

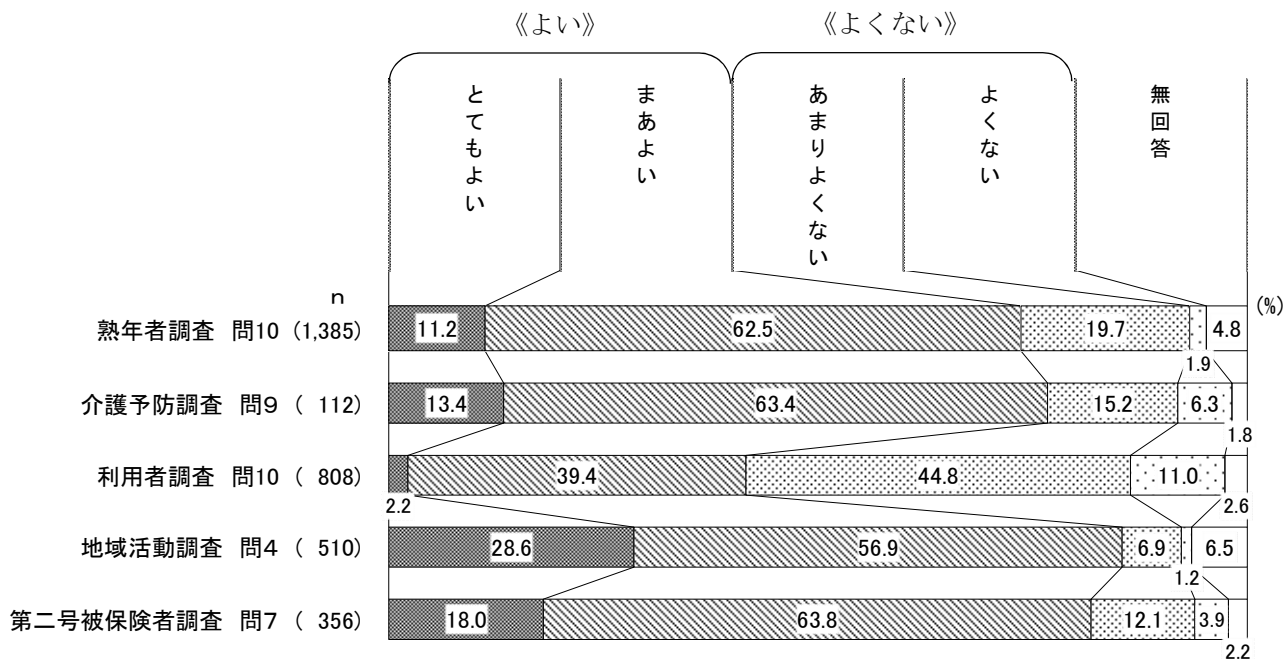


## 2 健康について

### (1) 健康状態

健康状態が「とてもよい」は、【地域活動調査】で28.6%と最も高くなっている。《よい》としてみると、【地域活動調査】で85.5%と最も高く、次いで【第二号被保険者調査】で81.8%となっている。一方、《よくない》は【利用者調査】で最も高く55.8%となっている。

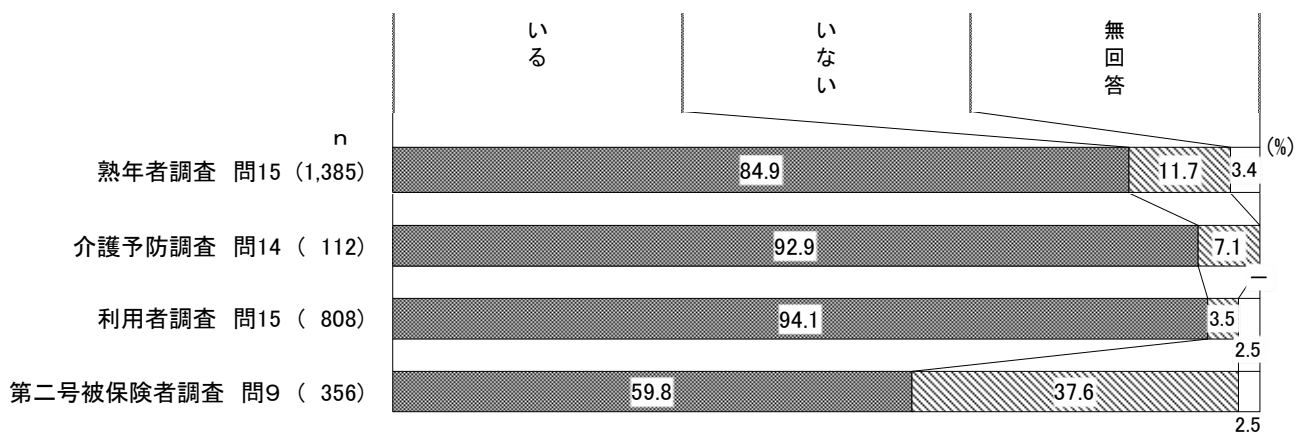
図表2-1 健康状態



## (2) かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無

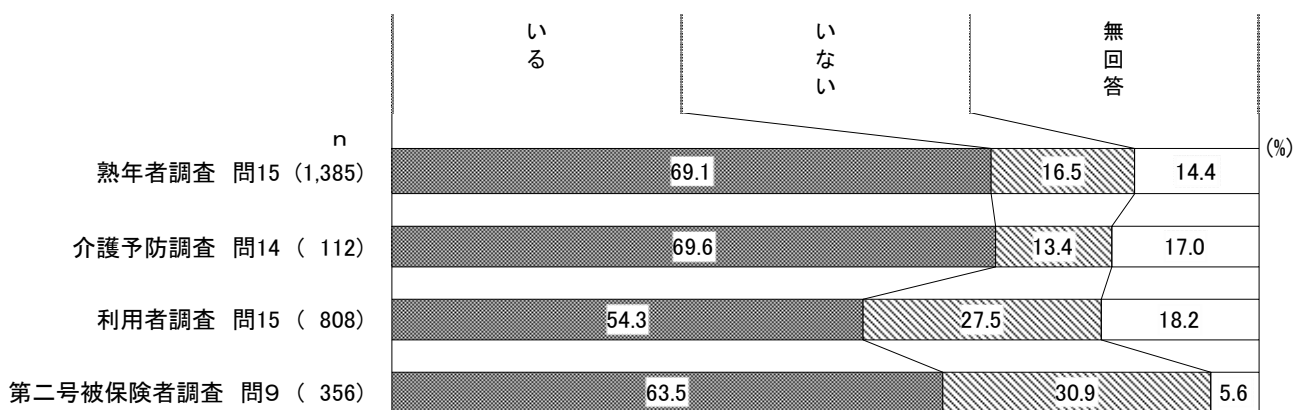
かかりつけ医師の有無は、「いる」が【第二号被保険者調査】で59.8%にとどまり、「いない」が37.6%となっている。

図表 2-2 かかりつけ医師の有無



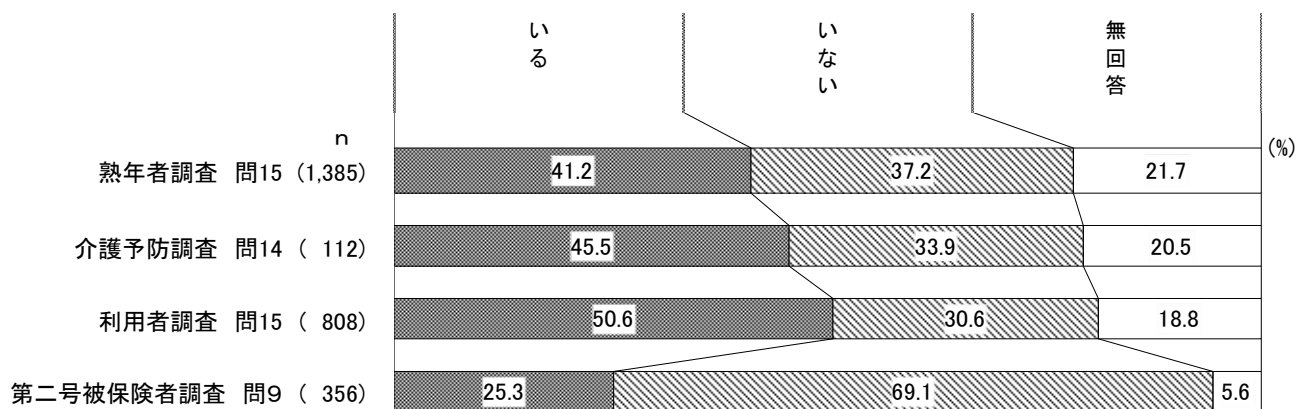
かかりつけ歯科医の有無は、「いる」が【利用者調査】で54.3%、【第二号被保険者調査】で63.5%にとどまり、これらの2調査は「いない」が3割前後となっている。

図表 2-3 かかりつけ歯科医の有無



かかりつけ薬剤師の有無は、「いる」が【利用者調査】でのみ50.6%と5割を超え、【第二号被保険者調査】で25.3%にとどまる。「いない」は、【第二号被保険者調査】で69.1%となっている。

図表 2-4 かかりつけ薬剤師の有無

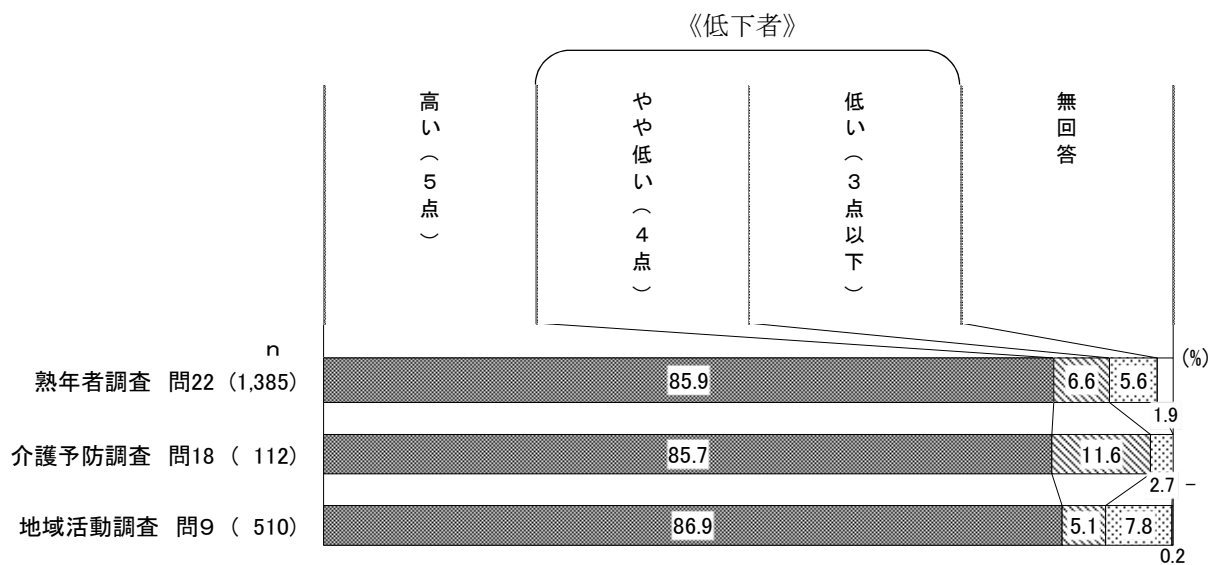


### 3 日常生活について

#### (1) 手段的日常生活動作（IADL）の自立度の評価

手段的日常生活動作（IADL）の自立度の評価は、「高い（5点）」がいずれの調査でも8割台半ばと、おおむね並んでいる。

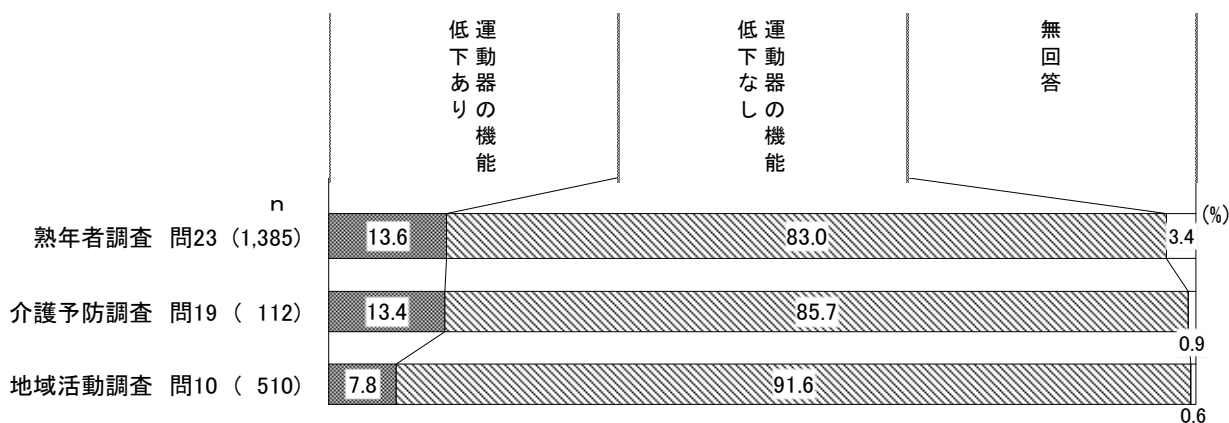
図表3-1 手段的日常生活動作（IADL）の自立度の評価



## (2) 運動器機能の評価

運動器機能の評価は、いずれも「運動器の機能低下なし」が8割から9割台と多数を占めている。「運動器の機能低下あり」は、【熟年者調査】と【介護予防調査】で1割台半ばである。

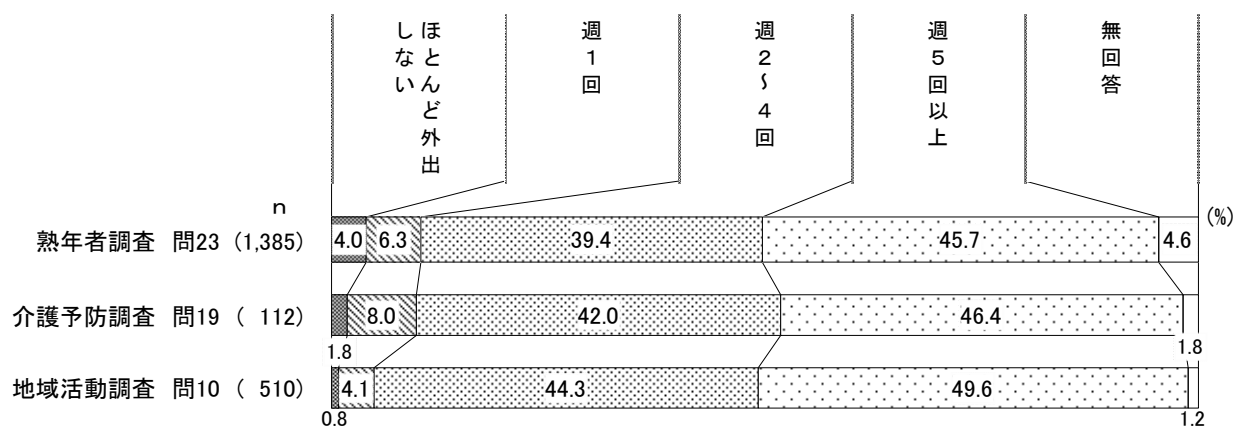
図表3-2 運動器機能の評価



## (3) 週に1回以上の外出

週に1回以上の外出の設問は、「ほとんど外出しない」か「週1回」に該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向のある高齢者と考えられる。【熟年者調査】では「ほとんど外出しない」が4.0%、「週1回」が6.3%、【介護予防調査】では「ほとんど外出しない」が1.8%、「週1回」が8.0%となっている。また、【地域活動調査】であっても、「ほとんど外出しない」が0.8%、「週1回」が4.1%みられる。

図表3-3 週に1回以上の外出

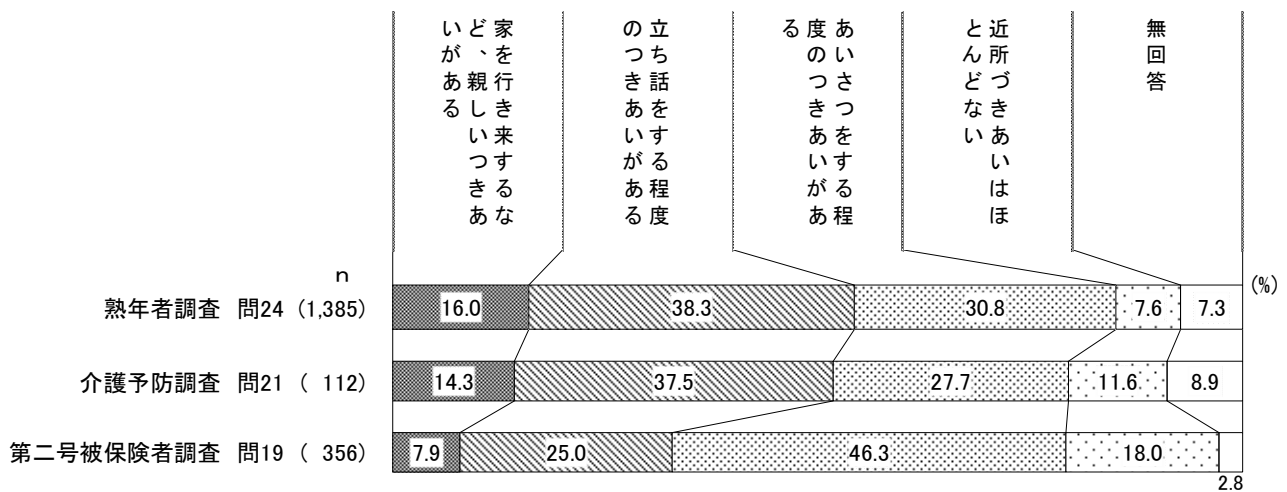


## 4 社会参加、生きがいつくりについて

### (1) 近所の人とのつきあいの程度

「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」と「立ち話をする程度のつきあいがある」は、【熟年者調査】、【介護予防調査】、【第二号被保険者調査】の順で低くなっている。【第二号被保険者調査】では、「立ち話をする程度のつきあいがある」よりも「あいさつをする程度のつきあいがある」が高く46.3%である。

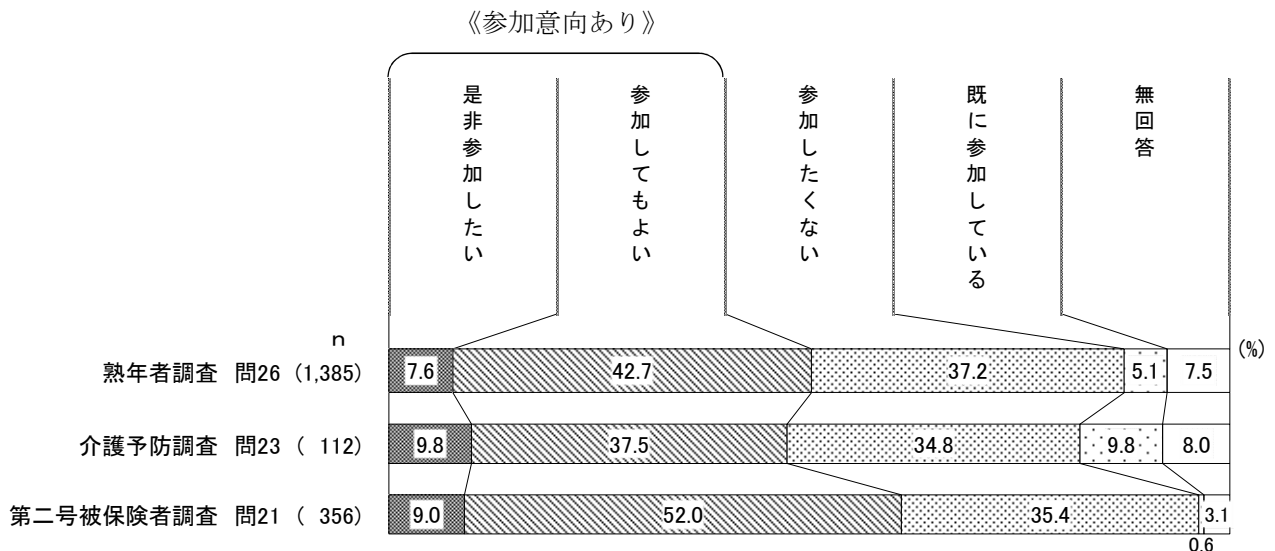
図表4-1 近所の人とのつきあいの程度



### (2) 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向

《参加意向あり》は、【第二号被保険者調査】で61.0%と最も高く、次いで【熟年者調査】で50.3%、【介護予防調査】で47.3%となっている。一方、いずれの調査でも「参加したくない」は3割台半ばとおおむね並んでいる。

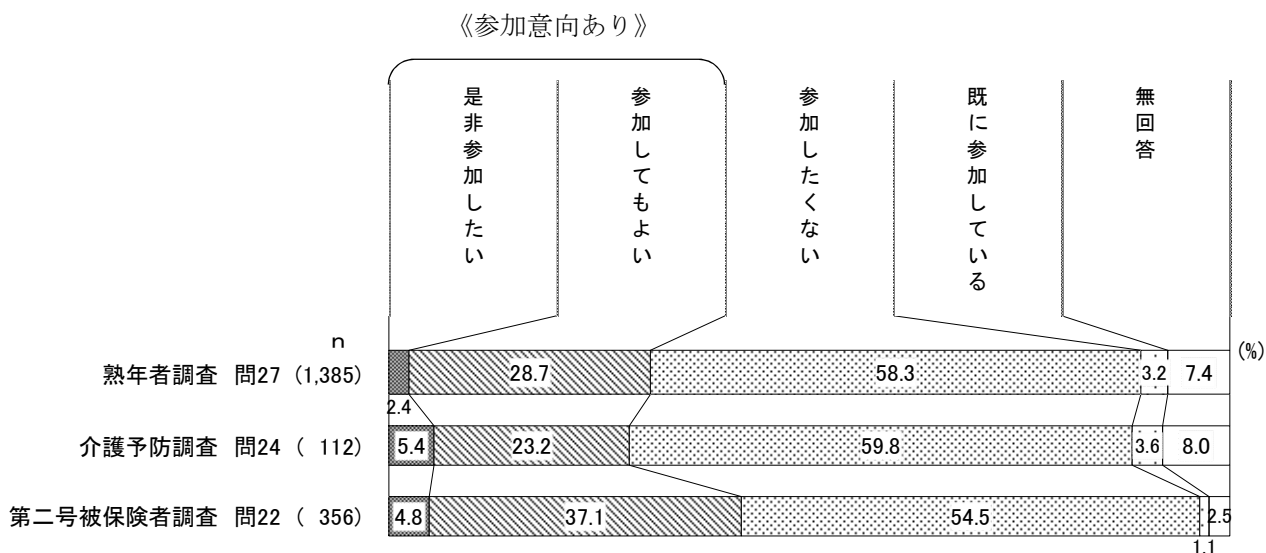
図表4-2 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向



### (3) 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向

《参加意向あり》は、【第二号被保険者調査】で41.9%と最も高く、次いで【熟年者調査】で31.1%、【介護予防調査】で28.6%となっている。いずれの調査でも「参加したくない」が5割以上で高くなっており、特に、【熟年者調査】と【介護予防調査】は約6割である。

図表4-3 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向

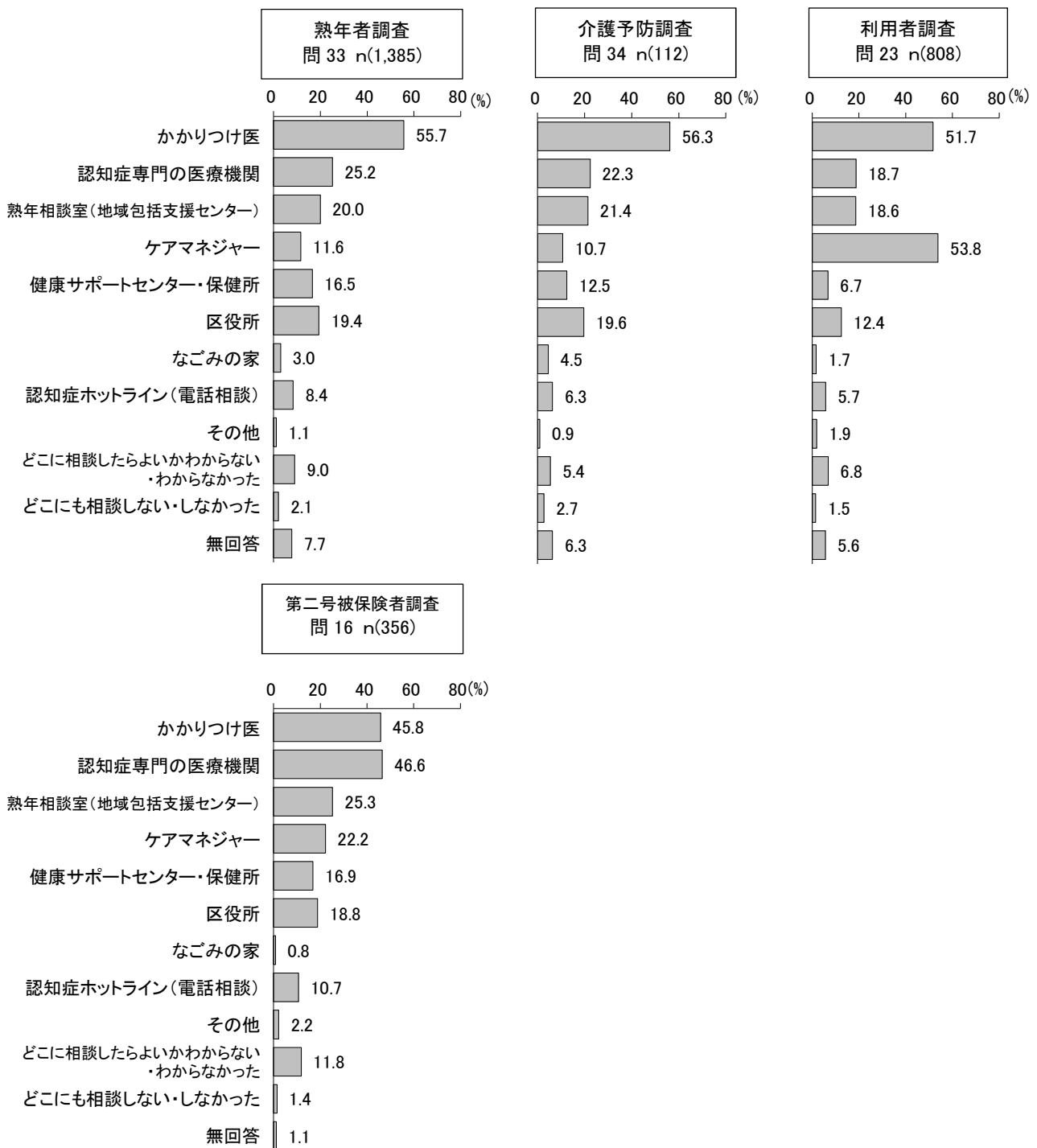


## 5 認知症や権利擁護について

### (1) 認知症に関する相談先

【熟年者調査】、【介護予防調査】では、「かかりつけ医」が最も高く、どちらの調査でも5割台半ばとなっている。【利用者調査】では、「ケアマネジャー」と「かかりつけ医」が5割を超え、【第二号被保険者調査】では、「かかりつけ医」と「認知症専門の医療機関」が4割台半ばで、それぞれおおむね並んでいる。

図表5-1 認知症に関する相談先（複数回答）

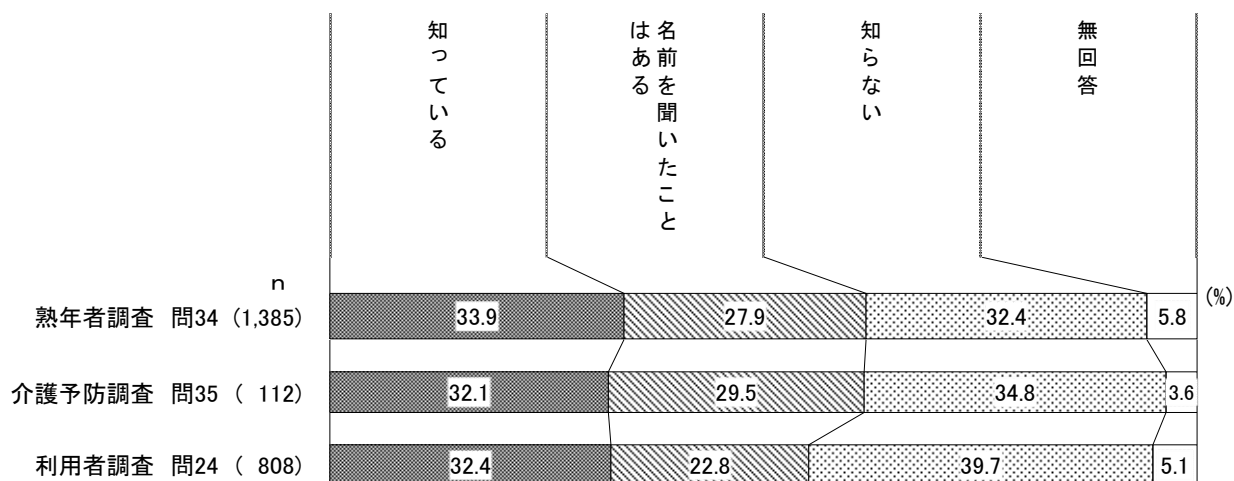




## (2) 成年後見制度の認知度

「知っている」は、いずれの調査でも3割台でおおむね並んでいる。一方、「知らない」は、【利用者調査】で39.7%と最も高くなっている。

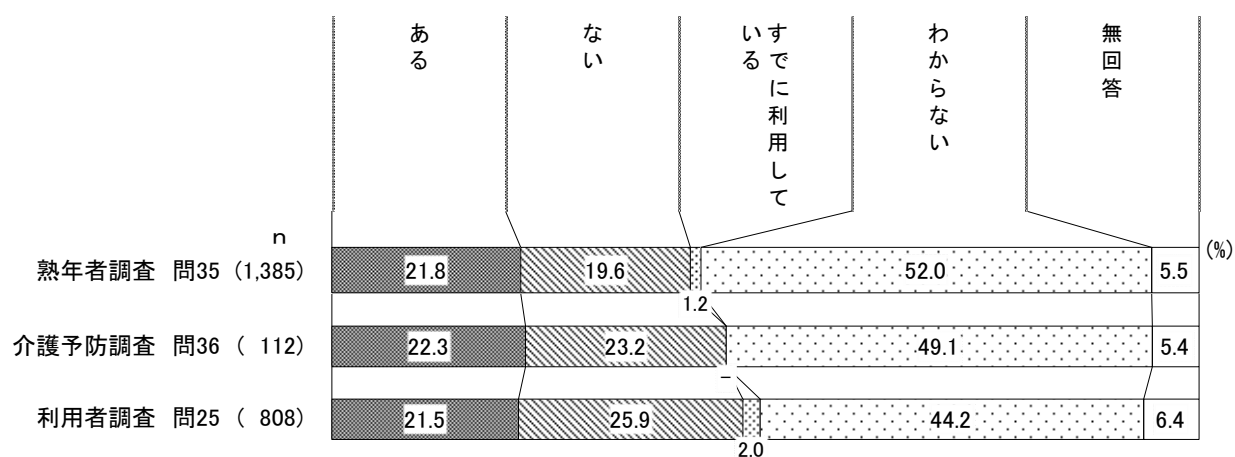
図表5-2 成年後見制度の認知度



## (3) 成年後見制度の利用意向

いずれの調査でも「ある」と「ない」がおおむね並び、「わからない」が高くなっている。【熟年者調査】、【介護予防調査】では、「わからない」が5割前後である。

図表5-3 成年後見制度の利用意向



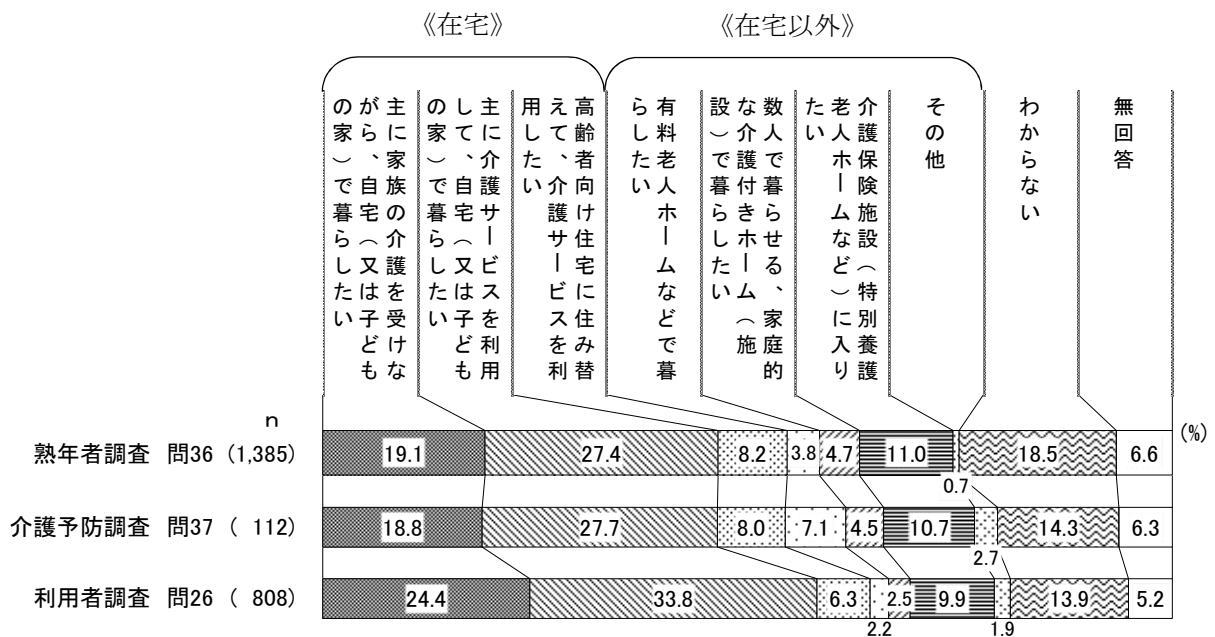
## 6 今後の暮らしや介護について

### (1) 介護が必要になった場合に希望する暮らし方や介護を受けたい場所

《在宅》は、【利用者調査】で64.5%と最も高く、【熟年者調査】と【介護予防調査】で5割台半ばとおおむね並んでいる。

なお、いずれの調査でも、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が高くなっている。

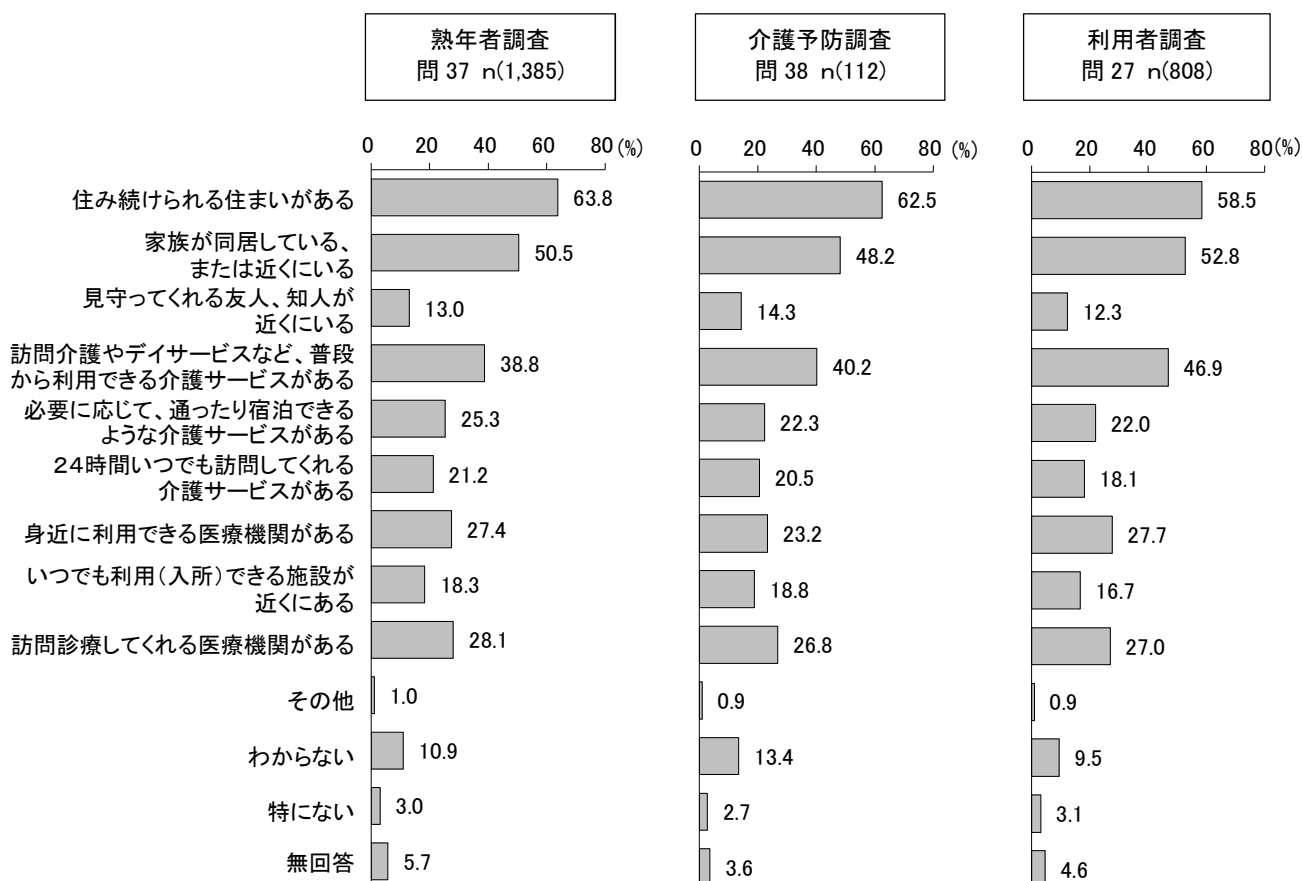
図表6-1 介護が必要になった場合に希望する暮らし方や介護を受けたい場所



## (2) 在宅で暮らし続けるために必要なこと

いずれの調査でも「住み続けられる住まいがある」が最も高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」となっており、上位3項目まで順位は変わらない。「身近に利用できる医療機関がある」と「訪問診療してくれる医療機関がある」が、調査によって順位が前後するものもあるが、上位4項目と5項目である。

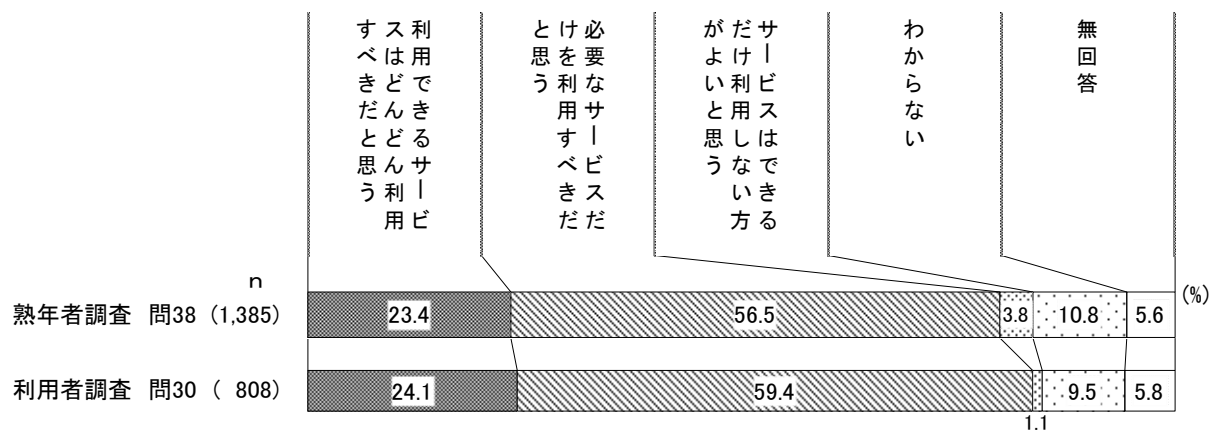
図表6-2 在宅で暮らし続けるために必要なこと（複数回答）



### (3) 介護保険サービスの利用のあり方についての考え

【熟年者調査】、【利用者調査】とも「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が高く、【熟年者調査】で56.5%、【利用者調査】で59.4%となっている。

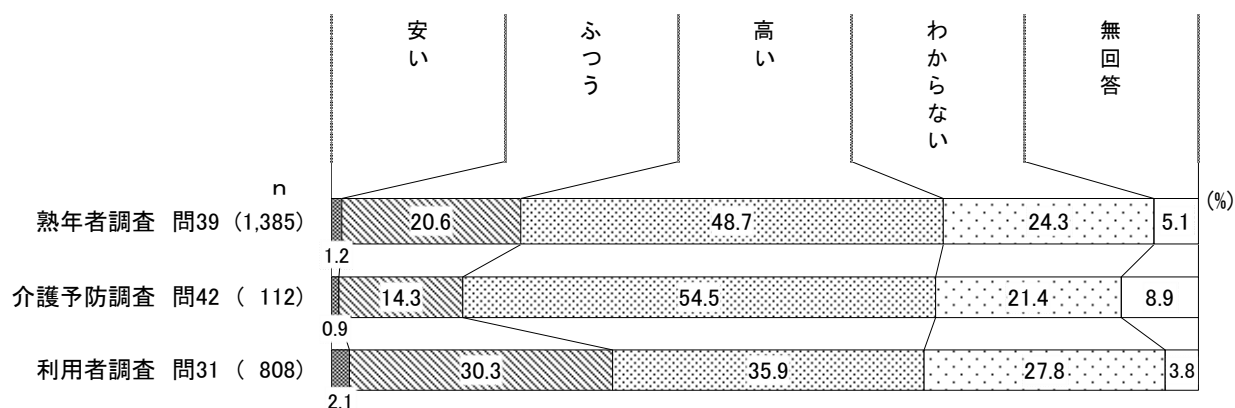
図表6-3 介護保険サービスの利用のあり方についての考え



### (4) 介護保険料についての考え

【熟年者調査】では「高い」が48.7%、【介護予防調査】では「高い」が54.5%と高くなっている。一方、【利用者調査】では、「高い」が35.9%で、「ふつう」が30.3%となっている。

図表6-4 介護保険料についての考え

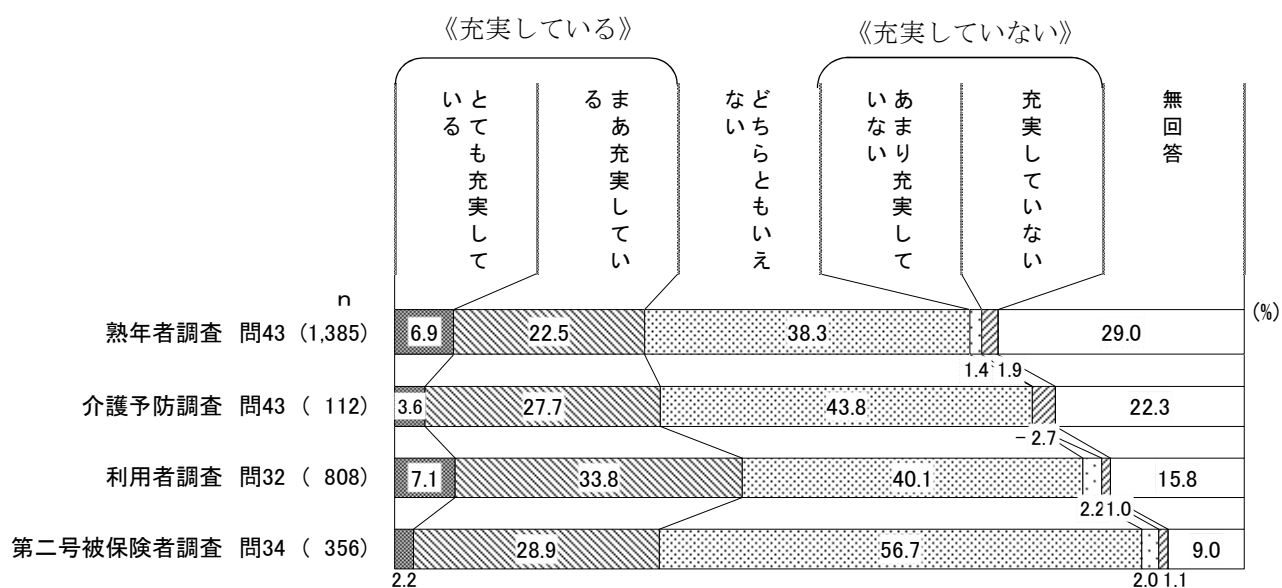


## 7 介護や区の施策について

### (1) 区の熟年者施策の充実度

《充実している》は、【利用者調査】で40.9%と最も高く、それ以外は3割前後とおおむね並んでいる。いずれの調査でも、「どちらともいえない」が高く、特に、【第二号被保険者調査】は56.7%となっている。

図表7-1 区の熟年者施策の充実度



## (2) 今後充実すべき熟年者施策

【熟年者調査】と【介護予防調査】では「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が最も高く、第2位が「介護する家族に対する支援」となっており、それぞれ4割台となっている。

【利用者調査】と【第二号被保険者調査】では「介護する家族に対する支援」が最も高くなっている。第2位は、【利用者調査】が「在宅生活を支える介護サービス」、【第二号被保険者調査】が「熟年者の就労や社会参加の支援」である。

なお、【第二号被保険者調査】では、第3位が「介護を受けられる入所施設の整備」、第4位が「申請や相談がしやすい窓口の整備」となっており、上位4項目までが5割以上である。

図表7-2 今後充実すべき熟年者施策（複数回答）

